

# きべりはむし

第44巻 第2号

2021



「きべりはむし」編集委員会

委員長 池田大  
編集委員 近藤伸一・阪上洸多・末宗安之・中峰空・安岡拓郎

## NPO 法人こどもとむしの会顧問 河合雅雄博士への追悼

足立隆昭<sup>1)</sup>

人間の由来をサルからひも解くサル学者, 世界的権威の霊長類学者, 河合雅雄先生(京都大学名誉教授)が去る5月14日午前11時43分ご逝去されました。謹んでご逝去を悼み, 心からご冥福をお祈り申し上げます。

先生はいつものように朝食を召し上がりご家族に少し休んでくると床に就かれ, 奥様が寝室を訪れ異変に気付かれるという先生らしい大往生のようでした。

河合雅雄先生は, 今西錦司先生らとともにニホンザルの社会構造の解析に個体識別という新しいアプローチでサル学に風穴を開けた京都大学理学部の第一世代を担う業績を残されました。その後ジェーン・グドール博士らとゴリラその他の霊長類研究を先導され世界のサル学の構築と発展に多大な貢献と功績を残されました。

(財)日本モンキーセンターを開設され所長に就任, 兵庫県立人と自然の博物館館長, 兵庫県教育委員会副委員長, 兵庫県森林動物研究センターを設立・初代所長に就任されました。また兵庫県が進める「森構想」実現化のため1996年4月丹波の森公苑初代公苑長に就任され, 人と自然と文化が調和した地域を「丹波の森」と呼び, 大切に守り育てていこうとする兵庫丹波地域の人々の思いを大切に, 兵庫県立丹波の森公苑の礎を築かれました。

2005年6月公苑長退任後は, 名誉公苑長として兵庫丹波の地域づくりの活動を温かく見守り続けてこられました。

2008年1月, 河合雅雄先生に兵庫県佐用昆虫館が閉鎖になる事を告げ, 神戸大学に事務局を置き, 竹田真木生教授・県立人と自然の博物館八木主任研究員を中心に発起人会立ち上げと基本構想を話し, 顧問就任をお願いしました。顧問就任は快諾を受け, 難題もあるだろうが子供たちに自然体験をさせてやって欲しいと激励を受けました。

2013年, 神戸大学滝川会館でNPO法人こどもとむしの会が開催した, 第一回「ムシのお話5つ星レストラン」冒頭の講演で, 河合雅雄先生の昆虫少年のころのお話をいただき, 会場が盛り上がりました。

私事になりますが, 河合雅雄先生にお会いしたのは



河合先生。

2005年2月丹波の森公苑囑託採用最終面接です。「山あそび」を手伝って欲しくないかと問われ咄嗟に「山あそび」がイメージできず「川あそび」は経験がありますと無礼なことを申し上げたことを思い出します。そのほか丹波の森公苑の設立などについて説明を拝聴し, 600mにおよぶ200本のエノキ並木とクヌギ500本の植栽の経緯の説明を聞き「森あそび」(オオムラサキの飼育展示・野外棲息地調査・環境学習)を決意したことを懐かしく思い出します。

河合雅雄先生には公私にわたりご指導・ご鞭撻を受けました。2010年, 福音館の月刊誌「たぐさんのふしぎ」302号「昆虫少年の夢・オオムラサキ舞う森」を共著させていただいたのは私の宝です。

佐用町昆虫館に河合雅雄先生をご案内したかったのですが, 往復約200km, もしもの運転事故の心配から, 実現できなかったことが心残りです。

合掌

<sup>1)</sup> Takaaki ADACHI NPO 法人こどもとむしの会 元理事

## みんなでつなぐ初蝶リレー

久保弘幸<sup>1)</sup>

### はじめに

毎年少しずつ参加してくださる方、特に子どもたちの参加が増えて、初蝶リレーはすっかり春の恒例となりました。虫たちの季節を待つ時期、初蝶リレーを楽しみのひとつとしていただけるなら、これほどうれしいことはありません。また、初蝶リレーを通じて、虫仲間のつながりが広がっていることも、とてもすばらしいことだと思います。

どうかこれからも、初蝶リレーに参加していただき、また、参加する仲間を増やしてゆけるように、よろしくお願いたします。

### 1. 実施方法

これまでと同じく、2月3日（立春）から、4月4日の昆虫館オープン（虫開き）までの間に、初蝶リレー参加者が目撃した蝶の種類、日時、場所を、Eメールで筆者に送るという方法で実施した。筆者は寄せられた情報をとりまとめ、「初蝶ニュース」として週に1回メール配信した。本年の配信回数は9回であった。

期間中、36名の方々から、24種の蝶について情報が寄せられた。なお高橋弘樹さんからは、詳細な調査に基づく多く蛾類の情報を頂戴したが、情報が極めて多いこと、その後も精力的な調査を継続され、多くのデータを蓄積されていることから、近々、高橋さんご自身によ

る報告がなされるものと考え、初蝶リレー開始日以降の本年初見種のみを掲載させていただいた<sup>1)</sup>。高橋さんには、完全な掲載ができなかった点について、この場を借りてお詫び申し上げたい。

頂戴した情報は、後掲の付表1～4にまとめて掲載している。

### 2. 2021年冬の気温傾向と初蝶

#### 【気温傾向】

2021年の冬は、非常な暖冬となった2020年の冬と比較すると寒かったものの、全体としては暖冬と言うべきだろう（図2）。1～2月中旬に、2～3回訪れる場合が多い寒さの底が、1月上旬の1回だけに終わり、その後は順調に暖かさが加わっていったことも今冬の特徴で、寒い冬の前半と、暖かい冬の後半がはっきりと分かれた冬であった（図1）。そのためか、蝶の出現は早く、これまでの早い記録を更新した種が複数あった。

ところで子どもたち、若い方々は、祖父母から「昔の冬はもっと寒かった」という話を聞いたことがあるかもしれない。それは本当だろうか。ここで私が生まれた1958年（63年前）と、1975年（46年前）、2020年、21年の冬の気温を比較してみよう。これは神戸市の、12月1日～1月31日の日平均気温を足していったグ

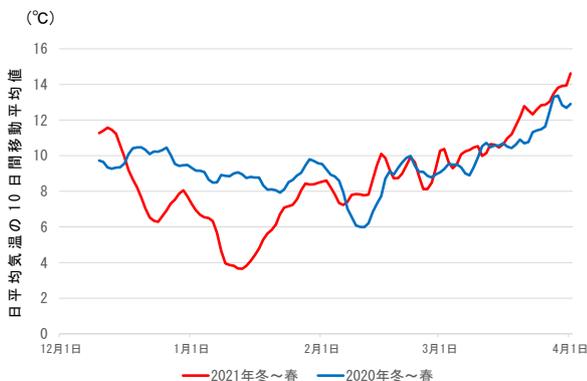


図1 日平均気温の10日間移動平均（神戸市）。

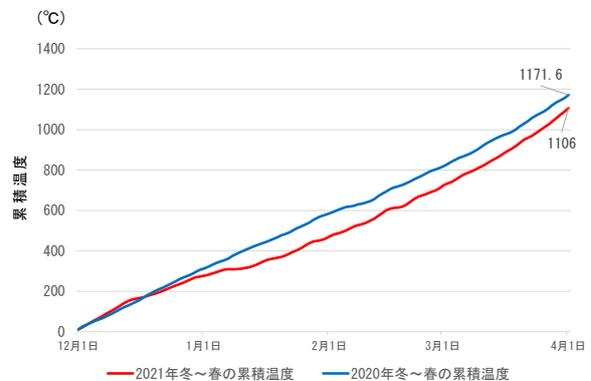


図2 12月～3月の日平均気温の累積（神戸市）。

<sup>1)</sup> Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会

ラフである(図3)。このグラフで見ると、2020年の冬が極めて暖かだったことがわかる。1958年と2021年は大差なく、1975年は非常に寒かったことがわかる。実際、1970年代は寒い年が多く、地球は氷河期に向かっているとされていたほどだ。その後は次第に気温の上昇傾向が顕著になり、現在に至っている。

このような冬の寒さ、暖かさが、昆虫たちにどのような影響を与えるのかは、十分に解き明かされているわけではない。

### 3. 蝶の出現時期 (付表1・2)

#### 【初蝶組】

気温傾向を反映して、蝶の出現は早いものが多かった。初蝶組のうち9種が、これまでの初蝶リレーで最も早い出現となり、1種がこれまでの早い記録と同日、7種が第2位と、観察された24種の70%以上が、非常に早い出現であった。これまで初蝶リレーの期間には記録されることがなかったカラスアゲハが記録されたことも、驚きのひとつである。アゲハチョウも非常に発生が早く、屋外で飼育されていたものが2月22日に羽化という記録は、飼育下という条件はあるにせよ、この段階で屋外でも発育に十分な積算温度が得られたということであり、この冬～春の温かさを物語っている。

暖かさは報告数にも反映されている。例えばアゲハチョウの報告数は、記録的暖冬だった昨年でも7例であったが、今年は3倍近い19例の報告があったほか、昨年は期間中ゼロだったクロアゲハも4例の報告となった。暖かさが蝶の出現に影響するのは、冬期～春期の単純な積算温度ではなく、むしろ気温の底が訪れる時期と回数、その後の気温傾向などであることを示しているものと筆者は考えている<sup>2</sup>。

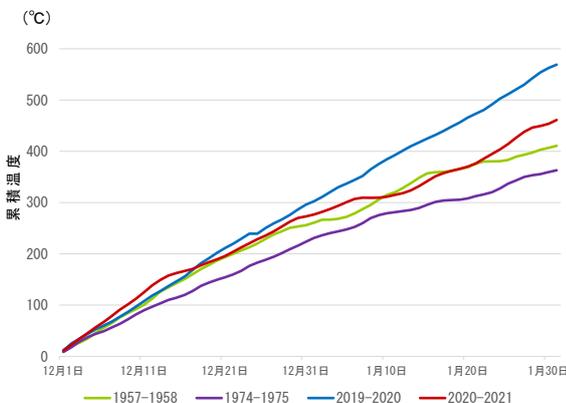


図3 12月～1月の日平均気温の累積 過去と現在(神戸市)。

#### 【越冬組】

1月上旬～中旬に寒さの底があったため、この期間の越冬組の活動は、低調に終わったようである。しかしキタキチョウの活動は2月上旬から次第に活発になり、2月中旬からはテングチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、アカタテハ、キタテハなどの活動が開始された。ヒオドシチョウはこれより遅れて3月以降、ルリタテハも2月半ばに活動は見られたものの、連続して目撃されるようになったのは3月以降であった。イシガケチョウの目撃は他のタテハチョウ類より遅れ、3月半ばになってからである。南方系のこの蝶の気温に対する対応の特徴であろうか。南方系でもう1種注目されるのは、ウラナミシジミの越冬個体である。これについては島崎正美氏が、本誌47-48頁で詳述しておられるので、そちらをご覧ください<sup>3</sup>。

### 4. 初蛾とその他の昆虫 (付表3・4)

蛾に関しては、高橋弘樹氏による調査のほかにも多くの情報を頂戴しており、ここに掲載したものだけで76種94例に上る。筆者の知識不足から、これらの情報を正しく評価できない点は、ご容赦いただきたいのだが、早春にこれほど多くの蛾が活動していることを知り、筆者自身も驚かされた。蝶とは異なり、蛾の活動は厳寒期でもほぼ切れ目なくおこなわれている。フユシャク類のように厳寒期に発生する種もある上、夜間に活動する種が多いことから、その調査は蝶のように容易ではないが、それだけに未知の部分が多くこれからの課題としても非常に興味深い分野でもある。

その他の昆虫も、30種について情報をいただいた。ナナホシテントウの情報数が圧倒的なのは、この種が草むらでよく目立つためであろうか。ナミテントウと比較して、わずかに活動開始が早いようにも見えるが、両種の活動開始気温などを現地で測れば面白いかもしれない。

今年はハムシ類の情報が3種について寄せられた。従来の初蝶リレーでは、あまり情報がなかったグループである。3種とも成虫越冬する種であるが、今年は活動開始が早かったのだろうか。来年以降、少し注目してみたいものである。

### 5. 結語

今年の初蝶リレーでは、単に蝶や昆虫の目撃記録だけでなく、さまざまな生態、行動の観察が同時に寄せられた例が多くなった。

宮地優実さんによる観察では、アカタテハの2日にわたるアセビでの吸蜜、キタテハの求愛と♀の拒否が報告された。他にもキタキチョウの産卵(島岡 優さん)、アゲハチョウによる新芽脇の樹皮への産卵(八木裕樹さ

ん), シロトゲエダシャクの交尾確認 (高橋弘樹さん), スジグロシロチョウのサクラでの吸蜜 (八田康弘さん) など, 早春の昆虫たちのさまざまな行動についていただいた報告は, 初蝶リレーに参加している方々の, 昆虫愛に満ちた観察の目を反映している。

ほかにも観察時刻, 気温などを含めた報告を少なからず頂戴しているが, 筆者の非力さゆえに, 毎年これらを総括できないままでは, 恥じ入る他はない。

初蝶リレーも来年で10年目を迎える。10年間のデータの積み重ねが, どのようなことを教えてくれるのか楽しみである。

情報の確認には注意を払いましたが, 後掲の表中に誤り・漏れがある場合は, すべて筆者の責任です。その場合, お知らせいただければ, 次回初蝶リレーの報告で訂正させていただきますのでよろしくお願いいたします。

註)

1. すでにフユシャク類については, 「相生市「羅漢の里」におけるフユシャク類の定点調査記録」として『きべりはむし』第44巻第1号で報告されている。
2. しかしこうした気温傾向の中でも, ツマグロヒョウモンの出現は遅く, 期間中の確認数も多いとは言えない状況であった。その理由は不明である。
3. 島崎正美・島崎能子 2021 「加古川市で越冬明けウラナミシジミを初記録」『きべりはむし』第44巻第2号 p.47-48



写真2 ギフチョウ。3月31日, 室崎隆春。



写真3 スジグロシロチョウ。3月31日, 八田康弘。



写真4 ベニシジミ。2月14日, 井嶋幸司。



写真1 キタテハ。2月21日, 宮地優実。



写真5 サトキマダラヒカゲ。4月3日, 林太郎。

付表1 初蝶組の目撃記録.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考	
モンシロ チョウ	2月21日	1♂	榑原市	宮武頼夫		
	2月21日		淡路市	井嶋幸司		
	3月6日	1ex.	たつの市	前田啓治		
	3月6日	1♂	榑原市	宮武頼夫		
	3月6日		たつの市	八木裕樹		
	3月7日	4exs.	三田市	島岡 優		
	3月7日		たつの市	宮地優実		
	3月8日	1ex.	姫路市	松下陽子		
	3月8日		たつの市	茂見節子		
	3月9日	6♂	榑原市	宮武頼夫		
	3月10日	1♂	榑原市	宮武頼夫		
	3月11日	2♂	榑原市	林 太郎		
	3月11日	11♂	榑原市	宮武頼夫		
	3月14日		宍粟市	八木裕樹		
	3月14日	3exs.	高砂市	三村剣義		
	3月14日	3exs.	三田市	島岡 優		
	3月15日	10exs.	榑原市	宮武頼夫		
	3月17日	11exs.	榑原市	宮武頼夫		
	3月17日	5exs.	神戸市北区	八田康弘		
	3月18日	1ex.	神戸市垂水 区	清水典子		
	3月19日	5exs.	朝来市	近藤伸一		
	3月20日	1ex.	神戸市垂水 区	清水典子		
	3月21日		たつの市	八木裕樹	卵が孵化	
	3月23日	1ex.	神戸市北区	八田康弘		
	3月24日	3exs.	伊丹市	八田康弘		
	3月24日	1ex.	西宮市	宇野宏樹		
	3月25日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹		
	3月26日	15exs.	榑原市	宮武頼夫		
	3月27日	1ex.	相生市	高橋弘樹		
	3月29日	31exs.	榑原市	林 太郎		
	3月31日	多数	神戸市北区	八田康弘		
	4月1日	20exs.	榑原市	宮武頼夫		
	4月3日	多数	神戸市西区	清水嶋太		
	モンキ チョウ	2月13日	1♂ (?)	太子町	内藤親彦	
		2月13日	1ex.	枚方市	植田義輔	
		2月21日	2exs.	京田辺市	島岡 優	
		2月21日		淡路市	井嶋幸司	
		2月25日	1♀ 1ex.	榑原市	林 太郎	♀はカラスノ エンドウに産卵行 動
		2月28日	1♂	榑原市	宮武頼夫	
		3月4日	2♂ 3♀	榑原市	宮武頼夫	
3月7日		3exs.	三田市	島岡 優		
3月10日		1♂	榑原市	宮武頼夫		
3月14日		3exs.	三田市	島岡 優		
3月15日		8♂	榑原市	宮武頼夫		
3月17日		1ex.	三田市	島岡 優		
3月17日		1♂ 2♀	榑原市	宮武頼夫		
2月2日		1ex.	宝塚市	齋藤泰彦		
3月26日		8exs.	榑原市	宮武頼夫		
3月29日		2exs.	榑原市	林 太郎		
4月1日		15exs.	榑原市	宮武頼夫		
4月3日	1♀	神戸市西区	清水嶋太			
スジグロ シロチョウ	3月10日	1♂	榑原市	宮武頼夫	ヒメオドリコソ ウ吸蜜	
	3月31日	1ex.	神戸市北区	八田康弘	サクラで吸蜜	
	4月1日	2♀	榑原市	宮武頼夫		
ツマキ チョウ	3月20日	3♂	姫路市	内藤親彦		
	3月27日	1♂	三田市	谷野 温		
	3月29日	1ex.	榑原市	林 太郎		
	3月30日	1ex.	宝塚市	齋藤泰彦		
アゲハ チョウ	3月10日	1ex.	姫路市	北詰真奈	羽化不全個体	
	3月11日	1ex.	明石市	久保弘幸		
	3月15日	2exs.	榑原市	林 太郎		
	3月18日	1ex.	榑原市	宮武頼夫	セイヨウタンポ ポで吸蜜	
	3月19日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月20日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月24日	1ex.	伊丹市	八田康弘		
	3月25日	1ex.	宝塚市	齋藤泰彦		
	3月26日	1ex.	西宮市	宇野宏樹		

付表1 続き.

アゲハ チョウ	3月26日	5exs.	榑原市	宮武頼夫		
	3月27日	1ex.	淡路市	井嶋 梢		
	3月29日	1ex.	たつの市	前田啓治		
	3月29日	4ex.	榑原市	林 太郎		
	3月29日	1ex.	榑原市	宮武頼夫		
	3月31日	5exs.	榑原市	宮武頼夫		
	3月31日	1ex.	三田市	室崎隆春		
	4月2日	1ex.	神戸市垂水 区	清水萌花		
	4月2日	産卵	宍粟市	八木裕樹	産卵	
	4月17日	7exs.	榑原市	宮武頼夫		
	キアゲハ	3月17日	2exs.	榑原市	林 太郎	
		3月24日	1ex.	三田市	島岡 優	
		3月26日	2exs.	三田市	谷野 温	
		3月29日	2exs.	榑原市	林 太郎	
3月29日		2exs.	榑原市	宮武頼夫		
4月1日		1ex.	榑原市	宮武頼夫		
クロアゲハ		3月30日	1ex.	たつの市	宮地優実	
	4月2日	1ex.	西宮市	清水萌花		
	4月2日	1♂	榑原市	林 太郎		
	4月2日	1♂	榑原市	宮武頼夫		
カラス アゲハ	4月3日	1ex.	加古川市	島崎正美		
	アオスジ アゲハ	4月2日	1ex.	榑原市	宮武頼夫	
4月8日		1ex.	加古川市	島崎正美		
4月14日		1ex.	神戸市東灘 区	吉田浩史		
ギフチョウ	3月24日	1ex.	三木市			
	3月29日	1ex.	三田市	室崎隆春		
	3月30日	多数	宝塚市	奥村達夫		
	3月30日	4-5exs.	宝塚市	齋藤泰彦		
	3月31日	3exs.	三田市	室崎隆春		
ジャコウ アゲハ	3月23日	1♂	榑原市	池田 大		
	4月1日	8♂ 2♀	榑原市	林 太郎		
	4月2日	1♂	神戸市西区	吉岡朋子		
	4月5日	1♂	高砂市	島崎正美		
	ヤマト シジミ	2月13日	1ex.	高砂市	松口郁来・ 理人	
2月21日		1ex.	淡路市	井嶋幸司		
2月23日		1ex.	太子町	内藤親彦		
3月6日		1ex.	高砂市	三村寛子		
3月15日		1ex.	西宮市	宇野宏樹		
3月15日		2♂	榑原市	宮武頼夫		
3月17日		2♂	榑原市	林 太郎		
3月17日		2♂	榑原市	宮武頼夫		
3月24日		1ex.	伊丹市	八田康弘		
3月29日		4exs.	榑原市	林 太郎		
3月29日		1ex.	三田市	室崎隆春		
3月31日		3♂	榑原市	宮武頼夫		
4月1日		7♂	榑原市	宮武頼夫		
ベニシジミ		2月14日	1ex.	淡路市	井嶋幸司	
	2月23日	1ex.	太子町	内藤親彦		
	3月6日	1ex.	高砂市	石川大馳		
	3月7日		たつの市	宮地優実		
	3月11日	1ex.	榑原市	林 太郎		
	3月14日	3exs.	三田市	島岡 優		
	3月17日	3exs.	三田市	島岡 優		
	3月18日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月27日	1ex.	相生市	高橋弘樹		
	3月29日	2exs.	榑原市	林 太郎		
シルビア シジミ	3月29日	1ex.	榑原市	宮武頼夫		
	3月31日	2exs.	神戸市北区	八田康弘		
	3月31日	3exs.	榑原市	宮武頼夫		
	3月31日	1ex.	三田市	室崎隆春		
	4月1日	44exs.	榑原市	宮武頼夫		
	4月2日	3exs.	加古川市	三村寛子		
	4月3日	1♀	神戸市西区	清水嶋太		
	4月7日	1♂	明石市	久保弘幸		
	ルリシジミ	3月1日	1ex.	神戸市北区	植田義輔	
		3月6日	1♂	榑原市	林 太郎	
		3月10日	1ex.	枚方市	植田義輔	
3月10日		15♂ 1♀	榑原市	宮武頼夫		
3月11日		2exs.	榑原市	林 太郎		

付表1 続き.

ルリシジミ	3月11日	1♂	榎原市	宮武頼夫		
	3月14日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月13日	1♂	三木市	近藤伸一		
	3月17日	2exs.	三田市	八田康弘		
	3月18日	1♀	神戸市垂水区	清水典子		
	3月19日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月20日	5exs.	枚方市	植田義輔		
	3月20日	11exs.	三田市	島岡 優		
	3月23日	2♂	神戸市北区	八田康弘		
	3月23日	1ex.	宝塚市	齋藤泰彦		
	3月26日	1♂	榎原市	宮武頼夫		
	3月27日	1ex.	神戸市北区	八田康弘		
	3月29日	1ex.	榎原市	林 太郎		
	4月1日	3♀	榎原市	宮武頼夫		
	ツバメシジミ	3月14日	2exs.	高砂市	三村剣義	
		3月18日	4exs.	三田市	島岡 優	
4月1日		1♂	榎原市	宮武頼夫		
コツバメ	2月28日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月20日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月29日	1ex.	榎原市	林 太郎		
	3月30日		宝塚市	奥村達夫		
	3月30日		宝塚市	齋藤泰彦		
	3月31日	2exs.	三田市	室崎隆春		
トラフシジミ	4月1日	3exs.	三田市	島岡 優		
	4月1日	3exs.	三田市	島岡良治		
	4月2日	1ex.	加古川市	松口理人		
ツマグロヒョウモン	3月30日		加古川市	島崎正美		
サトキマダラヒカゲ	4月1日	1♂	榎原市	宮武頼夫		
サトキマダラヒカゲ	4月3日	1ex.	榎原市	林 太郎		
ヒメウラナミジャノメ	3月29日	1ex.	榎原市	林 太郎		
ミヤマセセリ	4月1日	3exs.	榎原市	宮武頼夫		
ミヤマセセリ	3月20日	6exs.	三田市	島岡 優		
	3月23日	4-5exs.	宝塚市	齋藤泰彦		
	3月30日	多数	宝塚市	奥村達夫		
	3月31日	1ex.	三田市	室崎隆春		
飼育個体等						
アゲハチョウ	2月22日	1ex.	榎原市	島 啓子	屋外 宮武頼夫氏より	
	3月8日	1ex.	榎原市	島 啓子	屋外 宮武頼夫氏より	
クロアゲハ	2月20日	1ex.	たつの市	宮地優実 (確認)	屋内蛹化個体	

付表2 越冬組の目撃記録.

越冬組 早期活動					
種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
テングチョウ	1月21日	1ex.	神戸市北区	八田康弘	
越冬組					
種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
キタキチョウ	2月5日	1♂	府中市	河村幸子	
	2月6日	1♀	三田市	島岡 優	
	2月12日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
	2月13日	1ex.	枚方市	植田義輔	
	2月13日	1♂?	太子町	内藤親彦	
	2月13日	1ex.	高砂市	東 輝弥	
	2月13日	3♂2♀	榎原市	宮武頼夫	
	2月13日	4exs.	高砂市	松口郁来・理人	
	2月13日	1ex.	明石市	松岡 想	
	2月14日	1♂2♀	三田市	島岡 優	
	2月14日	1♂	淡路市	井嶋幸司	
	2月21日	多数	京田辺市	島岡 優	
	2月21日	5exs.	上郡町	高橋弘樹	

付表2 続き.

キタキチョウ	2月22日	1♂	榎原市	宮武頼夫	
	3月11日	4♂	榎原市	宮武頼夫	
	3月14日	1ex.	高砂市	三村剣義	
	3月15日	6♂2♀	榎原市	宮武頼夫	
	3月17日	10♂3♀	榎原市	宮武頼夫	
	3月20日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月20日	4exs.	枚方市	植田義輔	
	3月24日	3exs.	伊丹市	八田康弘	
	3月26日	17exs.	榎原市	宮武頼夫	
	3月27日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
	3月29日	42exs.	榎原市	林 太郎	
	3月29日	1ex.	西宮市	宇野宏樹	
	3月31日	1ex.	神戸市北区	八田康弘	
	3月31日	多数	三田市	島岡 優	産卵多数
	3月31日	2exs.	三田市	室崎隆春	
	4月1日	34exs.	榎原市	宮武頼夫	
4月1日	多数	三田市	島岡良治	産卵多数	
ツマグロキチョウ	3月27日	1♀(?)	加古川市	島崎正美	
	3月30日	1ex.	加古川市	島崎正美	
	4月2日	3exs.	加古川市	松口郁来	
アカタテハ	2月13日	1ex.	たつの市	北詰真奈	
	2月21日	複数	京田辺市	島岡 優	
	3月4日		たつの市	宮地優実	アセビで吸蜜
	3月7日	1ex.	たつの市	宮地優実	アセビで吸蜜
	3月11日	1ex.	榎原市	林 太郎	
	3月14日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月14日	1exs.	河南町	宮武頼夫	
	3月17日	1ex.	榎原市	宮武頼夫	
	3月19日	2exs.	三田市	島岡 優	
	3月20日	1ex.	枚方市	植田義輔	
	3月20日	2exs.	三田市	島岡 優	
	3月29日	2exs.	榎原市	林 太郎	
3月29日	2exs.	三田市	室崎隆春		
4月1日	2exs.	榎原市	宮武頼夫		
4月2日	1ex.	榎原市	宮武頼夫		
ヒメアカタテハ	3月27日	1ex.	三田市	島岡 優	
キタテハ	2月13日	2♂	高砂市	東 輝弥	
	2月13日	1ex.	明石市	久保弘幸	
	2月14日	2exs.	高砂市	三村剣義・寛子	
	2月14日	1ex.	榎原市	林 太郎	
	2月14日	12exs.	三田市	島岡 優	
	2月21日	多数	京田辺市	島岡 優	
	2月21日	1♂1♀	たつの市	宮地優実	求愛を♀が拒否
	2月21日	5exs.		高橋弘樹	
	2月22日	5exs.	榎原市	宮武頼夫	
	3月1日	5exs.	神戸市北区	植田義輔	
	3月4日	1ex.	榎原市	宮武頼夫	
	3月14日	1ex.	高砂市	三村剣義	
	3月15日	2exs.	榎原市	宮武頼夫	
	3月17日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月18日	2exs.	三田市	島岡 優	
	3月19日	1ex.	朝来市	近藤伸一	
	3月26日	2exs.	榎原市	宮武頼夫	
4月1日	1ex.	榎原市	宮武頼夫		
ルリタテハ	2月14日	1ex.	たつの市	八木裕樹	
	3月14日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月17日	2exs.	榎原市	林 太郎	
	3月17日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月18日	1ex.	三田市	島岡 優	
	3月20日	1ex.	枚方市	植田義輔	
	3月20日	3exs.	三田市	島岡 優	
	3月23日	1ex.	神戸市北区	八田康弘	
	3月24日	1ex.	伊丹市	八田康弘	
	3月26日	1ex.	榎原市	宮武頼夫	
3月26日	1ex.	相生市	高橋弘樹		
3月27日	1ex.	淡路市	井嶋幸司		
3月29日	3exs.	榎原市	林 太郎		
3月31日	1ex.	榎原市	宮武頼夫		
4月1日	1ex.	榎原市	宮武頼夫		
4月2日	多数	加古川市	三村剣義		
ヒオドシチョウ	3月10日	2exs.	榎原市	宮武頼夫	

付表2 続き.

ヒオドシ チョウ	3月11日	2exs.	檀原市	林 太郎		
	3月18日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月20日	1ex.	枚方市	植田義輔		
	3月20日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月26日	1ex.	檀原市	宮武頼夫		
	3月27日	3exs.	神戸市北区	八田康弘		
	3月29日	3exs.	檀原市	林 太郎		
	3月31日		三田市	島岡 優	産卵	
	3月31日	2exs.	三田市	室崎隆春		
	4月1日	5exs.	檀原市	宮武頼夫		
4月2日	4exs.	檀原市	宮武頼夫			
イシガケ チョウ	3月17日	1ex.	檀原市	林 太郎		
	3月29日	1ex.	檀原市	林 太郎		
	4月1日	1ex.	加古川市	島崎正美		
クロコノマ チョウ	2月22日	1ex.	豊中市	梅田博久		
	3月29日	1ex.	檀原市	林 太郎		
テングチョウ	2月14日	1ex.	高砂市	三村 剣義・ 寛子		
	2月21日	1ex.	たつの市	茂見節子		
	2月21日	1ex.	神戸市北区	久保嘉晴		
	2月21日	1ex.	赤穂市	高橋弘樹		
	2月21日	1ex.	姫路市	岡本光正		
	2月22日	1ex.	豊中市	梅田博久		
	2月22日	1ex.	檀原市	宮武頼夫		
	2月23日	1ex.	西宮市	坂井一太・ 真理		
	3月6日	1ex.	たつの市	前田啓治		
	3月6日		たつの市	八木裕樹		
	3月6日	多数	上郡町	茂見節子		
	3月10日	4exs.	檀原市	宮武頼夫		
	3月11日	多数	檀原市	林 太郎		
	3月14日	複数	たつの市	北詒涼太		
	3月14日	2exs.	三田市	島岡 優		
	3月17日	2exs.	三田市	八田康弘		
	3月17日	2exs.	檀原市	宮武頼夫		
	3月20日	1ex.	三田市	島岡 優		
	3月20日	6exs.	枚方市	植田義輔		
	3月24日	3exs.	伊丹市	八田康弘		
	3月26日	4exs.	相生市	高橋弘樹		
	3月26日	7exs.	檀原市	宮武頼夫		
	3月27日	多数	神戸市北区	八田康弘		
	3月27日	1ex.	たつの市	宮地優実		
	3月29日	1ex.	三田市	室崎隆春		
	3月29日	18exs.	檀原市	林 太郎		
	3月29日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹		
	4月1日	6exs.	檀原市	宮武頼夫		
	ムラサキ シジミ	2月13日	2ex.	高砂市	松口郁来・ 理人	
		2月14日	1♀	檀原市	宮武頼夫	
2月21日		複数	京田辺市	島岡 優		
3月10日		1ex.	檀原市	宮武頼夫		
3月20日		1ex.	三田市	島岡 優		
3月26日		6exs.	檀原市	宮武頼夫		
4月1日		1ex.	檀原市	宮武頼夫		
ウラギン シジミ	2月14日	1ex.	檀原市	林 太郎		
	2月22日	1♂	檀原市	宮武頼夫		
	3月26日	1ex.	檀原市	宮武頼夫		
	3月29日	5exs.	檀原市	林 太郎		
	3月31日	1ex.	檀原市	宮武頼夫		
	4月1日	1ex.	檀原市	宮武頼夫		
ウラナミ シジミ	3月30日	2♂	加古川市	島崎正美・ 島崎能子	本誌 47-48 頁所 収	

付表3 蛾の目撃記録.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
ホシオビキリガ	2月13日	複数	上郡町	高橋弘樹	
カシワオビキリガ	2月13日	複数	上郡町	高橋弘樹	
クロチャマダラキリガ	2月13日	複数	上郡町	高橋弘樹	
アカバキリガ	3月19日	1ex.	上郡町	高橋弘樹	
ミツボシキリガ	2月7日	1ex.	上郡町	高橋弘樹	
ホソバキリガ	2月5日	1♂	相生市	高橋弘樹	
カシワキリガ	4月3日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
マツキリガ	3月13日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
	3月27日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹	
クロスジキリガ	3月26日	1ex.		高橋弘樹	
	3月29日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹	
カギモンキリガ	3月31日	1ex.	西宮市	宇野宏樹	
カバキリガ	2月21日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
	3月10日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
ホシオビキリガ	2月21日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
イチゴキリガ	2月22日	複数	たつの市	高橋弘樹	
ヒロバモクメキリガ	1月21日	1ex.		高橋弘樹	
スモモキリガ	3月1日	複数	相生市	高橋弘樹	
チャイロキリガ	3月1日	複数	相生市	高橋弘樹	
	3月10日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹	
シロヘリキリガ	3月1日	複数	相生市	高橋弘樹	
クロテンキリガ	3月19日	複数	上郡町	高橋弘樹	
スギタニキリガ	3月19日	1ex.	上郡町	高橋弘樹	
クロスジキリガ	3月26日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
ハガタナミシャク	3月31日	1ex.	上郡町	高橋弘樹	
ギフウスキナミシャク	2月22日		相生市	高橋弘樹	
	3月7日		姫路市	岡本光正	
モンキナミシャク	2月28日	複数	相生市	高橋弘樹	
アカモンナミシャク	3月2日	複数	相生市	高橋弘樹	
ミカツナミシャク	3月5日	複数	相生市	高橋弘樹	
ソトシロオビナミシャク	3月4日	複数	相生市	高橋弘樹	
ナカモンキナミシャク	3月19日	複数	上郡町	高橋弘樹	
チャオビコバナナミ シャク	3月18日	複数	相生市	高橋弘樹	
ウスベニスジナミシャク	3月19日	複数	上郡町	高橋弘樹	
シモフリトゲ	2月5日	1♂1♀	相生市	高橋弘樹	
エダシャク	2月11日		神戸市東 灘区	宇野宏樹	
シロトゲエダシャク	3月2日	複数	相生市	高橋弘樹	交尾個体 確認
シロテンエダシャク	3月19日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
モンシロツマキリエダ シャク	3月30日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
クロモンキリバエダ シャク	2月13日	複数	相生市	高橋弘樹	
オカモトトゲ	2月21日	6exs.	相生市	高橋弘樹	
エダシャク	2月21日	1ex.	姫路市	久後地平	
トビモンオオエダシャク	2月21日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
ホソバトガリ	2月21日	2exs.	相生市	高橋弘樹	
エダシャク	3月10日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
シロテンエダシャク	2月22日	複数	たつの市	高橋弘樹	
ヒロバトガリ	3月2日	複数	相生市	高橋弘樹	
エダシャク	3月10日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹	
チャオビトビモン エダシャク	3月2日	複数	相生市	高橋弘樹	
	3月7日		宝塚市	宇野宏樹	
ハスオビエダシャク	3月5日	複数	相生市	高橋弘樹	
	3月7日		姫路市	岡本光正	
ミスジツマキリ エダシャク	3月4日	複数	相生市	高橋弘樹	
フチグロトゲ エダシャク	3月11日	多数	豊岡市	高橋弘樹	
ヒゲマダラエダシャク	3月14日	複数	相生市	高橋弘樹	
ウスバキエダシャク	3月15日	1ex.	相生市	高橋弘樹	
フタオビエダシャク	3月18日	複数	相生市	高橋弘樹	
ニッコウエダシャク	3月19日	複数	相生市	高橋弘樹	
アトジロエダシャク	3月19日	複数	上郡町	高橋弘樹	
フタナミトビ ヒメシャク	3月22日		淡路市	井嶋幸司	

付表3 続き.

ノヒラトビモン	3月30日	1ex.	相生市	高橋弘樹
シャチホコ				
オオアオシャチホコ	3月19日	複数	相生市	高橋弘樹
アオシャチホコ	3月19日	1ex.	上郡町	高橋弘樹
ウスキヒゲナガ	3月29日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹
オオシモフリズメ	3月29日	1ex.	相生市	高橋弘樹
	4月1日	1♂	宝塚市	宇野宏樹
ホシヒメホウジャク	3月22日		淡路市	井嶋幸司
エゾヨツメ	3月11日	1♂	相生市	高橋弘樹
	3月19日	1♂	上郡町	高橋弘樹・三村ファミリー
	4月1日	2♂1♀	宝塚市	宇野宏樹
ハイイロフユハマキ	2月7日	2♂	上郡町	高橋弘樹
ハマキガSP	2月13日	1ex.	上郡町	高橋弘樹
ハマキガSP	2月13日	1ex.	上郡町	高橋弘樹
キノカワガ	3月1日	複数	相生市	高橋弘樹
ナンキンキノカワガ	3月21日		宍粟市	八木裕樹
ブライヤキリバ	3月5日	複数	相生市	高橋弘樹
マエアカスカシノメイガ	3月5日	複数	相生市	高橋弘樹
イボタガ	3月11日	1ex.	串本町(大島)	坂本貴海
	3月12日	1ex.	相生市	高橋弘樹
	3月19日	1ex.	上郡町	高橋弘樹
マイコトラガ	3月7日		宝塚市	宇野宏樹
	3月10日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹
	3月13日	1ex.	相生市	高橋弘樹・三村剣義
	3月22日		淡路市	井嶋幸司
フクラスズメ	3月13日	1ex.	相生市	高橋弘樹
クラマトガリバ	3月14日	複数	相生市	高橋弘樹
マユミトガリバ	3月14日	複数	相生市	高橋弘樹
ホシボシトガリバ	3月19日	複数	上郡町	高橋弘樹
マユミトガリバ	3月19日	複数	上郡町	高橋弘樹
ウスベニトガリバ	3月19日	1ex.	上郡町	高橋弘樹
サカハチトガリバ	3月24日	1ex.	相生市	高橋弘樹
	3月27日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹
ウスギヌカギバ	3月17日	1ex.	相生市	高橋弘樹
テングアツバ	3月19日	1ex.	上郡町	高橋弘樹
	3月22日		淡路市	井嶋幸司
キハラゴマダラヒトリ	3月22日		淡路市	井嶋幸司

付表4 続き.

カゲロウ・トビケラの仲間					
ヒロバカゲロウSP	1月22日		相生市	高橋弘樹	
ヒゲナガカワトビケラ	2月14日		市川町	久後地平	
	3月30日		相生市	高橋弘樹	
ラクダムシ	4月3日	2exs.	宝塚市	宇野宏樹	幼虫
バッタの仲間					
ツチイナゴ	2月6日		枚方市	植田義輔	
キンヒバリ	3月27日		相生市	高橋弘樹	鳴き声
クビキリギス	2月22日	1ex.	朝来市	久後地平	
	4月3日	1♂	枚方市	植田義輔	鳴き声
ヤブキリ	3月21日		たつの市	八木裕樹	
甲虫の仲間					
ナミテントウ	2月21日	1ex.	西宮市	坂井一太・真理	
	3月10日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
ナナホシテントウ	2月13日	5ex.	高砂市	東輝弥	
	2月13日	複数	高砂市	松口郁来・理人	
	2月14日	1ex.	高砂市	東輝弥	
	2月20日	1ex.	神戸市西区	久保嘉晴	
	2月21日	1ex.	西宮市	坂井一太・真理	
	3月1日	1ex.	神戸市北区	植田義輔	
	3月6日	2exs.	高砂市	石川大馳	
	3月22日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
	3月20日	1ex.	枚方市	植田義輔	
	3月21日	1ex.	宍粟市	八木裕樹	終齢幼虫
カメノコテントウ	3月5日		相生市	高橋弘樹	
オオツチハンミョウ	1月16日	1ex.	相生市	石川ファミリー・三村ファミリー・高橋弘樹	
マルガムシ	1月11日	4exs.	宝塚市	宇野宏樹	
コカブト	4月3日	1♂	上郡町	高橋弘樹	
クロシテムシ	4月3日	1ex.	上郡町	高橋弘樹	
サビカミキリsp.	3月27日	1ex.		高橋弘樹	
Necrodes 属sp.	4月3日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
ウリハムシ	3月7日		相生市	高橋弘樹	
ヤナギハムシ	3月14日	2exs.	高砂市	三村剣義	
イタドリハムシ	3月1日	1ex.	神戸市北区	植田義輔	

付表4 その他の昆虫の目撃記録.

種名	確認日	確認数	確認場所	確認者	備考
ハチの仲間					
ハナバチ類SP	2月7日	1ex.	神戸市西区	久保嘉晴	
ニホンミツバチ	2月14日		三田市	島岡 優	
キムネクマバチ	4月2日	多数	加古川市	三村寛子	
ハエ・アブの仲間					
ツマグロキンバエ	2月7日		樺原市	宮武頼夫	
ハナアブ	2月14日		三田市	島岡 優	
ピロウド	3月14日		三田市	島岡 優	
ツリアブ	3月20日	5exs.	枚方市	植田義輔	
ハマダラハルカ	3月30日	1ex.	宝塚市	宇野宏樹	
セミ・カメムシの仲間					
ベニモンマキバサガメ	1月27日		相生市	高橋弘樹	
キマダラカメムシ	3月8日	1ex.	明石市	久保弘幸	
クロスジホソサジヨコバイ	2月11日		神戸市東灘区	宇野宏樹	
ハルゼミ	3月30日		三田市	島岡 優	鳴き声



写真6 オカモトトゲエダシャク. 2月21日, 高橋弘樹.

## 武田尾溪谷及びその周辺で得られた興味深い昆虫類

宇野宏樹<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

筆者は武田尾溪谷で2011年～2020年にかけて採集を行った。本地での採集品のうち、興味深い昆虫(市内初記録種やレッドリスト掲載種その他)を記録しておきたい。本記録が環境調査などの助けとなれば幸いである。

### 2. 採集方法等

採集方法は、主にJR武田尾駅周辺において、木々のルッキングやスイーピングなどにより行った。また、蛾類や一部の甲虫については夜間街灯に飛来した個体を採集している他、林道にて糖蜜採集を行った。

本報告のデータのもととなる標本はすべて筆者が採集・保管している。またJR武田尾駅付近は宝塚市と西宮市の境界に位置し、遺憾ながらどちらの市かわからなくなった記録があるため、それらの記録は「兵庫県南東部武田尾」として扱った。

### 各種解説

#### 双翅目

#### ハルカ科

#### ハマダラハルカ *Haruka elegans*

2exs., 兵庫県南東部 武田尾, 6. IV. 2016.

糖蜜採集中に木に静止していた個体等を採集した。兵庫県版レッドリスト2012に要調査種として掲載されており、県内では神戸市、宝塚市、川西市、佐用町で記録されている(兵庫県, 2012c)。

#### ハナアブ科

#### トゲアリスアブ *Microdon oitanus*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 20. V. 2020.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 28. V. 2020.

すべての文献を参照できたとは思えないので、見落としはあるかもしれないが、本種は「宝塚の昆虫 VI」及び「宝塚の昆虫 VII」には掲載されておらず、宝塚市での記録はあまり多くないと思われる。いずれの記録も、昼間林道を飛翔していた個体を採集したものである。武

田尾溪谷では、他にアリスアブ *Microdon japonicus* も見られる。

#### *Volucella* 属の一種

目撃, 兵庫県宝塚市切畑, 26. VII. 2012.

武庫川付近に仕掛けたノムラホイホイを回収していた際に赤茶色のハナアブをトラップ内で見ているが、逃がしてしまった。ニトベベッコウハナアブまたはスズキベッコウハナアブと思われるが、両種とも兵庫県内での近年の記録は少ない(吉田・八木, 2012)ので、再調査が望まれる。

#### デガシラバエ科

#### オオハチモドキバエ *Adapsilia luteola*

1ex.(図1), 兵庫県宝塚市切畑 (JR武田尾駅付近) 8. VII. 2015.

昼間、樹木に静止している個体を採集した。似た種にフトハチモドキバエ *Adapsila fusca* があるが、翅の黒色紋が少なく、腿節が黄色であり、複眼が大きいことから本種と同定した。頭部の写真を図1に示す。本種は全国的に記録の少ない種とされている(京都府, 2015)。



図1 オオハチモドキバエ

<sup>1)</sup> Hiroki UNO 兵庫県西宮市

## 膜翅目

### ミツバチ科

#### スジボソフトハナバチ *Amegilla florea*

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町 武田尾, 7. VIII. 2019.

花に飛来していた個体を採集した。本種は兵庫県内では神戸市北区山田町藍那などで記録されている(吉田・八木, 2016)。他の記録として, 筆者は2021年7月24日に西宮市甲山町で本種を1頭撮影している。

## 直翅目

### マツムシ科

#### クチキコオロギ *Duolandrevus ivani*

1ex. (図2), 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 4. XI. 2019.

本種は兵庫県版レッドリスト2012ではCランクに掲載されており, たつの市, 洲本市, 南あわじ市, 淡路市で記録されている(兵庫県, 2012b)他, 武田尾溪谷ではNPO法人シニア自然大学校研究部・昆虫科(2019)による記録がある。本記録は, 糖蜜採集中に2頭確認され, うち1頭を採集したものである。

## 半翅目

### ナガカメムシ科

#### セスジナガカメムシ *Arocatus melanostoma*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 1. VII. 2018.

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町 武田尾, 20. V. 2020.

本種は兵庫県内では兵庫県川西市一庫唐松一庫ダムで記録があるが, 県内での記録は多くないと思われる。なお本個体は林縁のスイーピング及びビーティングで採集したものである。

#### アカヘリナガカメムシ *Arocatus sericans*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 1. VII. 2018.

2exs., 兵庫県西宮市塩瀬町 武田尾, 20. V. 2020.

前種と同じく, 林縁のスイーピング及びビーティングで得た。兵庫県での記録はあまり多く無いと思われる。

## 鞘翅目

### コブスジコガネ科

#### ヒメコブスジコガネ *Trox opacotuberculatus*

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町名塩 武田尾, 2. IV. 2016.

似た種にムツコブスジコガネなどがあるが, 本個体は前胸背側縁が2波曲すること, 上翅に深い条溝がないことから, ヒメコブスジコガネ *Trox opacotuberculatus* と同定した。本個体は, キブシのスイーピングにより得たものである。なお, 本種は兵庫県既記録種である(塚本ほか, 2009)。



図2 クチキコオロギ

### コガネムシ科

#### コカブトムシ *Eophileurus chinensis*

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町 武田尾, 28. V. 2020.

神戸版レッドデータ2015に要調査種として掲載されているため, 上記の記録を報告する。昼間, 林縁を飛翔していた個体を採集した。

### ハンミョウ科

#### アイヌハンミョウ *Cicindela gemmata*

5exs., 兵庫県南東部 武田尾, 17. V. 2014.

2exs., 兵庫県南東部 武田尾, 29. IV. 2016.

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町 武田尾, 28. V. 2020.

武田尾溪谷での記録はすでに知られている(森, 2019)が, レッドリスト掲載種であることを考慮し, 筆者の知る近年の状況を報告する。2014年および2016年の記録は武庫川河川敷を飛翔していた個体を採集したもので, 2020年の記録は林縁を歩行していた個体を採集したものである。

### カミキリムシ科

#### シロスジドウボソカミキリ *Pothyne annulata*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 18. VI. 2019.

広葉樹のビーティングにより得た。本種は, 「相生, 西宮, 洲本市, 浜坂町(現新温泉町)などで, ごく少数の記録がある」とされている資料があり(岡田, 2011), 県下での記録が少ないと思われるため, 武田尾での記録を報告しておきたい。

#### エゾナガヒゲカミキリ *Hirtaeschopalaea nubila*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 18. VI. 2019.

林縁の植物体の上に静止していた個体を採集した。

宝塚市 (1993) によると, 本種は売布ガ丘で灯火に飛来した 1 例しか記録がないとされているため, 上記の記録を報告しておきたい.

### タマムシ科

#### シラホシナガタマムシ *Agrilus decoloratus*

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町名塩 武田尾, 4. VIII. 2012.

本種はトオヤマシラホシタマムシに似るが, 前翅端がとがることから, シラホシナガタマムシと同定した. 積まれた丸太の上に来ていた個体を採集した. 県下では神戸市, 宍粟郡赤西 (現: 宍粟市波賀町), 養父郡氷の山 (現: 養父市) などで記録されている (高橋, 1998c).

#### オオムツボシタマムシ *Chrysobothris ohbayashii*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 20. VII. 2015.

昼間, 武田尾橋の手すりの上でひっくり返っていた個体を採集した. 県下では神戸市, 姫路市, 氷上郡 (現: 丹波市), 八鹿町 (現: 養父市), 美方郡温泉町 (現: 新温泉町), 多可郡多可町で記録されている (高橋, 1998b; 松尾, 2020).

### ハムシ科

#### クロオビツツハムシ *Physosmaragdina nigrifrons*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 13. VIII. 2012.

残念なことに採集時の記憶がない. 県下では神戸市, 夢前町, 神埼町, 龍野市 (現: たつの市), 相生市で記録されている (高橋, 1998a).

#### タテスジキツツハムシ *Cryptocephalus nigrofasciatus*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 1. VII. 2018.

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 18. VI. 2019.

すべて林縁のスイーピングにより得た記録である. 県下での記録は神戸市, 猪名川町, 柏原町 (現: 丹波市柏原町), 日高町 (現: 豊岡市), 関宮町 (現: 養父市), 浜坂町 (現: 新温泉町), 村岡町 (現: 香美町) などで記録されている.

#### ヨツモンクロツツハムシ *Cryptocephalus nobilis*

1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町付近. 4. VI. 2015.

林縁のルッキングにより得た. 県下では宝塚市, 神戸市, 篠山町 (現: 丹波篠山市), 日高町 (現: 豊岡市) などで記録されている (高橋, 1998a; 宇野, 2021).

### ヒゲナガゾウムシ科

#### ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 4. VIII. 2012.

残念なことに採集時の記憶がない. 県下では, 宝塚市, 美囊郡吉川町 (現: 三木市), 養父郡関宮町 (現: 養



図3 ニッコウエダシャク (黒化型)

父市), 美方郡, 西脇市, 神崎郡などで記録がある (佐藤, 1988; 宝塚市, 1993a; 永幡, 1994; 永幡, 1995; 宇野, 2021).

### 鱗翅目

#### セセリチョウ科

#### ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 1. VII. 2018.

JR 武田尾駅から川を渡らずに西に向かったところにある林道の開けた部分で得た. 本種は大阪府レッドリスト 2014 で準絶滅危惧 (NT) に指定されているため, 隣接する兵庫県の近年の記録として, 報告しておきたい.

#### タテハチョウ科

#### ミスジチョウ *Neptis philyra*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 28. V. 2020.

JR 武田尾駅から川を渡らずに西に向かったところにある林道で得た. 本種は神戸版レッドデータ 2015 で C ランクに掲載されている. 筆者は宍粟市でも本種を採集しているので, 併せて報告しておきたい.

1ex., 兵庫県宍粟市波賀町音水溪谷, 11. VI. 2016.

### カギバガ科

#### ニッコウトガリバ *Epipsestis nikkoensis*

1ex., 兵庫県南東部武田尾. 15. XI. 2015.

残念なことに, 採集時の状況は覚えていない. 高島 (1999) によると, 本種は兵庫県では川西市, 南淡町などから記録があるが, 調査が不十分とされ, 注目種として扱われている. 本種は秋季の糖蜜に飛来するため, キリガの調査の際などに注意すれば, 兵庫県内で新たな産地が見つかる可能性はあると思われる.

### シャクガ科

#### ニッコウエダシャク *Lassaba nikkonis* (黒化型)

1ex. (図3), 兵庫県西宮市塩瀬町名塩 武田尾, 23. III. 2016.

夜間街灯の近くの岩に静止していた個体を採集した.

本種の完全に黒化した個体については日本産蛾類標準図鑑 I に記述がある (岸田, 2011) が, 具体的な採集例を示した文献は多くないと思われるので, 上記の記録を報告する。

#### トギリフユエダシヤク *Protalcis concinnata*

1 ♀, 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 13. III. 2015.

夜間, 糖蜜採集中に木にとまっていた個体を採集した。本種は武田尾溪谷では既記録である (犬飼, 2014) が, 本種は兵庫県では記録は多くないと思われるので発生状況の 1 例として記録しておきたい。なお, 宇野 (2020) ではゆずり葉台緑地公園の本種の記録を「宝塚市からは初記録と思われる」と書いたが, これは筆者の見落としで, 宝塚市の記録は既に前述の犬飼 (2014) で記録されていた。

### ヤガ科

#### マルシラホシアツバ *Edessena gentiusalis*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 10. VI. 2015.

糖蜜に飛来した個体を採集した。本種は, 藤江ほか (2011) で「その他記録の少ない要注目種」の 1 つに挙げられているため, 武田尾の記録を報告しておきたい。

#### ヤマトホソヤガ *Lophoptera hayesi*

1ex., 兵庫県南東部 武田尾, 20. IX. 2015.

灯火に飛来した個体を採集した。本種は, 岸田 (2011) で「産地は局地的で少ない種である」とされているため, 武田尾の記録を報告しておきたい。なお, 宝塚市では 1984 年に宝塚大橋で記録がある (宝塚市, 1993b)。

#### アオバセダカヨトウ *Mormo muscivirens*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 10. VI. 2015.

糖蜜に飛来した個体を採集した。兵庫県下では, 「少ない種で, 西播地域からは記録が無く, その他の地域でも産地は点在し採集例も少ない」とされている (高島,

2002)。県下では, 神戸市, 川西市, 黒田庄町 (現: 西脇市), 豊岡町, 柏原町 (現: 丹波市柏原町), 三原町 (現: 南あわじ市) で記録されている (高島, 2002)。

#### ハイイロセダカモクメ *Cucullia maculosa*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 19. IX. 2015.

灯火に飛来していた個体を採集した。兵庫県下では, 「記録が少なく, 局地的な分布を示す」とされており, 神戸市, 宝塚市, 波賀町 (現: 宍粟市), 黒田庄町 (現: 西脇市) で記録されている (高島, 2001)。

#### アヤモクメキリガ *Xylena fumosa*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 22. XI. 2015.

糖蜜に飛来した個体を採集した。兵庫県版レッドリスト 2012 において要調査に指定されており (兵庫県, 2012a), 県下では神戸市, 西脇市, 姫路市, 相生市, たつの市, 丹波市, 南あわじ市などで記録がある。

#### カギモンキリガ *Orthosia nigromaculata*

1ex. (図 4), 兵庫県西宮市塩瀬町名塩 武田尾, 31. III. 2021.

キブシに飛来していた個体を採集した。兵庫県版レッドリスト 2012 において「要調査」に指定されており, 県下では神戸市, 川西市, 佐用町, 洲本市, 南あわじ市, 淡路市で記録があるが, 西宮市の公式の記録はあまりないと思われる。もっとも, 本種が武田尾溪谷に産することは, 一部の愛好家の間では知られており, ひとくく連携活動グループテネラル OB の安達誠文氏をはじめ, 採集している人が他にもいることは付け加えておきたい。

#### ウスミモンキリガ *Eupsilia contracta*

1ex. (図 5), 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 11. XI. 2015.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 21. XI. 2015.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 12. II. 2016.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 22. II. 2016.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 7. III. 2016.



図 4 カギモンキリガ



図 5 ウスミモンキリガ

本種は武田尾溪谷には産しないとされていたが 安達 (2008), NPO 法人シニア自然大学校研究部・昆虫科 (2019) では 4 月に本種の死骸の記録が報告されている。JR 武田尾駅から西に進んだところにある林道で糖蜜採集を複数回行ったところ, 計 5 頭が得られているので追加記録として報告する。県下では西宮市甲山や神戸市中央区布引公園 (安達, 2008), 三田市有馬富士公園 (阪上ら, 2009) などでの採集例が報告されている。

#### ヨスジキリガ *Eupsilia strigifera*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 8. III. 2020.

糖蜜に飛来した個体を採集した。県下では, 御津町 (現: たつの市), 安富町 (現: 姫路市), 波賀町 (現: 宍粟市) で記録されている。

#### ムラサキミツボシキリガ *Eupsilia unipuncta*

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 18. XI. 2015.

7exs., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 22. XI. 2015.

3exs., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 24. XI. 2015.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 29. XII. 2015.

武田尾溪谷に産することは知られている (安達, 2008) が, 具体的な記録を示した文献は多くないと思われるので上記の記録を報告する。本記録は糖蜜に飛来した個体を採集したものである。なお, 本種の幼虫期の食樹は未解明であるため, 雌から採卵を試みようとして交尾済みであろう越冬明けの個体を捕獲するために 2016 年春にも糖蜜採集を行ったが, 越冬明けの個体はあまり糖蜜に飛来しないのか, 採集は叶わなかった。

#### スミレモンキリガ *Sugitania akirai*

2exs., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 11. XI. 2015.

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬 武田尾, 24. XI. 2015.

糖蜜に飛来した個体を採集した。県下では, 神戸市, 生野町 (現: 朝来市) で記録がある (高島, 2001)。

なお, 上記の記録のうち, ナガフトヒゲナガゾウムシ, クロオビツツハムシ, シラホシナガタマムシの標本は筆者の母校である甲陽学院高等学校生物部に 2013 年~2020 年の間保管されていたが, 思い出し取りに帰り, この度記録されることとなったものである。8 年の間標本を保管してくださり, また 2020 年に訪問した際暖かく出迎えてくださった生物部顧問の谷本雅昭先生に厚くお礼申し上げる。

#### ○参考文献

安達誠文 (ひとはく連携グループテネラル), 2008. 宝塚市武庫川溪谷と西宮市甲山のキリガ相. 共生のひ

ろば. 3: 52-59.

藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭 和也・藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相 - マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について -. きべりはむし, 33 (2): 4-20.

一庫ダム定期報告書 6. 生物 <https://www.kkr.mlit.go.jp/river/followup/jouhou/siryo/pdf/100309/hitoteiki6.pdf>

兵庫県, 2012a. 兵庫県版レッドリスト 2012. アヤモクメキリガ. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/06/53.pdf>

兵庫県, 2012b. 兵庫県版レッドリスト 2012. クチキコオロギ. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/04/15.pdf>

兵庫県, 2012c. 兵庫県版レッドリスト 2012. ハマダラハルカ. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/06/39.pdf>

兵庫県, 2012d. 兵庫県版レッドリスト 2012. カギモンキリガ. <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/data/06/49.pdf>

犬飼 拓展, 2014. 年間蛾類採集記録 2013 年版. SPINDA, 29: 108-117.

川井信矢・堀 繁久・河原正和・稲垣政志, 2008. 日本産コガネムシ上科図説 第 1 巻食糞群 普及版. 昆虫文献六本脚.

岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp. 学研教育出版, 東京.

京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. オオハチモドキバエ. <https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0413.html> (2021 年 7 月閲覧).

神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物 神戸版レッドデータ 2015. <https://www.city.kobe.lg.jp/documents/4600/rdb2015.pdf>

松尾隆人, 2020. 多可郡多可町中区高岸で得たタマムシ類. きべりはむし, 43(1): 53-54.

丸山宗利・工藤誠也・島田 拓・木野村 恭一・小松 貴, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 208pp. 東海大学出版会.

永幡嘉之, 1994. 但馬における甲虫数種の採集記録. IRATSUME, 18: 56-57.

永幡嘉之, 1995. ナガフトヒゲナガゾウムシの記録 2 例. IRATSUME, 19: 20-21.

NPO 法人シニア自然大学校研究部・昆虫科, 2019. 武田尾 (宝塚市・西宮市) の昆虫相調査目録. <http://www.sizen-daigaku>.

- com/~mushi2020/2019takedao.pdf. (2021 年 4 月閲覧)
- 大阪府, 2014. 大阪府レッドリスト 2014. 昆虫類. <https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/6.konchu.pdf> (2021 年 11 月閲覧)
- 岡田浩資, 2011. 兵庫県で記録の少ないカミキリムシ 3 種の採集例. きべりはむし, 34 (1): 22.
- 阪上洗多・船元祐亮・安達誠文・小西堯生, 2009. 須磨鉢伏山と有馬富士公園の興味深いキリガ. きべりはむし, 32 (1): 49-51.
- 佐藤邦夫, 1993. ナガフトヒゲナガゾウムシについて. IRATSUME, 17: 79-80.
- 高橋寿郎, 1987. 兵庫県のツツハムシ (兵庫県甲虫相資料 160). PARNASSIUS, 32: 3-11
- 高橋寿郎, 1998a. 兵庫県のハムシ (2) (兵庫県甲虫相資料・337). IRATSUME, 22: 25-34.
- 高橋寿郎, 1998b. 兵庫県のタマムシ (1), きべりはむし, 26 (1): 13-19.
- 高橋寿郎, 1998c. 兵庫県のタマムシ (2), きべりはむし, 26 (2): 8-13.
- 宝塚市, 1993a. 宝塚の昆虫 IV 甲虫目 (II). 宝塚市教育委員会.
- 宝塚市, 1993b. 宝塚の昆虫 V 蛾類 (II). 宝塚市教育委員会.
- 宝塚市, 1994a. 宝塚の昆虫 VI シミ・カゲロウ・カワゲラ・シロアリ・チャタテムシ・シラミ・アザミウマ・アミメカゲロウ・シリアゲムシ・トビケラ・ハエ. 宝塚市教育委員会.
- 宝塚市, 1994b. 宝塚の昆虫 VII ハチ・アリ・ノミ・(補遺). 宝塚市教育委員会.
- 高島 昭, 1999. 兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・トガリバガ科 兵庫県産蛾類分布資料・14. きべりはむし, 27(2): 61-75.
- 高島 昭, 2001. 兵庫県のセダカモクメ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・20). きべりはむし, 29 (1): 34-49.
- 高島 昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科 (その 2) 兵庫県産蛾類分布資料・26. きべりはむし, 30(2): 32-43.
- 塚本珪一・稲垣政志・河原正和・森 正人, 2009. ふんコロ昆虫記 - 食糞性コガネムシを探そう -. 175pp. トンボ出版.
- 宇野宏樹, 2020. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 III. きべりはむし, 43 (2): 21-25.
- 宇野宏樹, 2021. 宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年～2020 年の昆虫の記録—. きべりはむし, 44 (1): 9-25.
- 吉田浩史・八木剛, 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目.

## 塩田跡地のゴミムシ・ガムシ (兵庫県初記録種)

森 正人<sup>1)</sup>・下野誠之<sup>2)</sup>

筆者らは兵庫県赤穂市において昆虫類の調査を行い、これまで兵庫県内では記録が無かった数種のゴミムシ類、ガムシ類を確認したので報告する。調査を行った場所は赤穂市福浦地区の沿岸部に残存する塩田跡地で、調査日は2021年6月6日及び8月23日、10月16日である。兵庫県での初記録種は以下の6種で、いずれも汽水域や塩田跡地等の塩性湿地性と思われる種である。データの採集年は省略する。

### 1. ムツモンコミズギワゴミムシ *Tachys plagiatus shimosae* (Tanaka,1956)

42exs.,6-VI, 3exs.,23-VIII, 42exs.,16-X. (図1)

千葉県江戸川河口のGyotokuが基準産地。汽水域に生息する種類で、他の地域では河川の下流域や河口付近、塩田跡地などで得られている。大阪府では淀川下流の人工わんど、岡山県では邑久町錦海塩田跡地で記録されているが、これまで兵庫県からの記録は無かった。当該地での個体数は多く、地面の割れ目や石の下、草の根際などに潜んでいる個体が確認された。

### 2. ドウイロハマベゴミムシ *Pogonus itoshimaensis* Habu,1954

1ex,23-VIII, 1ex,16-X. (図2)

福岡県糸島が基準産地。塩田跡地のような環境に特有の種類で、全国的に生息地は少なく局地的である。近隣の岡山県邑久町の錦海塩田跡地では多数の個体が見られたが、当該地での個体数は少なかった。

### 3. ブロンズクビナガゴミムシ *Odacantha metallica* (Fairemaire,1888)

4exs.,6-VI, 10exs.,23-VIII. (図3)

西田(2000)は従来南西諸島に分布する本種が、広島県以西の本州や九州にも分布することを報告し、♂交尾器中央片の形状を図示した。その後、山地(2003)は岡山県邑久町錦海塩田跡地から報告しているが、種名はブロンズクビナガゴミムシ近似種 *Odacantha* sp. とし、種の確定を避けている。今回確認された個体も、これらと同じものと判断される。今後の分類研究を待ちたい。ヨシ原を漕ぎながら採集した。

### 4. エンデンチビマルガムシ *Paracymus aeneus* (Germar,1824)

40exs.,6-VI, 20exs.,23-VIII. (図4)

本種はMinoshima(2014)により岡山県錦海塩田跡地の個体を日本初記録種として報告したもので、同時に和名も新称された。その後、三宅・岡本(2015)が大分県



図1 ムツモンコミズギワゴミムシ.

図2 ドウイロハマベゴミムシ.

図3 ブロンズクビナガゴミムシ.

図4 エンデンチビマルガムシ.

<sup>1)</sup> Masato MORI 環境科学大阪 株式会社 <sup>2)</sup> Masayuki SHIMONO 環境科学大阪 株式会社

から, 小林 (2020) が長崎県対馬から, 秋山 (2020) が広島県から記録しているが, 日本における生息地は今のところ多くない. 当該地では浅い水域で多く見られた.

5. オオトゲバゴマフガムシ *Berosus incretus* d'Orchymont, 1937

12exs., 6-VI, 14exs., 23-VIII, 6exs., 16-X. (図5)

本種を含むトゲバゴマフ亜属は分類が混乱しており, 種の分布が十分に把握されていない. 種の同定は新田・吉富 (2012) に依った. ♂の交尾器側片及び中央片は図示された形状によく一致したが, 体長がやや小さいことが気になっている. 最近になって, 境 (2021) は長崎県対馬の海岸に近い不安定な廃田跡湿地から報告している. 中島ほか (2021) は福岡県の初記録 (海岸に近い汽水域の池) について報告し, また本種の九州以北の確実な記録は三重県, 愛媛県, 島根県, 対馬としている. 当該地では浅い水域や湿地環境に多く, 活発に遊泳する姿が確認された.

6. アリアケキイロヒラタガムシ *Enochrus bicolor* (Fabricius, 1792)

38exs., 6-VI, 29exs., 23-VIII, 2exs., 16-X. (図6)

この種が日本で初めて公表されたのは Matsui (1994) が Kumamoto と Tokushima から記載した *E. yukinoae* であるが, これは現在 *bicolor* のシノニムとされている. *bicolor* としての記録は Kawakami・Hayashi (2010) が最初で大阪市南港から報告している. その後, 山地 (2012) が岡山県から, 緋田・渡部 (2020) が鳥取県から, 中島 (2020) が福岡県からと, 徐々に分布解明が進んでいる. いずれの記録も海岸沿いの塩性湿地などから採集されている. 当該地では浅い水域から得られており個体数は多かった. フタイロヒラタガムシは本種の異名.

当該地は赤穂市郊外にある広大な塩田跡地である. この塩田での製塩期間は 1823 年～1971 年とされており, 製塩事業が中止されて久しい. その後は他の土地利用がなく放置されたようで, 現在ではヨシ原が広がり, 一部に水面と陸地が見られる (図7). 播州地方沿岸は塩田による製塩業が盛んであったと思われるが, 当該地とはほぼ同じ時期に閉鎖され, 今ではその跡地の多くが, 宅地や工場地, 最近ではメガソーラー発電所へと大きく変貌している. そのような中で, 当該地は非常に貴重な環境として残されている. 確認された種類は少ないが, 塩分濃度の高い地面や水域に特有の種類が生息しており, 兵庫県では過去に記録が無い種類が 6 種も確認された. この環境が消失すると, これらの種類が兵庫県内から消滅する可能性が高い. この環境が出来るだけ長く存続することを期待したい.



図5 オオトゲバゴマフガムシ. 図6 アリアケキイロヒラタガムシ.

謝辞

当該地の環境の存在を教えて頂いた八木剛氏 (兵庫県立人と自然の博物館), アドバイスを頂いた渡部晃平氏 (石川県ふれあい昆虫館) にあつくお礼を申し上げる.

引用文献

- 秋山美文, 2020. 広島県のコヒラタガムシとエンデンチビマルガムシの記録. 月刊むし, (598);54-55.
- 緋田祐太, 渡部晃平, 2020. 鳥取県米子市でアリアケキイロヒラタガムシを採集. SAYABANE, N.S., (38):61.
- Kawakami Y., & M. Hayashi, 2010. A new distributional record of *Enochrus (Lumetus) bicolor* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Osaka city, Honshu, Japan. Elytra, (38):25-26.
- 小林 温, 2020. 長崎県対馬からエンデンチビマルガムシの記録. 月刊むし, (592);58.
- Matsui, E., 1994. Three new species of the genus *Enochrus* from Japan and Taiwan (Coleoptera, Hydrophilidae). The Transaction of the Shikoku Entomological Society, 20:215-220.
- Minoshima, Y., 2014. The Identity of the Japanese species of the Genus *Paracymus* Thomson (Coleoptera, Hydrophilidae). Elytra N.S., 4(1):143-149.
- 箕島悠介, 2016. がむしといういきもの - エンデンチビマルガムシの日本からの発見 -. ぎよぶる, (4):46-47.
- 三宅 武, 岡本 潤, 2015. エンデンチビマルガムシ九州に産す. 月刊むし, (531);63.
- 森 正人, 2017. 兵庫県の水生ガムシ類. きべりはむし, 39(2):42-52.
- 森 正人, 2016. 兵庫県のミズギワゴミムシ類. きべりはむし, 39(1):26-35.

- 中島 淳, 2020. 福岡県におけるアリアケキイロヒラタガムシの初記録. SAYABANE, N.S., (39):52.
- 中島 淳, 渡部晃平, 伊藤 昂, 井上大輔, 2021. 福岡県におけるオオトゲバガムシの初記録. SAYABANE, N.S., (42):24-25.
- 西田光康, 2000. 西日本のクビナガゴミムシ属 *Odacantha* について. 北九州の昆虫, 47(2):139-140.
- 新田涼平, 吉富博之, 2012. 日本産ゴマフガムシ属 *Berosus* (コウチュウ目, ガムシ科) の分類学的再検討. SAYABANE, N.S., (7):18-31.
- 境 良朗, 2021. 対馬からオオトゲバゴマフガムシの記録. 月刊むし, (601):57-58.
- 山地 治, 2012. 岡山県産甲虫目録 2012. 401pp. 岡山県環境保全事業団.
- 山地 治, 2003. 岡山県から採集した甲虫類の記録. すずむし, (137):43-46.
- 山地 治, 2000. 錦海塩田跡地のゴミムシ. すずむし, (135):7-10.



図7 赤穂市福浦地区の塩田跡地.

## 2021年の東鉢伏高原における注目すべき蛾類について

坪田 瑛<sup>1)</sup>・高橋輝男<sup>2)</sup>

### はじめに

筆者らのうちの一人は兵庫県で報告の少ないガについてすでに報告(坪田, 2021)した. 今回は我々が2021年に東鉢伏高原周辺で採集した兵庫県で採集例がないかもしくは数例しかないガについて報告する. 前回はヤガ科に限定したが今回はヤガ科以外のガも含める. 記載順序は前回の報告と同じく大図鑑(井上ら, 1982)に則った. なお大図鑑に記載のないアメリカピンクノメイガおよびヨシノアツバはそれぞれの亜科の最後に挿入した. 日本本土では偶産蛾であるハナジロクチバに関しては別に報告した(高橋, 2021).

今回報告するガの採集場所は兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原, 標高約1,000 m)で, 採集者はそれぞれの採集記録に記載した. また, 今回報告するガは全てライトトラップでの採集である.

### 各種資料

#### 1. シロフクロノメイガ *Pygospila tyres* (Cramer, 1780)

10月8日20時25分に1頭飛来した. 生態写真では白斑が青白く輝いて大変美しい.

本種は日本では四国, 九州, 対馬, 屋久島に分布するが, 群馬県や東京都でも稀に採れている(井上ら, 1982).

本県での記録は宝塚市(宇野, 2020b)や香美町(阪上ら, 2020), 淡路島での目撃例(八木, 2021)がある.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 8. X. 2021.1ex. 坪田.

#### 2. アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* (Fernald, 1885)

10月8日21時40分頃に1頭飛来した.

本種は元々北米に分布するガで, 日本での最初の報告は2020年(宮野, 2020; 前田・吉安, 2020)である.

本県でも淡路市での報告(矢口, 2021)がある.

本種は一見マエベニノメイガやウスベニオオノメイガに似ている. しかしながらマエベニノメイガの前後翅には内外横線が明瞭に認められるが, 本種の前翅には

それは認められない. またウスベニオオノメイガとは前翅縁毛の色や後翅の斑紋が異なる. 幼虫の食草はシソ科アキギリ属サルビア・スプレンドゥスといわれている.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 8. X. 2021.1ex. 高橋.

#### 3. ミミモンエダシヤク *Eilicrinia wehrlii* Djakonov, 1933

6月下旬から8月下旬にかけて計8頭飛来した.

本種の日本での分布は北海道, 本州, 九州であるが, 関東以西では山地性である. 本種は1化で6-7月に採れるとなっているが今回の我々の最も遅い記録は8月27日であった.

本種の幼虫の食草はハルニレ, オヒョウである.

本県では香美町(阪上ら, 2020)で記録がある.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 21. VI. 2021.1ex. 高橋; 8. VIII. 2021.4exs. 高橋, 坪田; 15. VIII. 2021.1ex. 坪田; 27. VIII. 2021.1ex. 高橋.

#### 4. ヒメツバメエダシヤク *Ourapteryx subpunctaria* Leech, 1891

6月中旬から7月上旬にかけて計6頭が飛来した.

本種は東北地方北部以南の本州, 四国, 九州, 種子島, 屋久島に分布する. 山地性で夏に採れるが少ないようだ. 食草はハイノキ科サワフタギである.

本県での記録は, 神戸市, 宝塚市, 波賀町と神河町砥峰高原(植田, 2009)である.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 17. VI. 2021.1ex. 高橋; 27. VI. 2021. 4exs. 高橋, 坪田; 1. VII. 2021.1ex. 高橋.

#### 5. モンシロモドキ *Nyctemera adversata* (Schaller, 1788)

9月30日21時46分に1頭が飛来した. 本種の触角は♂♀ともに櫛歯状であるが♀は内側に櫛歯が出ていないことから, 採集したガは♂である.

本種はヒトリガ科のガで伊豆半島以西の本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 先島諸島に分布する. 幼虫の食草

<sup>1)</sup> Teru TSUBOTA 兵庫県神崎郡市川町; <sup>2)</sup> Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町

はキク科のサワオグルマ, コウゾリナ, スイゼンジナなどである。

本県では1950年から1986年にかけて神戸市, 洲本市, 南淡町(高島, 1996), 宝塚市(宇野, 2020a)で記録がある。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 30. IX. 2021. 1ex. 高橋。

#### 6. カラフトゴマケンモン *Panthea coenobita* idae Bryk, 1949

7月下旬から8月上旬にかけて計2頭が飛来した。

本種は北半球温帯の針葉樹林のガで *Panthea* 属で既知なのはこの一種のみである。年2化であり, 5-7月と9月に出現する。幼虫の食草はトウヒ, モミ, カラマツである。

本県での記録は市島町の妙高山(山本, 1954)と波賀町引原(高島, 1988)であり, その後の報告は見当たらない。なお高橋は2014年8月23日に兵庫県福崎町田口で水銀灯の街灯の下にいる本種を確認している。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 30. VII. 2021. 1ex. 坪田; 3. VIII. 2021. 1ex. 高橋。

参考記録; 兵庫県神崎郡福崎町田口, 23. VIII. 2014, 1ex. 高橋。

#### 7. ヒメネグロケンモン *Colocasia umbrosa* (Wileman, 1911)

5月下旬から8月下旬にかけて計8頭が飛来した。

本種の分布は宮城県付近を北限にした本州から九州までの本土域である。年2化で5月と7-8月に出現する。

本県での報告は見当たらず(高島, 1998), 初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 29. V. 2021. 1ex. 高橋; 8. VIII. 2021. 3exs. 高橋, 坪田; 15. VIII. 2021. 1ex. 坪田; 20. VIII. 2021. 1ex. 高橋; 27. VIII. 2021. 1ex. 高橋; 31. VIII. 2021. 1ex. 坪田。

#### 8. ハンノケンモン *Jocheaera alni* (Linnaeus, 1758)

5月中旬から8月上旬にかけて計11頭が飛来した。

本種は北海道には普通であり本州では東北から中部地方の山間に産するとあるが, ネット検索すると四国でも確認されている。本種は南に行くほど山地性となり西日本では少ない種である。幼虫の食草はミズナラ, オニグルミなどの広葉樹である。

本県では波賀町と関宮町に記録(高島, 1998)があるようだ。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 13. V. 2021. 1ex. 高橋; 5. VI. 2021. 4exs. 高橋, 坪田; 9. VI. 2021. 3exs. 高橋, 坪田; 14. VI. 2021. 2exs. 高橋; 8. VIII. 2021. 1ex. 坪田。

#### 9. ウスアカヤガ *Diarsia albipennis* (Butler, 1889)

5月13日21時6分に1頭が飛来した。

本種は温暖性のガで日本での分布は関東以西から九州に至る本土域と屋久島である。産出は局所的であり, 一般には少ない。年2化で5-6月と9-10月に出現する。

本県では宝塚市で1例記録されている(高島, 2000)のみである。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 13. V. 2021. 1ex. 高橋。

#### 10. ミヤマアカヤガ *Diarsia brunnea* ([Denis & Schiffermüller], 1775)

7月19日22時35分に1頭が飛来した。

本種の前翅は赤褐色, 腎状紋は黄白色で縁取られ, 環状紋と腎状紋の間は暗赤褐色である。冷温帯性のガで日本では北海道, 東北地方, 関東中部山地一帯に産し, 西方は岡山県北部に及ぶ。また四国の剣山からも見いだされている。年1化で7-8月に出現する。

本県では波賀町, 大屋町, 関宮町, 南淡町での記録がある(高島, 2000)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 19. VII. 2021. 1ex. 高橋。

#### 11. ナマリキリガ *Orthosia satoi* Sugi, 1960

5月8日に1頭と5月13日に2頭が飛来した。

本種は日本特産であり, 本州中部から東北地方に渡る各県に産地が知られている。

本県では市川町(坪田, 2018)および佐用町(戸川, 2019)の2例が報告されている。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 8. V. 2021. 1ex. 高橋; 13. V. 2021. 2exs. 高橋, 坪田。

#### 12. オオノコバヨトウ *Tiracola aureata* Holloway, 1989

8月8日23時45分に1頭が飛来した。

本種はかつてヤクシマヨトウと呼ばれていたがオオノコバヨトウと改称された。本種♂の後翅中室には幅の狭い半透明部が存在するが採集したものには認められないので♀と思われる。本種の分布はインドから台湾を経て日本南部に渡り, 屋久島には多産する。紀伊半島南部, 四国南部, 九州南部, 屋久島, 奄美大島, 石垣島に記録がある。幼虫は多食性でミカン類の害虫とされたこともあるようだ(井上ら, 1982)。

本県では未確認であり, 県南部の淡路での記録が期待されていたが(高島, 2000), 北但馬からの初記録となった。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 8. VIII. 2021. 1ex. 高橋。

1 3. ウスイロキヨトウ *Mythimna inanis* (Oberthür, 1880)

5月中旬から6月中旬にかけて計5頭が飛来した。

本種の前翅は紫褐色で中室端には淡色の「く」の字状の紋を表す。縁毛は薄いピンク色を帯びる。日本では北海道から本州中部に渡って産出し、また九州では久住高原で産する。本種は山地性であり、余り多くないようだ。

本県での記録は波賀町引原の遊磨による1例のみである(高島, 2000)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 19.V.2021.1ex. 坪田; 5.VI.2021.3exs. 高橋, 坪田; 14.VI.2021.1ex. 高橋。

1 4. クロビロードヨトウ *Sidemia bremeri* (Erschoff, 1867)

8月15日21時7分に1頭が飛来した。

本種は沿海州, 朝鮮, 日本, 中国に分布する。日本では北海道および本州の内陸草原や盆地部に局地的に産し, 西方では岡山県まで記録がある。

本県での記録は木下による関宮町轟での1例(高島, 2001)のみである。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 15.VIII.2021.1ex. 高橋。

1 5. フタスジキリガ *Enargia flavata* Wileman & West, 1930

6月中旬から7月初旬にかけて計4頭飛来した。

本種の前翅は黄褐色で内外横線はほぼ直線状である。紋は不鮮明で腎状紋の部分はやや淡色を呈する。北海道を除き本州から四国, 九州に至る本土域に産し, 幼虫はブナを食べる。

本県における記録は見当たらず(高島, 2002), 初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 17.VI.2021.1ex. 坪田; 27.VI.2021.2exs. 高橋, 坪田; 1.VII.2021.1ex. 高橋。

1 6. ミヤマキリガ *Cosmia unicolor* (Staudinger, 1892)

8月27日と9月11日にそれぞれ1頭飛来した。

本種の日本での分布は北海道から本州中部山地である。幼虫の食草はシナノキである。

本県における記録は高島の報告でも触れられておらず(高島, 2002), 初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 27.VIII.2021.1ex. 坪田; 11.IX.2021.1ex. 高橋。

1 7. キシタキリガ *Cosmia moderata* (Staudinger, 1888)

7月19日21時34分に1頭飛来した。

本種の日本での分布は北海道から本州中部であり,

幼虫の食草はシナノキ属である。

本県では大屋町と氷ノ山に記録(高島, 2002)がある。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 19.VII.2021.1ex. 坪田。

1 8. マダラキボシキリガ *Dimorphicosmia variegata* (Oberthür, 1879)

7月19日22時12分に1♂が飛来した。

本種は雌雄異形であり, 日本では北海道から本州中部の山地に産し, また四国では剣山の標高1,400m付近に限って得られている。食草はシナノキ科シナノキである。

本県では美方郡村岡町(現在の美方郡香美町村岡区)での報告(吉田, 2009)が唯一のものである。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 19.VII.2021.1♂. 高橋。

1 9. トガリヨトウ *Virgo datanidia* (Butler, 1885)

8月下旬から9月中旬までに計5頭が飛来した。

本種は沿海州, 朝鮮, 北海道を除く日本, 中国に産し, 7-10月に出現する。前翅は紫灰色でやや淡紅色を帯びる。本県では神河町に記録(八木, 2003)がある。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 31.VIII.2021.3exs. 高橋, 坪田; 5.IX.2021.1ex. 坪田; 11.IX.2021.1ex. 高橋。

2 0. ミヤマクロスジキノカワガ *Nycteola degenerana eurasiatica* Dufay, 1961

6月27日21時22分に1頭が飛来した。

本種の日本における分布は, 北海道, 東北地方から関東, 中部の内陸部と日本海岸, 佐渡島であり, また四国や対馬にも記録がある。食草はヤナギ科である。

本県では東による川西市平野での記録があるのみである(高島, 2001)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(東鉢伏高原), 21.VI.2021.1ex. 高橋。

2 1. シンジュキノカワガ *Eligma narcissus narcissus* (Cramer, 1775)

9月下旬から10月中旬にかけて6頭を採集した。特に10月13日には相次いで4頭が飛来した。

本種は食草である中国からのニガキ科シンジュの移入に伴い2次的に入ったものと推定されている。最初の発見は熊本市でありその後ほぼ全国から記録されている。

本県でも柏原町, 西宮市, 高砂市, 南淡町, 鉢伏高原, 和田山町(高島, 2001), 神戸市須磨区(小西, 2009), 伊丹市(安達, 2010; 石川, 2017), 佐用町及び宍粟市(池

田・阪上, 2016), 市川町 (久保, 2016; 高橋, 2016, 2017), 姫路市 (市村, 2017), 養父市 (松尾, 2020) で記録がある。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 26. IX .2021.1ex. 高橋; 30. IX .2021.1ex. 坪田; 13. X .2021.4exs. 高橋, 坪田.

## 2 2. ハネモンリング *Kerala decipiens* (Butler, 1879)

7月1日22時50分に1頭飛来した。

本種は静止するときは翅を体軸に沿わせて畳んでいる。日本における本種の分布は北海道, 本州, 九州, 屋久島であるが, 西日本では稀な種とされている。食草はヤマハンノキ, ダケカンバ, ヤハズハンノキである。

本県では波賀町, 大屋町および氷ノ山で記録がある (高島, 2001)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 1. VII .2021.1ex. 高橋.

## 2 3. ミドリシロモンコヤガ *Koyaga virescens* (Sugi, 1958)

6月上旬から8月中旬にかけて合計5頭が飛来した。

本種は東北地方の秋田, 宮城県下から関東中部地方, 四国, 九州に渡って記録があるが非常に少ないようだ (井上ら, 1982)。

本県では安富町 (高島, 2003) で記録されているのみである。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 9. VI .2021.2exs. 高橋, 坪田; 30. VII .2021.1ex. 高橋; 3. VIII .2021.1ex. 坪田; 20. VIII .2021.1ex. 高橋.

## 2 4. ナカキマエモンコヤガ *Neustrotia sugii* (Tanaka, 1973)

7月上旬から8月下旬にかけて計2頭が飛来した。

本種は日本特産種でその分布は主に北海道南部, 奥尻島, 東北地方から近畿地方であるが, 熊本県でも採集されている (高島, 2003)。

本県では六甲山での八木らの記録 (高島, 2003) がある。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 1. VII .2021.1ex. 高橋; 27. VIII .2021.1ex. 坪田.

## 2 5. マダラキンウワバ *Polychrysis splendida* (Butler, 1878)

8月20日21時30分過ぎに1頭飛来した。

本種は沿海州, サハリン, 北海道, 本州, 四国に産する。本州では年2化で6-7月と8-9月に出現する。今回採集したものは2化のものと思われる。幼虫はキンボウゲ科ホソバトリカブト, オオダイブシ, エゾトリカブト

を食べる。

本県での本種の報告は見出せず (高島, 2001), 初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 20. VIII .2021.1ex. 高橋

## 2 6. ユミモンクチバ *Melapia electaria* (Bremer, 1864)

5月1日の21時頃と22時過ぎに計2頭飛来した。

日本での本種の分布は北海道から九州の本土域であるがその産出は局地的である。食草はオヒシバなどのイネ科植物である。

本県では村岡町, 養父市, 柏原町, 氷上町, 青垣町 (高島, 2004a), 香美町 (阪上ら, 2020) に記録がある。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 13. V .2021.2exs. 高橋, 坪田.

## 2 7. ムラサキオオアカキリバ *Rusicada leucolopha* Prout, 1928

8月15日22時45分に1頭飛来した。

日本における本種の分布は北海道, 本州, 四国および九州であり, 関東からの記録はないようだ。食草はシナノキである。

本県においても本種の報告は見当たらない。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 15. VIII .2021.1ex. 高橋.

## 2 8. ネジロフトクチバ *Serrodus campanus* Guenée, 1852

8月15日の21時30分過ぎに1頭目が, 23時20分頃に2頭目が飛来した。

本種は近畿以西の本土域と対馬, 屋久島, 種子島, 沖縄本島, 西表島では定着していると考えられている。しかしながら本州中部以北での産出も散発的であるが報告されており, また北海道にも採集例があるようだ。暖地の大型のヤガであるが少ないガである。食樹はムクロジおよびクスノハカエデである。

本県での記録は見当たらず初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹 (東鉢伏高原), 15. VIII .2021.2exs. 高橋.

## 2 9. マエイトガリアツバ *Anoratha costalis* Moore, 1867

7月1日に♀1頭が, また9月5日には♂2頭が飛来した。

本種は雌雄異形であり, ♂の前翅は幅狭く翅頂はさらに突出し外縁は強く斜走する。本種の日本での分布は本州近畿地方以西, 四国, 九州, 屋久島である。

本県での記録はこれまでに養父市大段ヶ平で採集された1例のみである (高島, 2004b)。但し高島の採集したものは♂ではなくて♀である。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹（東鉢伏高原），  
1. VII. 2021.1ex. 高橋； 5. IX. 2021.2exs. 高橋，坪田。

### 30. ヨシノアツバ *Hypena yoshinalis* (Wileman & West, 1930)

本種はアツバ亜科のガであるが、情報が極端に少なく最近になってようやく調べ始められたようだ。図鑑(井上ら, 1982)でも記載されておらず、インターネットを検索すると四国産蛾類図鑑に写真があるのみである。

本県における記録はなく、初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹（東鉢伏高原），  
30. IX. 2021.1ex. 坪田。

### ○参考文献

- 安達誠文, 2010. 伊丹市昆陽池町で発生したシンジユキノカワガ, きべりはむし, 32(2), 7-8.
- 池田 大・阪上洗多, 2016. 播磨地方西部におけるシンジユキノカワガの記録, きべりはむし, 38(2), 49.
- 石川佳史, 2017. 兵庫県西宮市でシンジユキノカワガの幼虫を採集・羽化の観察, きべりはむし, 39(2), 7-8.
- 井上寛・杉次郎・黒子浩・森内茂・川辺湛・大和田守, 1982. 日本産蛾類大図鑑, 講談社.
- 植田義輔, 2009. 2004年5,6,7月に砥峰高原で採集された蛾類, きべりはむし, 32(1), 44-48.
- 宇野宏樹, 2020a. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録Ⅱ, きべりはむし, 43(1), 18-28.
- 宇野宏樹, 2020b. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録Ⅲ, きべりはむし, 43(2), 21-25.
- 久保弘幸, 2016. 兵庫県市川町でシンジユキノカワガを採集, きべりはむし, 38(2), 50.
- 小西堯生, 2009. 神戸市須磨区でシンジユキノカワガを採集, きべりはむし, 32(1), 63.
- 阪上洗多・宮野昭彦・後藤聖士郎・岩下幸平・クルズスキー淳子・間野隆裕・松井悠樹・Khine Mon Mon Kyaw・那須義次・奥尉平・富沢章・外村俊輔・屋宜禎央, 2020. 兵庫県で開催した第79回レピドプテリストセミナー(レピゼミ)で採集された蛾, 誘蛾燈, No.240, 32-40.
- 高島昭, 1996. 兵庫県版レッドデータブックの蛾(兵庫県産蛾類分布資料・5), きべりはむし, 24(2), 35-44.
- 高島昭, 1998. 兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科 兵庫県産蛾類分布資料・9, きべりはむし, 26(2), 44-58.
- 高島昭, 2000. 兵庫県のモンヤガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・16, きべりはむし, 28(1), 77-88.
- 高島昭, 2001. 兵庫県のウワバ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・22, きべりはむし, 29(2), 31-39.
- 高島昭, 2001. 兵庫県のキノカワガ亜科・リングア亜科, サラサリングア亜科(兵庫県産蛾類分布資料・23), きべりはむし, 29(2), 40-49.
- 高島昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科(その2), きべりはむし, 30(2), 32-43.
- 高島昭, 2004a. 兵庫県のシタバガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・30, きべりはむし, 31(2), 25-43.
- 高島昭, 2004b. 兵庫県のアツバ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・31, きべりはむし, 31(2), 44-55.
- 高橋輝男, 2016. 二年連続して兵庫県市川町でシンジユキノカワガを観察・採集, きべりはむし, 39(1), 22-23.
- 高橋輝男, 2017. 2017年の兵庫県市川町でのシンジユキノカワガの採集記録, きべりはむし, 40(1), 36-37.
- 高橋輝男, 2021. ハナジロクチバを兵庫県香美町で採集, きべりはむし, 44(2), 53.
- 坪田 瑛, 2018. ナマリキリガを兵庫県市川町で採集, きべりはむし, 41(1), 27-28.
- 戸川元貴, 2019. 兵庫県佐用郡でナマリキリガを採集, きべりはむし, 42(2), 57.
- 松尾隆人, 2020. 氷ノ山・鉢伏山の注目すべき蛾類の記録, きべりはむし, 43(1), 29-35.
- 八木剛・中西明德・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高島昭, 谷口登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹男・山崎敏雄・吉田武, 2003. 砥峰高原の昆虫相-2002年の調査から-(第一部), きべりはむし, 31(1), 1-46.
- 八木剛, 2021. 淡路島公園8月オールナイト調査【後編:オールナイトが必要な理由】, 輝け☆昆虫少年, 2021年8月21日更新. <http://pedemontanum.blog.fc2.com/blog-entry-185.html> (2021年12月最終閲覧)
- 矢口芽生, 2021. 兵庫県淡路市でアメリカピンクノメイガを確認, きべりはむし, 44(1), 100.
- 吉田武, 2009. マダラキボシキリガハチ高原で記録, きべりはむし, 32(1), 62.



図1 シロフクロノメイガ (開張 46mm)



図2 アメリカピンクノメイガ (開張 16mm)



図3 ミミモンエダシャク (開張 32mm)



図4 ヒメツバメエダシャク♀ (開張 39mm)



図5 モンシロモドキ (開張 50mm)



図6 カラフトゴマケンモン (開張 55mm)



図7 ヒメネグロケンモン (開張 35mm)



図8 ハンノケンモン♀ (開張 45mm)



図9 ウスアカヤガ



図10 ミヤマアカヤガ



図11 ナマリキリガ (開張 35mm)



図12 オオノコバヨトウ (開張 60mm)



図13 ウスイロキヨトウ (開張 35mm)



図14 クロビロードヨトウ (開張 47mm)



図15 フタズキリガ (開張 30mm)



図16 ミヤマキリガ (開張 33mm)



図17 キンタキリガ (開張 37mm)



図18 マダラキボシキリガ (開張 28mm)



図 19 トガリヨトウ (開張 26mm)



図 20 ミヤマクロスジキノカワガ (開張 25mm)



図 21 シンジュキノカワガ (開張 82mm)



図 22 ハネモンリング



図 23 ミドリシロモンコヤガ



図 24 ナカキマエモンコヤガ



図 25 マダラキンウワバ (開張 37mm)



図 26 ユミモンクチバ (開張 34mm)



図 27 ムラサキオオアカリバ (開張 46mm)



図 28 ネジロフトクチバ (開張 79mm)



図 29 マエキトガリアツバ♂ (開張 39mm)



図 30 ヨシノアツバ (開張 27mm)

## テングチョウ幼虫・蛹の色彩に見られる多型は相変異？ (予報)

竹田真木生<sup>1)</sup>

**Abstract:** The snout butterfly, *Libythea celtis* [Nymphalidae] has polymorphic body color at both larval and pupal stages, varying from green to dark forms. Nature of this variation remains to be clarified but early feeders tend to be green and late feeders dark forms. It may help escape predations as a cryptic camouflage, since the coloration of the foliage in the host plant, *Celtis sinensis* [Cannabaceae] changes from green to dark as the larvae continue to feed on at high population densities. Further experiments are needed to determine whether this is a type of phase dimorphism in response to larval density or it is a response to a background color to be cryptic adaptation to escape bird predation.

### 1. 昆虫の体色変化と多型

チョウの色彩多型は、光周性 (photoperiodism) による制御が示されたキタテハ (Hiroyoshi et. al., 2019) や、古典的によく知られたサカハチチョウなどのタテハチョウ科の季節型、Richard Goldschmidt によるコヒオドシの温度ショックに対するエピジェネティックな反応 (phenocopy と呼ばれることもある)、Sean Carroll らによる乾季と雨季に対応するマラウイのヒカゲチョウの斑紋変異の研究など (キャロル, 2007)、表現型の可塑性 (phenotypic plasticity) の理解に貢献してきた。表現型の可塑性については、ギルバートとイーペルの「生態進化発生学：エコ・エボ・デボの夜明け」に紹介されているように、時間軸に沿ったものまで含め、いろんなパターンの例があげられているので参照。タコやコブシメなどの軟体動物にみられる、随意的に変る homochromy や、テントウムシのような純粋に対立遺伝子による遺伝的多型、時間的な行動変化を伴うミツバチの polyphenism など、様々な種類の調節機構が含まれ、それら異なる性質の色彩型が混在するトビバッタのような場合もある。

Carroll らのヒカゲチョウの場合のように、そのシステムは複雑で、脳による環境受容が、内分泌的な切り替えに連結するという下降的なシステムとともに、温度が直接、翅などの斑紋の形態形成遺伝子、例えば眼状紋の *distal-less (d1)* に作用し、ローカルな反応を誘起する、直接的な反応の混じった、様々な様相を呈する例が報告されている。相変異を示すトビバッタの色彩多型もいくつかの異なった性質をもったものの複合的なものである (田中, 2021)。しかし、多型が典型的には、活動性の

高い成虫にあらわれ、実験材料として用いるには困難も伴うため、興味あるテーマであるにもかかわらず突っ込んだ研究はあまりなされてこなかった。

多型と一口に言っても、かなり広い内容のものがある。昆虫分野では上述の季節多型も、対立遺伝子の発現に依存する遺伝的多型 (genetic polymorphism) も、環境条件によって発現形質が切り替えられるものも、一緒くたにして多型とよばれる時代があったが、現在では後者は polyphenism とよばれている。この言葉を最初に使ったのは、カリフォルニア大学のデービス校にいた Arthur Shapiro だが、彼の研究室を筆者も訪ねた時があり、その時、温度処理によって、外縁がないキベリタテハやその他のチョウ類の箱一杯いろいろな変異体を見せてもらって驚倒したことがある。筆者も高校生の時に、ミドリシジミを発育のいろいろな段階で低温や高温処理すると、比較的高い確率で後翅の裏面の白い白紋が広がり、キリシマミドリシジミかと思わせる斑紋を得たことがあるので、なじみはあった。この斑紋変異は、蝶類でよく知られているが、いろいろな昆虫のいろいろなステージで知られている。たとえば、サバクトビバッタの仲間の相変異は、光周期や温度といった環境要因だけではなく、込み合いや、摂食状態などの社会的な条件にも反応し、非常に複雑であり、色彩だけではなく、行動パターンなどにも影響するものだ (田中, 2021)。休眠などの発育プログラムと連動するものもある。ヒメシロモンドクガは、短日で育つか長日で育つかによって、卵の形態と休眠性、蛹体色、メス成虫の翅型に光周性が現れる (Kimura and Masaki, 1977)。今、アメリカそしてヨー

<sup>1)</sup> Makio TAKEDA ビノキオ幼稚園 (埼玉県熊谷市)

ロッパに侵入してマメ科を加害しているクサギカメシには体色多型が幼虫に現れる (Niva and Takeda, 2002). アリマキの場合にも, 幹母の時代からの絶対的な時間経過, 込み合い, 祖母の時代の光周性に反応しているようなモルフが現れる種がある (例えば *Megoura viciae*, Lees, 1971). アメリカシロヒトリは2種が含まれているが, 幼虫の頭殻色で黒頭と赤頭種と通称で呼ばれているが, 頭殻だけではなく, コート色も違うし (種間でも種内でも), 行動の日周性や摂食のリズムにも変異がある. 黒頭種の成虫には純白から黒斑が出るものなどの多型がある (Yang et al., 2017). これらのことから, 多型の範囲はかなり広く, 共通の調節機構があるのか, 個別の物を, 光周性, または多型などの言葉でひっくくって扱っているのか, その辺についてはまだよくわかっていない. したがって, 多型を発現する生理的な機構を一つ一つのケースで解明していく必要があるのだろう. 色彩変

異を起こすホルモンとしては, JH や 20Ecdysone(20E) がよく知られているが, トビバッタではコラゾニンというアミノ酸 11 個のペプチドが黒化に重要な働きをすることが, 田中の広範な実験から明らかになった. そのほかに, 脂肪の動員と飛翔の制御に重要な Adipokinetic hormone (AKH) や, Pigment Dispersing Hormone (PDF), などが色素沈着と行動の制御の両方にかかわっている可能性がいろいろな昆虫で明らかになった. 色素形成と概日時計の両方にかかわるシステムというのは古地球の環境を考えてみれば納得がいく. 古環境は紫外線の照射から守られていなかった. したがって, 色素による保護と光の忌避というのは同根のものである. もう一つ重要な役者がいる. メラトニンである. メラトニンは神経伝達物質のセロトニンから合成され, 血中に放出されてホルモンとして働く. この過程を制御する酵素 aaNAT は光分解を受けやすい. したがって, この酵素は夜の化

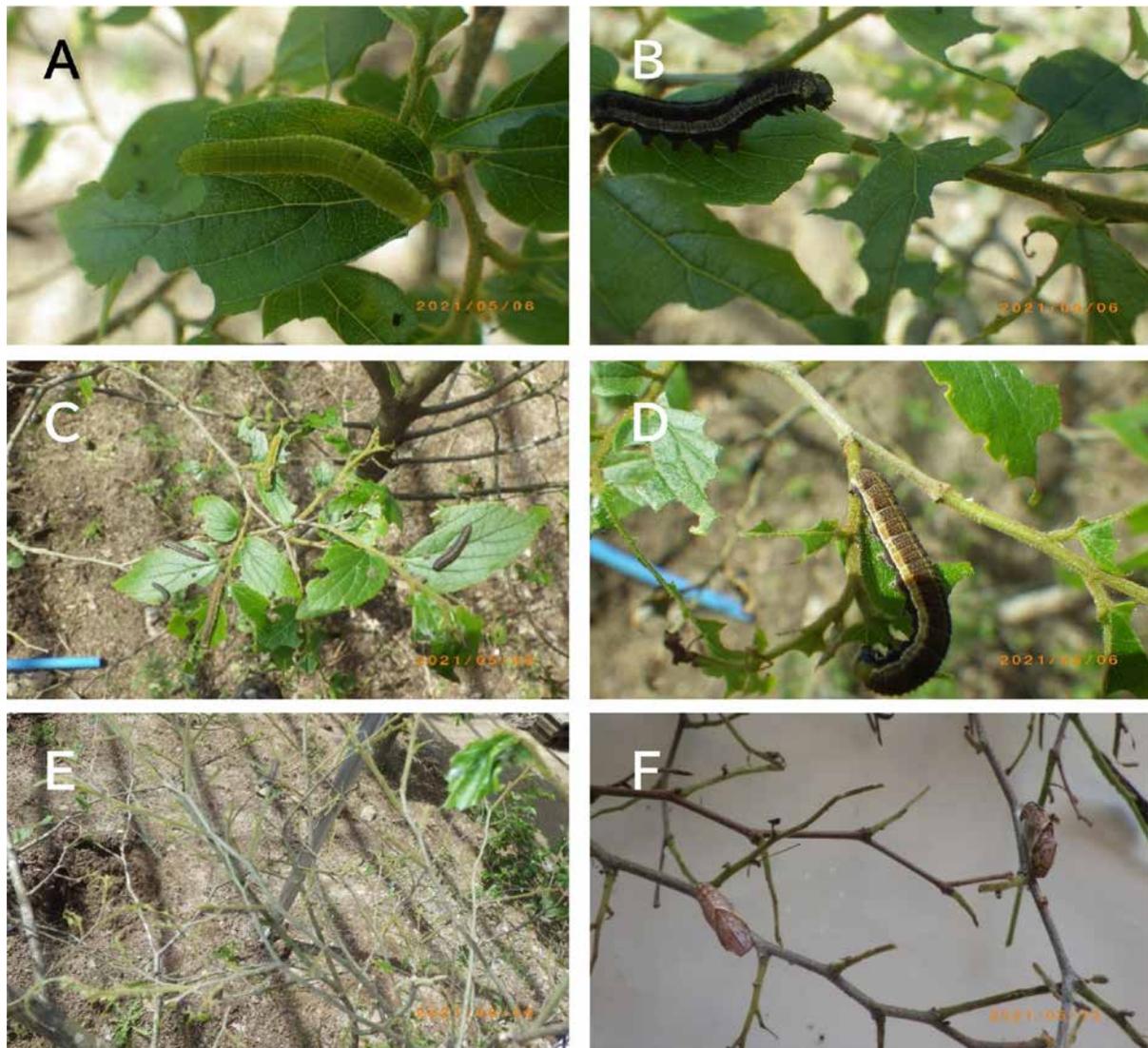


図1. 食い尽くしのステージに伴う幼虫体色の変化. A. 茂った葉の上の幼虫タイプI. B. タイプII. CD. 黒い幼虫が葉っぱのところにいる場合はよく目立つ. 食い尽くしが進んだところ. E. 葉っぱが食い尽くされる頃, 幼虫は地面をはってよその木に移動する. F. スケルトン状態になった枝に蛹化した, 暗い色の蛹.

学的な token として働く。この働きから、Timezyme と呼ばれることも提唱されている (Klein, 2007)。メラトニン は、松果体に含まれるホルモンであるが、その発現は概日時計に支配されている。この分泌量が他のホルモン分泌を制御するスイッチの役割を果たすが、その機能の最初の解明はオタマジャクシのメラニン色素胞の収縮で、それゆえにメラトニンと呼ばれることになったが、昆虫でもこの生合成に働く aaNAT と呼ばれる酵素

の転写は、生物時計を駆動する、Clock と Cycle (Bmal 1=Brainmuscle Arnt-like 1 と呼ばれる) ヘテロ 2 量体の結合する cis-element の制御下に行われ、これが biogenic monoamine の動態を制御する酵素 aaNAT の増減をコントロールする。柞蚕は短日条件下に蛹で休眠し、長日で休眠が破れるが、aaNAT 遺伝子の転写におけるリズム的な変動は、メラトニン合成系のリズムを作り、メラトニンは、隣接する前胸腺刺激ホルモン (PTTH)



図2. 幼虫の体色. A. タイプ I. BC. タイプ III. D. タイプ IV.

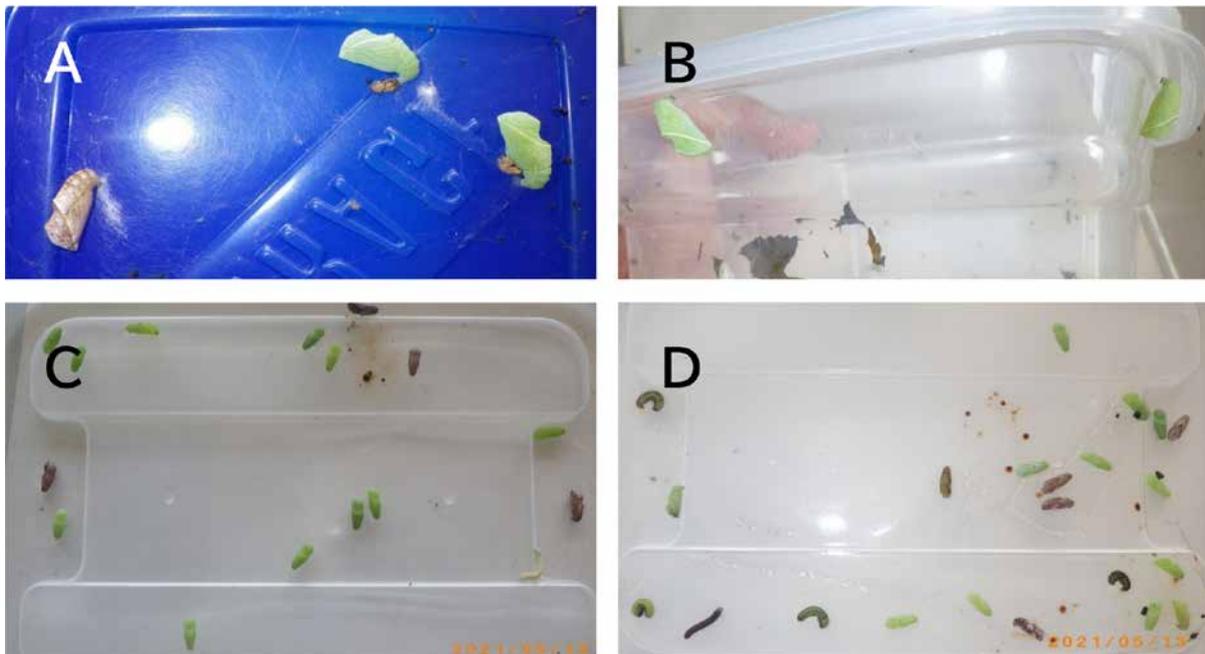


図3. いろいろな背景色の壁面に作られた色の違う蛹. A. 斜めに置かれた青い色の壁面に作ったもの. B. 側面外側. C. 半透明の蓋. D. 半透明の側面.

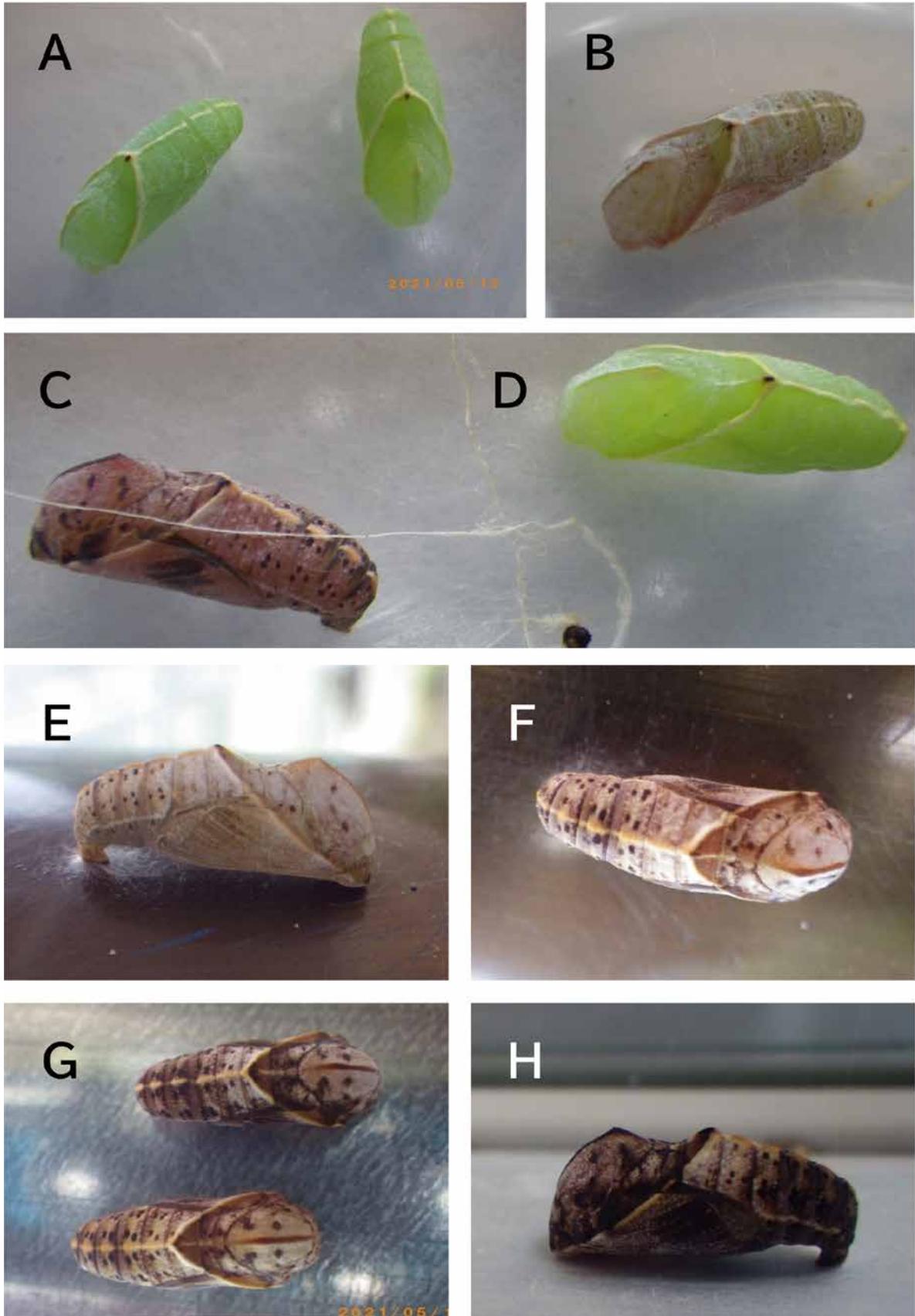


図4. 蛹の色彩. A. 緑=タイプI. B. タイプII. C. 暗いものとD. 緑のものを並べた. EFG (タイプIII) は連続的なグレード. H. タイプIV.

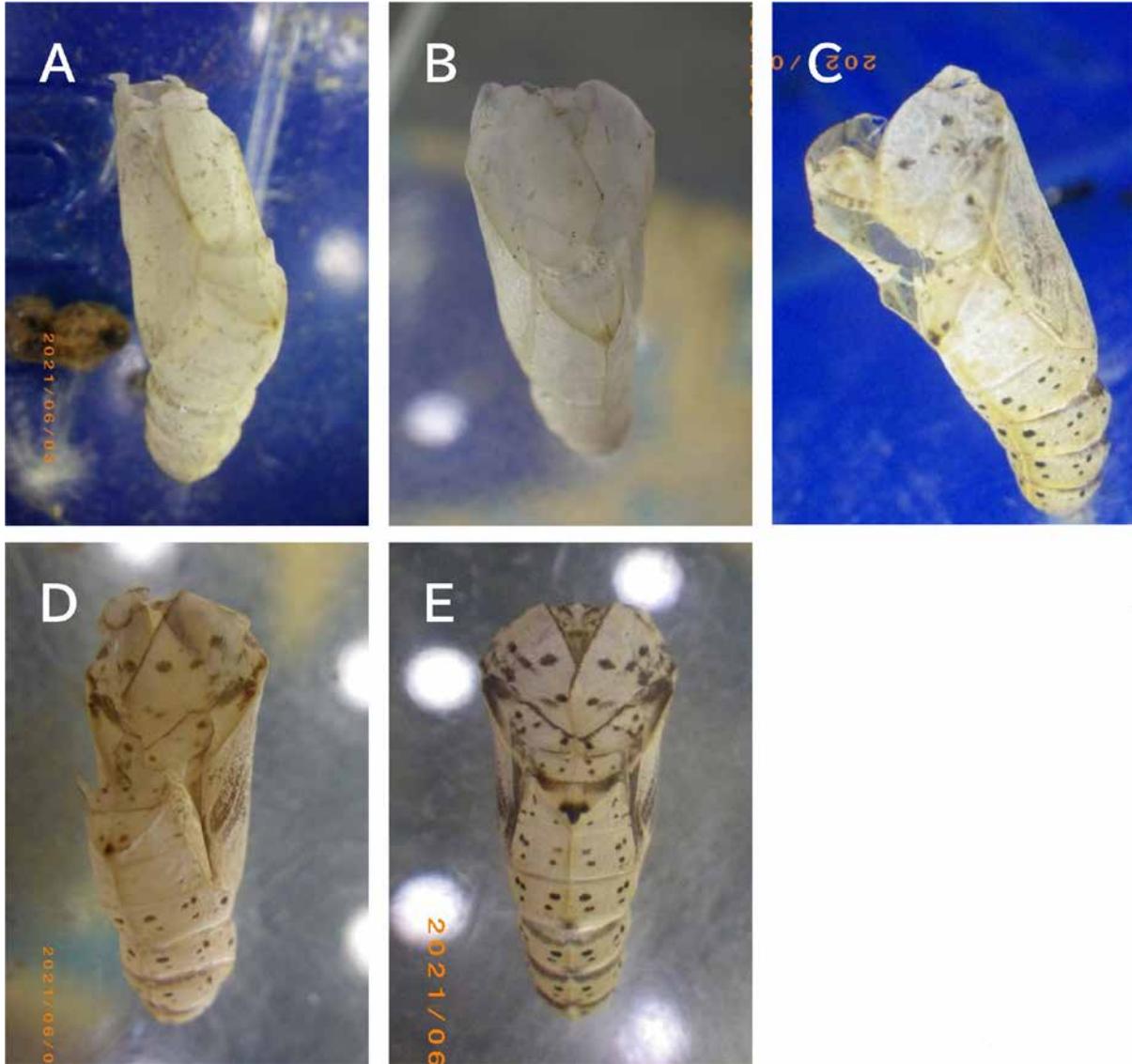


図5. exuvia に沈着するおそらくメラニン斑紋 AB. 無紋白色のもの=タイプⅠ, CD. 中間的=タイプⅡ, EF. 斑紋がしっかり入ったもの=タイプⅢ.

分泌細胞のメラトニン受容体に働き、カルシウムイオンの動員と、そして Rab タンパク質のリン酸化を介した PTH の exocytosis を誘導して、休眠は覚醒される (Ahmed et al., 2014). 短日における休眠維持と誘導は、メラトニンとは陰陽の関係になるセロトニンと、セロトニン受容体によって制御される (Wang et al., 2013).

## II. テングチョウの幼虫と蛹の体色多型

テングチョウ *Libythea celtis* は年 1 化で越冬成虫が春出芽したエノキに産卵し、そのまま夏と冬を超える。生きた化石という側面はあれ、年 1 回しか現れないから、季節型などあるはずはない。しかし、今年オオムラサキを飼育しようとして移植してきたエノキの枝にたくさん発生してきた。一見シロチョウ科の幼虫のような風体であるが、よく見ればいろんな色の個体が混在している。あつという間にエノキを坊主にしてしまった。そして隣

の木に移ってこれも坊主にしてしまった。あわてて、数十匹を容器に入れたら、そこで蛹化した。蛹化したものも多型があつて、かなりきれいな緑の物から黒っぽいものまで連続的である。幼虫の色彩は、はじめ葉の多い間は、緑の幼虫が多かったが、だんだん茶色の個体が増えてきた。

全体の Umwelt の色調が摂食とともに緑っぽいものが茶色に替わっていくのに対応している。オーケストラは違う音楽を奏でていくが、個々の幼虫は自分のパートをどうやって知るのだろうか。多型は母が決めるのだろうか、幼虫は周りの色を認識することができるのだろうか、周りの込み合いを認知できるのだろうか？それとも、加害に応じて植物のディフェンスにかかわるサリチル酸やゲラニル酸などの化学環境が作用するのだろうか？幼虫の色と、蛹の色は対応しているのか？

モンシロチョウや、アゲハチョウはバックグラウンド

の色に対応して、異なった蛹の色が決まるが、ここでも視覚か匂いかいろいろな主張がある。バッタで黒色褐色化を促進するコラゾニン、や AKH (red-pigment concentration hormone=RPGH と同じ仲間のペプチド、昆虫では脂質動員ホルモンと呼ばれる) や、メラトニンは、何か体色変化に影響を与えるのだろうか？

幼虫の体色変化について一般的には、色素は、真皮とクチクラに沈着あるいは血液成分として循環している。テングチョウでは、タイプとしては、褐色、黒色系を含まない全身緑= I、やや薄い褐色系が、特に体側にストライプとして現れるもの= II、それから褐色、黒が背側にも現れるもの= III、もう緑が見えない全身黒色= IV くらいに暫定的に区分できるだろう (図2)。発生の初期には、葉はあまり食われておらず、青虫は目立たない。それらの蛹化が始まると、そのころには暗色の幼虫個体が多くなる。それらは齢が I-II 齢遅れているように見える。この時にはエノキは枝だけのスケルトン状態になって、枝の黒っぽい状態が顕著である。したがって、このようなバックグランドでは黒い個体は隠ぺいされていることになる (図1)。

蛹にもかなりはっきりした多型があり、暗色の斑点を全く持たない緑の蛹= I から、黒い斑点は全く持たないが緑も見えない肌色系= II から、肌色に黒色の斑点= III から、段階的にほとんど全身真っ黒= IV までの段階がある (図3)。幼虫の体色と、蛹の体色の間に対応関係があるのかについては進行が速すぎて確認できなかった。

テングチョウは *crysalis* = 懸蛹を作るが、斜めの壁面には横向きの蛹を作る。このとき、半透明の屋根からぶら下がるタイプ、斜めの青いところ、半透明の壁面に作るものの割合、幼虫の型または蛹によって作る場所が変わるかについては図3のようになる。

暗色の斑点はクチクラに沈着することが *exuvia* を見ればわかる。大体 I-III くらいのグレードに分けることができる (図4)。

これらの変異はかなり、ドラマチックに起こり、環境条件の受容から、行動の変化も伴い、産卵から体色反応までの時間経過とともに、影響の現れる部位に違いがあって、バッタの相変異を髣髴とさせる。バッタの相変異ではかなり包括的な研究がなされ、様々な解明があったが (田中ら, 2021), これらと比較しながら、違いと共通点を明らかにしていけると面白い。今年、現象への遭遇から羽化まであっという間に時間がたって、十分な準備態勢が整わないまま終結してしまったのが残念であった

## ○引用文献

- Ahmed A.M.M., Q.-S. Wang, J. Bembenek, N. Ichihara, S. Hiragaki, T. Suzuki, M. Takeda (2014) *N*-acetyltransferase (*nat*) is a critical conjunct of photoperiodism between the circadian system and endocrine axis in *Antheraea pernyi*. PLoS ONE. 9; e92680.
- \* キャロル ショーン・B. (2007) 「シマウマの縞 蝶の模様 エボデボ革命が解き明かす生物デザインの起源」 (経塚淳子・渡辺政隆訳) 光文社 405pp. [訳書]
- \* ギルバート S.・イーペル D. (2012) 「生態進化発生学: エコ・エボ・デボの夜明け」 (正木進三・竹田真木生・田中誠二訳) 東海大学出版 (2012) 436pp. [訳書]
- Hiragaki S., T. Suzuki, A.A.M. Mohamed, M. Takeda (2015) Structures and functions of insect arylalkylamine *N*-acetyltransferase (*iaaNAT*): a key enzyme for physiological and behavioral switch in arthropods. *Frontiers in Physiology*. Doi:10.3389/2015.00113
- Hiroyoshi S., M. Takeda, T. Mitsunaga, Reddy GVP (2019) Quantitative response to photoperiod and weak coupling between seasonal morphs and diapause regulation in the Asian comma butterfly, *Polygonia c-aureum* (Lepidoptera: Nymphalidae). *Eur. J. Entomol.* 116: 123-132. DOI:10.1002/ece3.3334
- Kimura T., S. Masaki (1977) Brachypterism and seasonal adaptation in *Orgyia thyellina* Butlet (Lepidoptera; Lymantriidae). *Kontyu* 45; 97-106.
- Klein DC., (2007) Arylalkylamine *N*-acetyltransferase: "the Timezyme". *J Biol Chem.* 282(7); 4233-4237.
- Niva C., M. Takeda (2003) Effect of photoperiod and melatonin on nymphal development, polyphenism and reproduction in *Halyomorpha halys* (Heteroptera; Pentatomidae). *Zool. Sci.* 20; 963-970.
- 田中誠二 (編) (2021) バッタの大発生の謎と生態 北隆館 308pp.
- Wang Q.S., M.M. Ahmed, M. Takeda (2013) Serotonin receptor B may lock the gate of PTH release/synthesis in the Chinese silk moth, *Antheraea pernyi*; a diapause initiation/maintenance mechanism? PLoS ONE. 8; e79381.
- Yang F., E. Kawabata, M. Tufail, J.J. Brown, M. Takeda (2017) r/K-like trade-off and voltinism discreteness: The implication to allochronic speciation in the fall webworm, *Hyphantria cunea* complex (Arctiidae). *Ecology and Evolution* 7(24); 10592-10603. Doi:10.1002/ece3.3334

## 大阪府箕面市における 2020 年のアカギカメムシの記録

植村 貴<sup>1)</sup>

### 1. 概要

アカギカメムシ (*Cantao ocellatus*) は、キンカメムシ科の一種で、南西諸島や熱帯域に生息する南方系のカメムシである。本種は飛翔性が高く、これまでも九州、四国などで確認されているが、2020 年は本州各地をはじめ北海道でも多数確認されている。大阪府箕面市もその例外ではなく、2020 年 8 月から 2021 年 6 月にかけて箕面市環境クリーンセンターにおいて、51 頭のアカギカメムシを採集したことから、その詳細を報告する。

### 2. 採集場所

箕面市環境クリーンセンター（以下、「当センター」という）は、明治の森箕面国定公園にほど近い山あい（標高約 330m）に位置するごみ処理施設である（図 1）。当



図 1 箕面市環境クリーンセンター



図 2 外気の流れと冷却ファン

センターには冷却用の巨大なファンが複数設置されており、1 日中外気を強く吸い込み続ける構造となっていることから、昆虫が吸い込まれやすいという特徴がある（図 2）。今回確認したアカギカメムシの多くも、このファンの設置エリア内で発見したものである。

### 3. 採集の経過

最初にアカギカメムシを発見したのは 2020 年 8 月 31 日のオス 1 頭（死骸）であった。その後 1 カ月半経過した 10 月 14 日にオス 2 頭（死骸）、10 月 22 日にオス 1 頭（死骸）を発見するなど、10 月になって発見頻度が上昇した。この時点までの発見個体 4 頭はすべてオスの死骸であったが、10 月 25 日に市内在住の方から「アカギカメムシを捕獲した」との連絡が入った。捕獲個体を確認したところメスの生体であり、この個体はご厚意により譲っていただいたことから、飼育観察することとした。その後 10 月 27 日に当センターにて突然 5 頭の生体が出現（オス 4 頭、メス 1 頭）し、以後継続的に生体が観察されるようになった。10 月中には数頭の生体を飼育観察用に捕獲したが、その他の個体については、生体であれば確認日と性別、前胸背板の棘の有無を記録するに留め、死骸であれば採集することとした。死骸の採集は 2021 年 6 月まで続いたが、生体を最後に確認したのは 12 月 8 日（メス）であった。なお、飼育観察していた個体は 12 月 5 日までにすべて死亡した。

### 4. 採集個体の特徴

当センターにおけるアカギカメムシの採集個体 51 頭（A から AY）の写真を図 3 に示す。また、採集状況を表 1 に示す。51 頭の内訳は、オス 30 頭、メス 21 頭であり、オスの比率が高い。体長（頭楯先端から小楯板末端まで）は、オスは平均 17.3mm、メスは平均 18.8mm であり、メスの方が大きい傾向がある。前胸背板の棘の有無については、オスでは 30 頭中 17 頭が棘あり（57%）、メスでは 21 頭中 7 頭が棘あり（33%）であり、オスに棘あり個体が多かった。また、オスとメスの出現時期を比較すると、オスが早く、メスが遅い傾向がある。なお、出現

<sup>1)</sup> Takashi UEMURA 箕面市 市民部 環境クリーンセンター

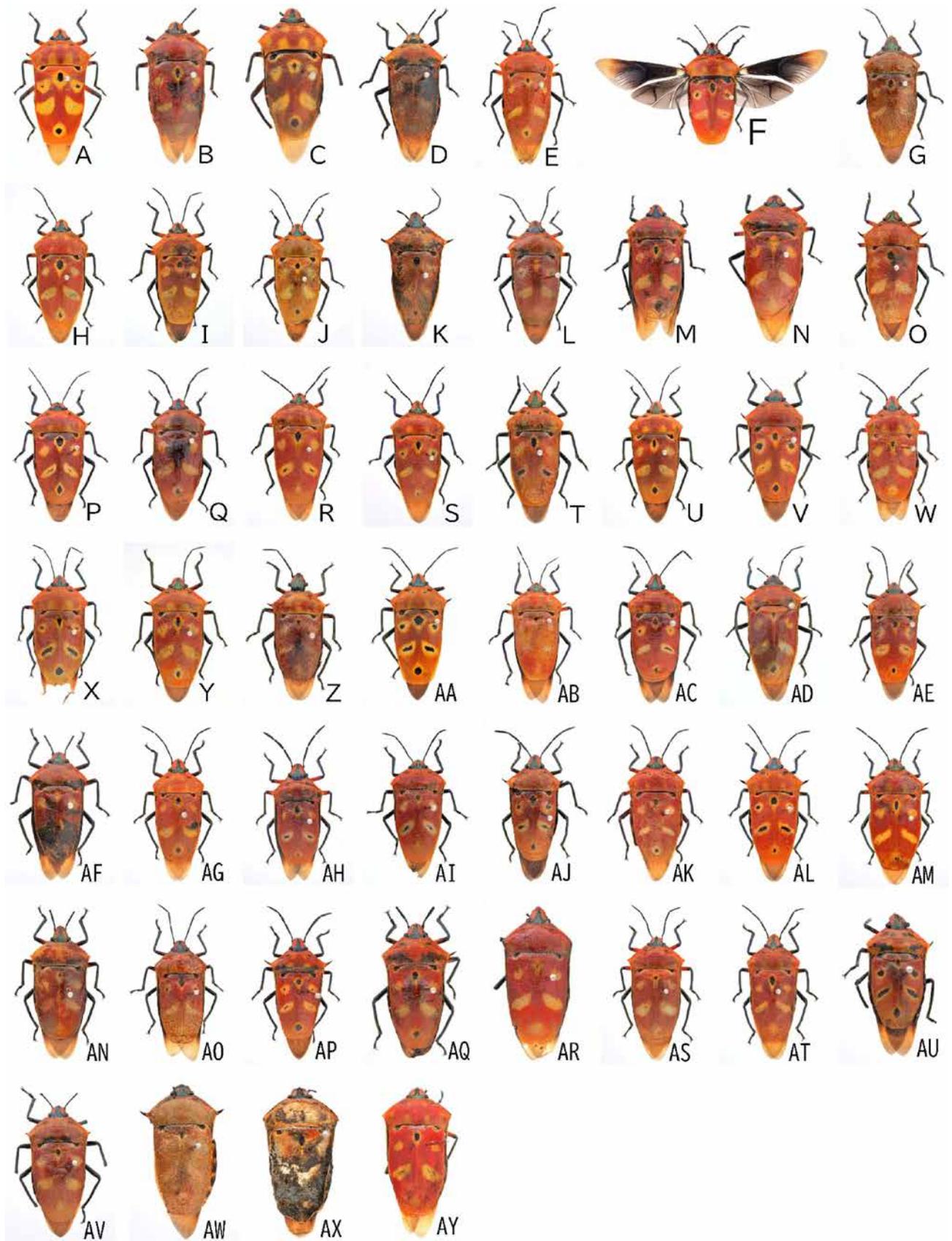


図3 採集したアカギカメムシ

表 1 採集状況

年月日	オス	メス	合計
2020/08/31	A(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/10/14	B(死骸, 棘有) C(死骸)	--	2(1)
2020/10/22	D(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/10/25	--	E(生体, 棘有)注	1(1)
2020/10/26	F(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/10/27	G(生体) I(生体, 棘有) J(生体) K(生体, 棘有)	H(生体)	5(2)
2020/10/28	L(死骸) M(死骸) P(死骸, 棘有)	N(死骸) O(死骸, 棘有)	5(2)
2020/10/29	--	Q(生体)	1(0)
2020/10/30	T(死骸) U(死骸) V(死骸, 棘有)	R(生体) S(死骸) W(死骸)	6(1)
2020/11/04	Y(死骸, 棘有) Z(死骸, 棘有)	X(死骸)	3(2)
2020/11/05	AA(死骸, 棘有)	AB(死骸, 棘有)	2(2)
2020/11/09	AC(死骸) AE(死骸, 棘有)	AD(死骸, 棘有)	3(2)
2020/11/12	AF(死骸)	--	1(0)
2020/11/17	AH(死骸)	AG(死骸)	2(0)
2020/11/18	AI(死骸) AJ(死骸, 棘有)	--	2(1)
2020/11/19	--	AK(死骸) AL(死骸, 棘有)	2(1)
2020/11/20	--	AM(死骸, 棘有)	1(1)
2020/11/25	AN(死骸)	AO(死骸)	2(0)
2020/11/27	AP(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/12/02	AQ(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/12/03	--	AR(死骸) AS(死骸)	2(0)
2020/12/09	--	AT(死骸)	1(0)
2020/12/17	AU(死骸, 棘有)	--	1(1)
2020/12/18	AV(死骸, 棘有)	--	1(1)
2021/02/08	--	AW(死骸, 棘有)	1(1)
2021/05/07	AX(死骸)	--	1(0)
2021/06/25	--	AY(死骸)	1(0)
合計	30(17)	21(7)	51(24)

(カッコ) 内数値は棘有り個体数.  
注) 市内発見個体.

時期と棘の有無には明確な関連は見られなかった.

表 1 の採集個体 51 頭のうち 43 頭は死骸の採集であるため, 出現時期と採集時期にはずれが生じている. 特に 2021 年に入ってからの採集個体は, いずれも死後かなりの日数が経過しているように思われる個体であった.

そこで, 死骸の採集と並行して記録していた生体の観察結果を表 2 に示す. なお, 当センターの冷却ファン付近に吸い込まれた昆虫は, 外気の流れに逆らって再びセンター外へ脱出することは容易ではないことから, 同一個体を複数日にわたって記録している場合が多数含

表 2 生体確認状況

年月日	オス	メス	合計
2020/10/25	--	1(1)注	1(1)
2020/10/27	4(2)	1(0)	5(2)
2020/10/28	1(0)	--	1(0)
2020/10/29	2(0)	1(0)	3(0)
2020/10/30	1(0)	1(0)	2(0)
2020/11/02	1(0)	1(1)	2(1)
2020/11/04	1(0)	1(1)	2(1)
2020/11/05	1(1)	--	1(1)
2020/11/06	2(1)	3(2)	5(3)
2020/11/09	1(1)	1(1)	2(2)
2020/11/11	1(1)	--	1(1)
2020/11/12	1(1)	--	1(1)
2020/11/16	1(0)	2(0)	3(0)
2020/11/17	2(1)	1(0)	3(1)
2020/11/18	1(1)	2(1)	3(2)
2020/11/19	--	1(1)	1(1)
2020/11/20	--	1(0)	1(0)
2020/11/25	1(1)	1(0)	2(1)
2020/11/26	1(1)	1(0)	2(1)
2020/11/27	--	1(0)	1(0)
2020/11/30	--	1(0)	1(0)
2020/12/01	--	1(0)	1(0)
2020/12/02	--	1(0)	1(0)
2020/12/04	--	1(0)	1(0)
2020/12/07	--	1(0)	1(0)
2020/12/08	--	1(0)	1(0)
合計	22(11)	26(8)	48(19)

(カッコ) 内数値は棘有り個体数.  
注) 市内発見個体.

まれていることに注意する必要がある. 同一個体を複数回記録しているため, 確認総数を議論することは意味をなさないが, 10 月末から 12 月初にかけて継続的に生体を確認している.

アカギカメムシはアカメガシワ等集まり, ときに集団を形成することが知られている. 当センター敷地内のアカメガシワの観察も続けたが, アカギカメムシは発見できなかった. 今回の採集個体及び観察個体は市内で捕獲された個体 E を除き, すべて当センター施設内または施設外周道路上で発見したものである.

表3 大阪市の気温の比較

年月	平均 (°C)	日最高 (°C)	日最低 (°C)
2020年8月	30.7 (29.0)	35.7 (33.7)	27.1 (25.8)
2020年9月	25.8 (25.2)	30.0 (29.5)	22.8 (21.9)
2020年10月	18.7 (19.5)	22.9 (23.7)	15.1 (16.0)
2020年11月	14.7 (13.8)	19.0 (17.8)	10.9 (10.2)
2020年12月	8.7 (8.7)	12.5 (12.3)	5.1 (5.3)

・数値は気象庁のデータによる。  
 ・(カッコ)内は平年値, 統計期間は1991-2000年。

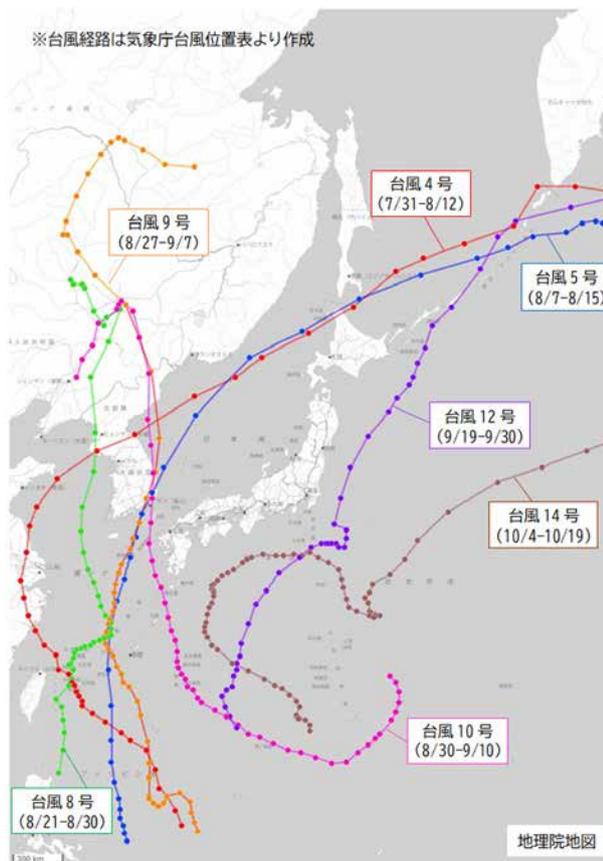


図4 2020年に日本に接近した台風

### 5. 確認時期と気象条件について

2020年は当センターに限らず、全国的にアカギカメムシが確認されている。アカギカメムシには「温暖な地域に生息する」「高い飛翔性を有する」という特徴があることから、2020年における気温と強い風(台風)の2点について整理を行ってみた。

表3には2020年8月から12月の大阪市の平均気温と平年値の比較を示す。平年より気温が高い月が多いが、アカギカメムシが多く見られるようになり始めた10月は平年よりも気温が低い。

図4には2020年に日本に接近した台風の経路を示

す。2020年は台風は一度も日本本土へ上陸していない。アカギカメムシが多く見られるようになり始めた10月には台風14号が接近しているが因果関係は不明である。なお、近畿地方では2020年10月23日に過去最早タイ記録となる木枯らし1号が観測されている。何らかの理由で近畿地方にたどり着いたアカギカメムシが、木枯らし1号の強い風に乗って当センターへ飛来した可能性は十分に考えられる。なお、アカギカメムシの飛来と気象条件の関係性についてはさらなる調査及び分析が必要だと考える。

### 6. 最後に

当センターは市内小学校の社会見学で毎年小学生が来場するなど、ごみ減量や自然環境に関する啓発施設でもある。今回採集したアカギカメムシは標本として施設内にて保管・展示することとした。

当センターは1日中外気を強く吸い込み続ける構造を持つことから、多くの昆虫が集まって来る。2019年夏には当センター内で外来種フェモラータオオモボトハムシも発見している。このように、当センターはその特徴から、周辺の昆虫相の変化をいち早く察知するアンテナとしての役割にも期待できるため、今後も継続的な活用が必要であると考え。なお、当センターでは2020年9月12日にアカギカメムシと同じキンカメムシ科であるオオキンカメムシのメス1頭(生体)を採集したことも付記しておく。

### 7. 参考文献

堀 繁久・野村 昭英, 2021. 2020年秋に北海道へ飛来及び漂着したアカギカメムシ. 北海道博物館研究紀要, 第6号.  
 八木 剛, 2020. 2020年に10件得られたアカギカメムシの発見情報. きべりはむし, 43 (2): 48.

## ハルゼミの1色彩変異

### Note on color variant of *Yezoterpnosia vacua* from Hyogo Prefecture

児島孝宣<sup>1)</sup>・東野ななみ<sup>2)</sup>・渡邊詳丈<sup>3)</sup>

ハルゼミ *Yezoterpnosia vacua* (Oliver, 1790) は、関東以西から九州にかけて主に平地のマツ林に生息し、4月下旬頃から6月末頃まで見ることができる。兵庫県内でも各所で記録されているが県版レッドリスト(2012)では「要注目」とされている。

その体色は通常♂は黒色、♀は褐色で黒斑を有し、体表面は灰色の鱗毛を装っている(図3, 図6)が、今回これまでに知られていない色彩変異を有する1♂(図1, 図2)1♀(図4, 図5)が相次いで得られたので報告する。

♂は羽化直後のもの、♀はアカマツの幹を登っていた幼虫を羽化させたもので、いずれも渡邊が発見し採取した。♀は羽化させていた干し籠の網目に右前翅の先端が引っかかりSc脈およびRA脈が途中から伸長できなくなったため、先端の翅端室が正常に形成されない不全を起こした。しかし、これは事故でセミ自体に起因したものである。

両個体とも吸汁用にアカマツの枝を与えて飼育を試みたが、体が固まり着色が完了して以降も摂食を開始することなく死亡した。生存期間はともに羽化後2日弱だった。

いずれの個体も死後間もなく東野の元に送付され乾燥標本にされた後保管されている。

[標本データ]

1♂, 兵庫県西脇市, 30. IV. 2021

体長25mm, 翅端長33mm. やや小型. 前胸背の内片および外片は橙色. 中胸背はX隆起を含め黒色で側縁は緑色. 腹部は腹弁を含め背腹とも橙色. 体表を覆う鱗毛は金色. 翅脈は暗緑褐色で脈相や暗色紋に異常は認められないものの右側の前後翅が左側よりほんの少し短い.

1♀, 兵庫県多可町, 16. V. 2021

体長19mm. 翅端長28mm. 矮小個体. 中胸背は暗褐色で褐色の紋がみられ, 側縁は緑色. 前胸背および腹部は橙色となるが, 前胸背中央部と内片の溝は黒色を留める. 翅脈は緑褐色で脈相や暗色紋に異常は認められないが羽化時に右前翅が撚れて伸長し切れていない. 産卵管が黄色を呈している.

最後に、発表に際してご助言を賜った中峰 空氏、文献を手配して下さった宮武頼夫氏に感謝申し上げます。

○参考文献

林 正美・税所康正, 2015. 改訂版日本産セミ科図鑑. 224pp. 誠文堂新光社, 東京

税所康正, 2013. ハルゼミの色彩変異と羽化後の色彩変化. *Cicada*, 21:4-6



図1 ハルゼミ♂色彩変異型.



図2 羽化後5時間30分経過.



図3 基本型♂.



図4 ハルゼミ♀色彩変異型.



図5 羽化後18時間20分経過.



図6 基本型♀.

<sup>1)</sup> Takanori KOJIMA 日本セミの会 <sup>2)</sup> Nanami HIGASHINO 大阪市 <sup>3)</sup> Yoji WATANABE 西脇市動植物生態調査研究グループ

## 兵庫県におけるクビボソコガシラミズムシの最近の採集記録と生態的知見

脇村涼太郎<sup>1)</sup>・下野誠之<sup>2)</sup>・森 正人<sup>3)</sup>

### はじめに

クビボソコガシラミズムシ *Haliphus japonicus* Sharp, 1873 は, コガシラミズムシ科 Haliplidae ヒメコガシラミズムシ属 *Haliphus* に属する水生甲虫である。植物が豊富な環境に生息し, 水質が良好なため池の浅い湿地や, 水田脇の流れの緩やかな水路, 河川のよどみなどで見られるとされる (中島ほか, 2020)。環境省レッドリスト 2020 では「情報不足」のカテゴリーに評価されており, 保全に資する生態的な知見や分布状況の把握が望まれている (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2020)。

筆者らは, 兵庫県姫路市の東部を流れる市川 (いちかわ) の下流域において本種の生息を確認しており, 採集時に得られた興味深い生態的知見と併せて報告する。

### 採集記録

- 3exs., 兵庫県姫路市兼田, 25. XII. 2020, 脇村採集, 森保管。
- 5exs., 同所, 29. XII. 2020, 脇村採集, 保管。
- 5exs., 同所, 同日, 下野採集, 保管。
- 12exs., 同所, 同日, 森採集, 保管。

### 兵庫県における本種の記録

兵庫県では, 尼崎市, 西宮市, 神戸市, 三木市, 氷上郡 (現丹波市氷上町) など県中南部地域における古

い記録があるものの (谷口, 1944; 山本, 1952; 大倉, 1955; 高橋, 1997), 1992 年に美囊郡吉川町 (現三木市吉川町) で得られた 1 個体 (高橋, 1997) を最後に記録が途絶えている。

### 市川における生息環境

採集場所は市川下流域の河川内で, 土砂の堆積等によりワンド状の環境となっている。植生はほとんどなく, 底質はこぶし大程度の石の上に泥が堆積している状態であった (図 1)。採集はワンド内に沈んでいる流木やワンド出口付近の河川岸辺付近の流木を拾い上げ, その表面をチェックすることで動き出す個体を見つけることが出来た (図 2)。条件の良さそうな流木 1 本から 5 頭が得られることもあり, 明らかに流木の樹皮下や窪みに意識的に潜んでいると思われる。このような採集方法はある種のヒメドロムシの採集に有効な方法であるが, 実際に当日もヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp, 1888 やイブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura, 1958 が同時に観察された。

### 河川における本種の記録

河川と本種の間にはいくつかの報告がある。新井 (2005) は埼玉県深谷市の利根川河川敷において本種を記録 (8 月の記録が多い) しており, 本種の好む生



図 1 姫路市市川下流の生息環境。



図 2 流木表面のクビボソコガシラミズムシ。

<sup>1)</sup> Ryōtarō WAKIMURA 東海大学生物学部 <sup>2)</sup> Masayuki SHIMONO 環境科学大阪株式会社 <sup>3)</sup> Masato MORI 環境科学大阪株式会社

息環境として、河川流域の止水域、水底より湧水の存在、水辺に多くの草本が生育、日当たりが良くない、浅い場所を好む、水底は泥であるがヘドロではない、等々をあげているが、そのいくつかは今回の確認環境にも当てはまる。また、中西 (2011) は滋賀県彦根市犬上川において河岸の植物根際から採集 (8 月)、金尾 (2013) は滋賀県東近江市の公園内水路での採集事例 (9 月)、渡部 (2015) は石川県能美市手取川本流の植物の根際からの採集事例 (6 月)、岩田・内田 (2020) では河川敷にある大型ワンドの植物が多い地点、河畔林内にある伏流水で形成された小規模な池での採集事例 (5 月, 7 月, 10 月) を報告している。これらのことから、本種の河川における生息環境として水質が良好な流水域もしくは植生が豊富な河川内の止水域であることが挙げられる。

### おわりに

今回本種を発見した場所は、コイ、ライギョ、ブルーギル、ウシガエル、アメリカザリガニなども生息しており、植生はほとんどなく、水質についても決して良好な河川ではない。また河川の増水の影響も受けやすい不安定な環境でもあり、本種の生息環境としてイメージしにくい環境であるが故に、これまで十分な調査が行われていなかった可能性がある。また、採集時期の冬季 (12 月) も我々には意外な時期であったのだが、実際には越冬しているような状況ではなかった。あまり先入観を持たないことも必要ではないだろうか。

今後、県下や各地において本種が追加記録されることを期待したい。

### 謝辞

本稿を作成するにあたり、中島 淳氏には問い合わせに応じていただいた。金尾滋史氏、中西康介氏、久末遊氏には文献についてご教示いただいた。黒田宏一郎氏には調査に同行していただいた。末筆ではあるが、厚く御礼申し上げる。

### 引用文献

- 新井浩二, 2005. 埼玉県利根川流域のクビボソコガシタミズムシ. 寄せ蛾記, (118):17-23
- 岩田泰幸・内田大貴, 2020. 荒川中流域の 1 地点における埼玉県絶滅危惧種の水生甲虫の生息状況. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 14:53-58.
- 金尾滋史, 2013. 滋賀県東近江市におけるクビボソコガシラミズムシの記録. Came 虫, (171):12
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <http://www.env.go.jp/press/107905.html> (2021 年 8 月 30 日参照)

- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版, 20pp.
- 中西康介, 2011. 滋賀県におけるクビボソコガシラミズムシの記録. Came 虫, (159):6
- 大倉正文, 1955. 原色日本昆虫図鑑甲虫編 増補改訂版. 保育社
- 高橋寿郎, 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録 (1). きべりはむし, 25(1):2-10.
- 谷口和義, 1944. 阪神地方の小頭水虫類. 昆虫世界, 48(562):114
- 渡部晃平, 2015. 石川県で採集した水生昆虫の記録 (2015). とっくりばち, 83:35-40
- 山本義丸, 1952. 兵庫県 (丹波国) 氷上郡より記録する水棲甲虫. Ento. Investigation. (中国地方昆虫誌), 2(1):13-18

## ナミテントウの斑紋タイプ その2 (兵庫県朝来市・養父市)

近藤伸一<sup>1)</sup>

ナミテントウには翅の斑紋に遺伝的多型が存在し、二紋型、四紋型、まだら型、紅型の4タイプに分類されている。斑紋のタイプは北に行くほど紅型が多く、南に行くほど二紋型が多いとされている。

2013年に朝来市上八代の神社(標高250m, 南西斜面)で越冬前に集まったナミテントウの斑紋調査の結果を報告したが(近藤, 2013), その後同所と北に隣接した養父市長野の斎神社でも斑紋調査を行ったので報告する。

### 1 朝来市上八代

前回の報告(近藤, 2013)に2014年の記録を加えた。2015年以降は晩秋になっても付近のモミジが落葉せず、日当たりが悪くなり集団の飛来は見られなくなった。

### 2 養父市長野

前記の朝来市上八代に隣接した養父市長野の斎神社(標高210m)で2017, 2019, 2021年に調査を行った。斎神社は県道に面した南西斜面に位置し、11月の快晴の日に神社の玉垣や鳥居に多数のナミテントウが飛来してくる。

表1 朝来市上八代.

タイプ	2013 11/24・12/5		2014 11/24・11/28		合計	
	個体数	%	個体数	%	個体数	%
2紋型	350	75.6	172	73.2	522	74.8
4紋型	53	11.4	25	10.6	78	11.2
まだら型	16	3.5	10	4.3	26	3.7
紅型	44	9.5	28	11.9	72	10.3
計	463		235		698	

表2 養父市長野.

タイプ	2017 11/26		2019 11/17		2021 11/17		合計	
	個体数	%	個体数	%	個体数	%	個体数	%
2紋型	325	73.2	129	76.8	137	68.2	591	72.7
4紋型	58	13.1	19	11.3	29	14.4	106	13.0
まだら型	17	3.8	6	3.6	11	5.5	34	4.2
紅型	44	9.9	14	8.3	24	11.9	82	10.1
計	444		168		201		813	

表3 南但馬(朝来市, 養父市)の斑紋タイプ集計.

二紋型 74% (1113 個体)	四紋型 12% (184 個体)	まだら型 4% (60 個体)	紅型 10% (154 個体)
			

### 3 調査結果

朝来市, 養父市地区の結果をみるとタイプごとにほぼ同じ割合で現れた。南但馬地域の斑紋タイプの割合はかなり安定しているものと思われる。

### 4 新たに確認した斑紋のタイプ

2013年の調査で22種類の斑紋タイプを紹介したが、今回新たに次のタイプを確認した。



写真1 採集場所の養父市長野斎神社.



写真2 鳥居を這う ナミテントウ  
2017年11月26日, 午後3時ごろ.

### ○引用文献

近藤伸一, 2013. ナミテントウの斑紋タイプ(兵庫県朝来市). きべりはむし, 36 (1): 8-9.

<sup>1)</sup> Shinichi KONDO 兵庫県朝来市

「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010年～2020年の昆虫の記録—」の再検討（補遺及び訂正点・正誤表）

宇野宏樹<sup>1)</sup>

1. はじめに

筆者は2014年から2021年の約7年間において宝塚市のゆずり葉台緑地公園で昆虫類の調査を行い、その結果をきべりはむし誌上で「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010年～2020年の昆虫の記録—」に報告してきた。しかしながら、これらの報告について、同定・日付を中心としたいくつかのデータには確認が行き届かず不備もあったので、本記事にて訂正したい。また、追加の記録を補遺という形でここに掲載する。

2. 補遺

ゆずり葉台緑地公園及びその周辺で得られた昆虫のうち、報告を保留していたが新たに同定できた種及び2021年に新たに得た種等を追加記録として報告する。なお、採集地はすべてゆずり葉台緑地公園付近（宝塚市逆瀬台一丁目と宝塚市蔵人、宝塚市ゆずり葉台1丁目、宝塚市ゆずり葉台2丁目にまたがったエリア）である。

ニッコウトガリバ *Epipsestis nikkoensis*

3exs., 8. XI. 2014; 6exs.(図1), 2. XI. 2019.

ムラサキトガリバに似るが、腹部に黒い毛束を持つことから、ニッコウトガリバと同定した。兵庫県では、川西市・南淡町などから記録があるが、1999年の文献では調査が不十分とされ、注目種として扱われている(高島, 1999)。なお上記の筆者の記録のうち、2019年の記録のいくつかは、檜ヶ峰登山道で行った糖蜜採集時に飛来した個体である。「宝塚の昆虫Ⅲ」及び「宝塚の昆虫Ⅶ」、また筆者の「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録Ⅰ」にはムラサキトガリバの記録のみが報告されている(掲載されている写真及び、筆者の標本を確認したが、正しくムラサキトガリバである)が、宝塚市ではこれに加えて本種が混生している可能性が示唆される。なお、前述のとおり本種は糖蜜に飛来するので、キリガの調査のついでなどに注意すれば、県内で新たな産地が見つかるかもしれない。

クロスジキリガ *Xylopolia bella*

2exs., 29. III. 2021.

チャイロキリガ *Orthosia odiosa*

1ex., 2021年春.

日付は記録できていない。

ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*

1ex., 23. X. 2021.

オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus*

1ex., 10. XI. 2019.

アカヘリナガカメムシ *Arocatus sericans*

2exs.(図2), 4. XI. 2021.

兵庫県における本種の記録は多くないと思われる。ゆずり葉台緑地公園内を流れる逆瀬川において、樹種不明のビーティングで上記の2個体を得た。

イトカメムシ *Yemma exilis*

1ex., 2021年秋.

日付は記録できていない。

クロホシカメムシ *Pyrhocoris sinuaticollis*

1ex., 31. X. 2021.



図1 宝塚市産ニッコウトガリバ

<sup>1)</sup> Hiroki UNO 兵庫県西宮市

3. ミスの訂正 (正誤表)

ゆずり葉緑地及びその周辺で得られた昆虫の記録について、同定や日付、地名などのミスがあったので訂正したい。

3-a. きべりはむし第 42 巻第 2 号「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I」の訂正箇所



図 2 宝塚市産アカヘリナガカメムシ

キマダラカメムシ *Erthesina fullo*

1ex.( 撮影・図 3), 22. X. 2021.

後述する正誤表で触れるが、宇野 (2021) でのキマダラカメムシの記録は削除する。かわりに、ゆずり葉緑地公園での確実なキマダラカメムシの記録として、上記の記録を報告しておきたい。

マルシラホシカメムシ *Eysarcoris guttigerus*

1ex., 12. V. 2020.

マダラアシゾウムシ *Ectatorhinus adamsii*

1ex., 13. V. 2016.

アカクビボソハムシ *Lema diversa*

1ex., 30. IV. 2020.

上翅の色彩は青藍色で末端部は赤褐色の個体であった。

マルガムシ *Hydrocassis lacustris*

4exs., 11. I. 2021.



図 3 宝塚市産キマダラカメムシ

ページ	段	項	誤	正
p.32	左段		採集地はすべてゆずり葉緑地公園の内部及び周辺 (宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目) にまたがったエリア) である。	採集地はすべてゆずり葉緑地公園の内部及び周辺 (宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目及び宝塚市小林西山・宝塚市野上 6 丁目) にまたがったエリア) である。
p.32	右段		また、蛾類の掲載順序は日本産蛾類標準図鑑 I に従っており、宝塚市ですでに記録がある種には○印を、兵庫県ですでに記録があるが宝塚市では初記録と思われる種には☆印および簡易な説明を、兵庫県で初記録と思われる種には★印および説明を、それぞれ付記している。	また、蛾類の掲載順序は日本産蛾類標準図鑑 I に従っており、宝塚市及びその周辺ですでに記録がある種には○印を、兵庫県ではすでに記録があるが、東正雄氏の「宝塚の昆虫」シリーズをはじめとした、宝塚市の蛾類について言及したいいくつかの文献で記録されていない種には☆印および簡易な説明を、兵庫県で初記録と思われる種には★印および説明を、それぞれ付記している。
p.32	右段	キンモンガ	1.VIII. 2015.	31. VII. 2015 – 2. VIII. 2015.
p.32	右段	クロオビシロフタオ	1ex., 3. VI. 2016.	1ex., 3. IV. 2016.
p.33	左段	アシベニカギバ	1ex., 26. IX. 2014.	<i>Oreta</i> 属の一種に訂正
p.33	左段	オオアヤトガリバ	1ex., 24. IV. 2016.	アヤトガリバ <i>Habrosyne pyritoides</i> に訂正
p.33	左段	ムラサキトガリバ	2exs., 25. X. 2014.	1ex., 25. X. 2014.
p.33	右段	フタホシシロエダシャク	1ex., 6. IV. 2016	削除
p.34	右段	オオバナミガタエダシャク	1♂, 3. VIII. 2015; 1♂, 11. VIII. 2015.	ウスバミスジエダシャク <i>Hypomecis punctinialis</i> の♂に訂正
p.34	右段	リンゴツノエダシャク	1♀, 30. IX. 2015.	削除
p.35	左段	チャオビトビモンエダシャク	筆者は西宮市でも新鮮な本種を採集しているの、合わせて報告しておきたい。	筆者は宝塚市の別地点でも新鮮な本種を採集しているの、合わせて報告しておきたい。
p.35	左段	チャオビトビモンエダシャク	1♂, 兵庫県西宮市塩瀬町名塩武田尾, 18. III. 2016	1♂, 兵庫県宝塚市玉瀬武田尾, 18. III. 2016
p.35	右段	カバエダシャク	4♂ 1♀, 16. XI. 2014	削除
p.35	右段	ニトベエダシャク	1♀, 14. XI. 2015; 1♀, 21. XI. 2015.	削除
p.36	左段	ヒメノコメエダシャク	2♀, 24. X. 2014.	1♀, 24. X. 2014.
p.36	右段	<i>Corymica</i> 属	1ex., 10. IX. 2014.	1ex., 30. IX. 2014.
p.37	右段	フタモンクロナミシャク	17. VI. 2016.	1ex., 8. VII. 2016.
p.38	左段	ウスタビガ	1♀ 7. XI. 2015	1♀ 9. XI. 2014
p.38	左段	ウスタビガ	1♀ 2♂, 14. XI. 2015.	2♀ 1♂, 14. XI. 2015.
p.38	右段	コエビガラスズメ	1ex., 8. V. 2015.	1ex., 31. VII. 2015-2. VIII. 2015.
p.38	右段	セスジスズメ	1ex., 29. VI. 2014	コスズメ <i>Theretra japonica</i> に訂正※ 1 また、日付は 28. VI. 2014 – 30. VI. 2014. に訂正

p.38	右段	セスジズメ	1ex., 31. VII. 2015.	削除※ 1
p.39	左段		なお目撃はしたが採集・撮影していない種に、 <i>Acosmeryx castanea</i> O. Rhagastis 属の一種が挙げられる。	なお目撃はしたが採集・撮影していない種に、 <i>Acosmeryx</i> 属の一種・Rhagastis 属の一種が挙げられる。

※ 1 池田・阪上 (2020) で引用されているが、これらのデータも誤りなので、引用の際は注意されたい。

3-b. きべりはむし第 43 巻第 1 号「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II」の訂正箇所

ページ	段	項	誤	正
p.18	左段		採集地は既報と同じくすべてゆずり葉台緑地公園内部及び周辺 (宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目にまたがったエリア) であり、採集者・標本の管理者はすべて筆者である。	採集地は既報と同じくすべてゆずり葉台緑地公園内部及び周辺 (宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目及び宝塚市小林西山・宝塚市野上 6 丁目にまたがったエリア) であり、採集者・標本の管理者はすべて筆者である。
p.18	左段		蛾類の掲載順序は日本産蛾類標準図鑑 II に従っており、前回と同じく宝塚市ですでに記録がある種には○印を、兵庫県では宝塚市では初記録と思われる種には☆印および簡易な説明を、兵庫県で初記録と思われる種には★印および説明を、それぞれ付記している。	蛾類の掲載順序は日本産蛾類標準図鑑 II に従っており、前回と同じく宝塚市及びその周辺ですでに記録がある種には○印を、兵庫県では宝塚市では初記録があるが、東正雄氏の「宝塚の昆虫」シリーズをはじめとした、宝塚市の蛾類について言及したいいくつかの文献では☆印および簡易な説明を、兵庫県で初記録と思われる種には★印および説明を、それぞれ付記している。
p.18	右段	オオトビモンシャチホコ	1ex., 9. VI. 2015	1ex., 9. XI. 2015
p.18	右段	ムクツマキシャチホコ	1ex., 25. VII. 2015. 及び 2exs., 29. VII. 2015. のうち 1 個体	タカサゴツマキシャチホコ <i>Phalera takasagoensis</i> に訂正
p.18	右段	ムクツマキシャチホコ	2exs., 29. VII. 2015. としたうち上記とは別の 1 個体	ツマキシャチホコ <i>Phalera assimilis</i> に訂正。ムクツマキシャチホコの記録は削除となる。
p.19	左段	ツマジロシャチホコ		タカオシャチホコ <i>Hiradonta takaonis</i> に訂正
p.19	左段	オオエグリシャチホコ	1.VIII. 2015.	31. VII. 2015 - 2. VIII. 2015.
p.20	左段	マエグロホソバ	1 ♂, 17. V. 2015.	1 ♂, 17. VI. 2015.
p.20	右段	アカヒトリ	2exs., 21. IX. 2014	1ex., 21. IX. 2014.
p.20	右段	カノコガ	1ex., 5. IX. 2016.	2014 ~ 2021 年目撃
p.20	右段	クロオビリング		<i>Gelastocera</i> 属の一種に訂正 ※ 2
p.20	右段	ウスアオリング	筆者は西宮市でも本種を採集しているので報告しておきたい。	筆者は宝塚市の別地点でも本種を採集しているので報告しておきたい。
p.20	右段	ウスアオリング	1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町名塩武田尾, 2. IV. 2016. 筆者採集	1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬武田尾, 2. IV. 2016. 筆者採集
p.21	左段	ギンボシリング	1ex., 8. IV. 2016.	1ex., 18. IV. 2016.
p.21	左段	ベニモンアオリング		アカマエアオリング <i>Earias pudicana</i> に訂正

p.21	左段	キシタアツバ	1ex., 16. IX. 2015.	2014 ~ 2021 年目撃
p.21	左段	タイワンキシタアツバ	1ex., 30. IX. 2014.	削除
p.21	右段	ウスモモイロアツバ		宝塚市初記録としたが、誤同定の可能性があるため、この記録は削除
p.22	左段	モンシロクルマコヤガ	1ex., 18. X. 2015.	1ex., 15. X. 2015.
p.22	左段	ソトウスグロアツバ		<i>Hydrillodes</i> 属の一種に訂正
p.22	右段	ニジオビベニアツバ	1ex., 6. VI. 2015; 1ex., 29. VII. 2015	削除
p.22	右段	アケビコノハ	1ex., 7. VI. 2015.	1ex., 17. VI. 2015.
p.23	左段	アシブトクチャバ	1ex., 13. X. 2015.	1ex., 3. X. 2015.
p.23	左段	オニベニシタバ	2exs., 8. VII. 2015.	2exs., 10. VII. 2015. ※ 3
p.23	右段	ウスグロクチャバ	筆者は本種を西宮市でも採集しているので報告しておきたい。	筆者は本種を武田尾でも採集しているので報告しておきたい。
p.23	右段	ウスグロクチャバ	1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町名塩武田尾, 5. IV. 2016. 筆者採集	1ex., 兵庫県南東部武田尾, 5. IV. 2016. 筆者採集
p.24	左段	ミツモンキンウワバ	1ex., 31. VIII. 2014.	イチジクキンウワバ <i>Chrysodeixis eriosoma</i> に訂正
p.24	左段	オオトウスグロクチャバ	1ex., 16. IX. 2015; 1ex., 17. X. 2015.	削除
p.24	右段	イチジクキンウワバ	1ex., 31. VIII. 2014.	ミツモンキンウワバ <i>Ctenoplusia agnata</i> に訂正
p.24	右段	ウリキンウワバ	2exs., 9. X. 2015.	1ex., 9. X. 2015; 1ex., 10. X. 2015.
p.24	右段	ギンモンシロウワバ	2exs., 6. VI. 2015.	1ex., 6. VI. 2015.
p.25	左段	コマルモンシロガ	1ex., 9. VI. 2015.	1ex., 1. VII. 2015.
p.25	左段	マイコトラガ	1ex., 18. III. 2016.	削除
p.25	右段	ウスアオキノコヨトウ	1ex., 8. VII. 2015.	1ex., 18. VII. 2015.
p.25	右段	ケンモンミドリキリガ	1ex., 16. XI. 2014	削除
p.26	右段	カシワオビキリガ	1ex., 9. XI. 2014.	1ex., 29. XI. 2014
p.27	左段	フタオビキヨトウ	1ex., 15. IX. 2015.	削除
p.27	左段	ヨモギキリガ	筆者は西宮市でも本種を確認しているので報告しておきたい。	筆者は宝塚市の別地点でも本種を確認しているので報告しておきたい。
p.27	左段	ヨモギキリガ	1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町名塩武田尾, 2. IV. 2016. 筆者採集.	1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬武田尾, 2. IV. 2016. 筆者採集.
p.27	左段	シロヘリキリガ	1ex., 18. III. 2016.	1ex., 10. III. 2016.
p.27	右段	オオバコヤガ	1ex., 30. IX. 2014 及び 2exs., 9. X. 2014	コウスチャヤガ <i>Diarsia deparca</i> に訂正
p.27	右段	オオバコヤガ	3exs., 27. IX. 2014 のうち 2 個体及び 2ex., 24. X. 2014.	<i>Diarsia</i> 属の一種に訂正
p.27	右段	アカフヤガ		ウスイロアカフヤガ <i>Diarsia ruficauda</i> に訂正
-	-		29. VI. 2014. としたデータ	28. VI. 2014 - 30. VI. 2014. に訂正

※ 2 本種はアカオビリングとの同定が難しいため、「*Gelastocera* 属の一種」に訂正しておきたい。クロオビリングとアカオビリングは混同されることがよくあるらしく、岸田 (2011) のアカオビリングの項目には「筆者は本州の標本を検ただけであるが、クロオビリングと混同しており、再確認が必要である」とされており、宝塚市の過去の記録についても見直す必要があるかもしれない。

※ 3 阪上ほか (2017) に掲載された同データの日付は正しい表記となっている。

3-c. きべりはむし第 43 巻第 2 号「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 III」の訂正箇所

ページ	段	項	誤	正
p.21	左段		本報告における記録は特に記載のない限りゆずり葉台緑地公園の内部およびその周辺(宝塚市蔵人および宝塚市逆瀬台一丁目)にまたがったエリア)であり,採集者・標本の管理者はすべて筆者である。	本報告における記録は特に記載のない限りゆずり葉台緑地公園の内部及びその周辺(宝塚市蔵人及び宝塚市逆瀬台一丁目及び宝塚市小林西山・宝塚市野上 6 丁目)にまたがったエリア)であり,採集者・標本の管理者はすべて筆者である。
p.21	左段		なお,宝塚市ですでに記録のある種については○印を,兵庫県ではすでに記録があるが宝塚市では初記録と思われる種には☆印をそれぞれ付記した。	宝塚市及びその周辺ですでに記録がある種については○印を,兵庫県ではすでに記録があるが,東正雄氏の「宝塚の昆虫」シリーズをはじめとした,宝塚市の蛾類について言及したいいくつかの文献で記録されてない種には☆印をそれぞれ付記した。
p.21	右段	マダラマルハヒロスコガ		1ex., 30. VI. 2016. を追加
p.22	左段	ヒメクロイラガ	1.VIII. 2015.	31. VII. 2015 - 2. VIII. 2015.
p.22	左段	ムラサキイラガ	1ex., 9. X. 2014; 1ex., 6. X. 2015	クロスジイラガ <i>Natada takemurai</i> に訂正
p.22	左段	ムラサキイラガ	宝塚市での記録は見つけられなかった。	既に宝塚市(1992)で記録されていた。
p.22	左段	アオイイラガ	1ex., 17. VII. 2015.	1ex., 17. VI. 2015.
p.22	右段	ピロードハマキ	1 ♂, 25. V. 2015.	1 ♂, 26. V. 2015.
p.23	左段	ウスグロツツリガ		<i>Achroia</i> 属の一種に訂正。
p.23	右段	クロヘリキノメイガ	1ex., 1. V. 2016.	1ex., 13. V. 2016.
p.24	左段	トギリフェウエダジャク	宝塚市からは初記録と思われる。	既に犬飼(2014)で記録されていた。
p.24	右段	フクラスズメ	1ex., 30. IV. 2020.	1ex. (撮影), 30. IV. 2020.

3-d. きべりはむし第 44 巻第 1 号「宝塚市の緑地公園の昆虫相 —2010 年～ 2020 年の昆虫の記録—」の訂正箇所

ページ	段	項	誤	正
p.9	左段		宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目にまたがったエリア	宝塚市蔵人と宝塚市逆瀬台一丁目, 及び宝塚市小林西山・宝塚市ゆずり葉台 1 丁目・宝塚市ゆずり葉台 2 丁目・宝塚市逆瀬台 4 丁目・宝塚市野上 6 丁目)にまたがったエリア※4
p.12	左段	キマダラカメムシ	2exs., 18. VII. 2015.	削除
p.12	右段	ホソヘリカメムシ	1ex., 4. IV. 2019.	1ex., 4. IV. 2017.
p.15	左段	フタモンウバタマコメツキ	1ex., 13. V. 2020.	1ex., 23. V. 2020
p.15	右段	<i>Pyrrhata</i> 属の 1 種		<i>ジュンサイハムシ</i> <i>Galerucella nipponensis</i> と同定
p.16	左段	<i>Rhadinomerus</i> 属の 1 種		マツアナアキゾウムシ <i>Hylobitelus haroldi</i> と同定
p.17	左段	ニワハンミョウ	1ex., 27. V. 2020	1ex., 29. V. 2020
p.18	左段	ピロウドカミキリ		ニセピロウドカミキリ <i>Acalolepta sejuncta</i> に訂正
p.18	左段	シロスジカミキリ	1ex., 26. VI. 2016.	削除

p.18	左段	クワカミキリ	筆者は 2011~2012 年の夏に兵庫県西宮市角石町でも本種を 1 頭確認していることも書き留めておきたい。	筆者は 2011~2012 年に兵庫県西宮市角石町でも本種を 1 頭確認していることも書き留めておきたい。
p.20	左段	ツヤナガヒラタホソカタムシ	3exs., 22. IV. 2018	2exs., 22. IV. 2018.
p.21	左段	モンクチビルテントウ	筆者は西宮市でも本種を採集しているのので併せて報告しておきたい。	筆者は宝塚市の別地点でも本種を採集しているのので併せて報告しておきたい。
p.21	左段	モンクチビルテントウ	1ex., 兵庫県西宮市塩瀬町名塩武田尾, 20. V. 2020. 筆者採集保管。	1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬武田尾, 20. V. 2020. 筆者採集保管。
p.23	右段	ミツモンハチモドキバエ	1ex., 3. VI. 2016.	1ex., 3. IV. 2016.
-	-		1.VIII. 2015. としたデータ	31. VII. 2015 - 2. VIII. 2015. に訂正。

※ 4 なお, 2020 年 5 月 21 日に蝶類の採集を行った, ゆずり葉台緑地公園から檜ヶ峰へ向かう登山道の途中にある尾根は, 宝塚市と西宮市の境界付近にあたるが, 地理院地図に両市の境界が線引きされておらず(2021 年 11 月閲覧), 境界未定地域と思われる。

4. おわりに

本報告では, 既報のデータの不備を訂正し, 未公表であった記録の一部の公開を行った。読者の皆様には, ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

○参考文献

- 林 匡生・森本 桂, 1984. 原色日本甲虫図鑑 IV. 438pp. 保育社.
- 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 3.360pp. 学研教育出版, 東京.
- 池田大・阪上洗多, 2020. 兵庫県のスズメガ (Appendix). きべりはむし, 43 (2): Appendix, 1-21.
- 犬飼拓展, 2014. 年間蛾類採集記録 2013 年版. SPINDA, 29: 108-117.
- 石川 忠・高井幹夫・安永智秀, 2012. 日本原色カメムシ図鑑 第 3 巻. 573pp. 株式会社全国農村教育協会.
- 岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 1. 352pp. 学研教育出版, 東京.
- 岸田泰則(編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 2. 416pp. 学研教育出版, 東京.
- 森本 桂, 2007. 原色昆虫大図鑑 第 2 巻 (甲虫篇) .754pp. 北隆館.
- 阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2): 25-36.
- シニア自然大学校, 2019. 武田尾(宝塚市・西宮市)の昆虫相目録 2019 年 1 月~2019 年 12 月 [http://www.shizen-daigaku.jp/web\\_users/](http://www.shizen-daigaku.jp/web_users/)

- musi2020/2019takedao.pdf, (2021 年 11 月閲覧)
- 宝塚市, 1992. 宝塚市の昆虫 III 蛾類 (I). 宝塚市教育委員会.  
会.
- 宝塚市, 1993. 宝塚市の昆虫 V 蛾類 (II). 宝塚市教育委員会.  
会.
- 高島 昭, 1999. 兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・  
トガリバガ科 兵庫県産蛾類分布資料・14. きべりは  
むし 27(2): 61-75.
- 国土地理院, 地理院地図 (電子国土 Web). <https://maps.gsi.go.jp/#14/34.779542/135.317762/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>  
(2021 年 11 月閲覧).
- 宇野宏樹, 2019. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記  
録 I. きべりはむし . 42(2): 32-39.
- 宇野宏樹, 2020(a). 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の  
記録 II. きべりはむし . 43(1): 18-28.
- 宇野宏樹, 2020(b). 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の  
記録 III. きべりはむし . 43(2): 21-25.
- 宇野宏樹, 2021. 宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年  
～ 2020 年の昆虫の記録一. きべりはむし . 44 (1):  
9-25.

## きべりはむし掲載の報文 5 編に関する訂正点

宇野宏樹<sup>1)</sup>

筆者がデータを提供した阪上ほか (2017) の「兵庫県カトカラ図鑑」および池田・阪上 (2020) の「兵庫県のスズメガ (Appendix)」, 執筆した宇野 (2020) の「ミカドガガンボを兵庫県香美町で採集」および宇野 (2021) の「2010 年および 2016 年の西宮市および宝塚市におけるクロマダラソテツジミの記録」に関して, データの地名や日付には, いくつかのミスがあった. 本記事に訂正したい.

### 1. 筆者がデータ提供した報文

1-a. きべりはむし第 39 巻第 2 号「兵庫県カトカラ図鑑」の訂正箇所

宝塚市逆瀬第一丁目と宝塚市蔵人を混同していた箇所があったので訂正したい. また, 神戸市東灘区や西宮市の記録についても一部訂正した.

ページ	段	項	誤	正
p.28	右段	オニベキシタバ	逆瀬台一丁目 13.VII.2014, 1ex.; 29.VI.2014, 1ex.; 10.VII.2015, 2exs.	逆瀬台一丁目または その周辺, 13.VII.2014, 1ex.;29.VI.2014, 1ex.; 10.VII.2015, 2exs.
p.29	左段	フシキキシタバ	西宮市苦楽園二番 町 (14.VI.2014, 5exs.; 15.VI.2014, 3exs.; 16.VI.2014, 1ex.;3. VI.2015, 1ex., 宇野宏樹)	西宮市角石町 (14. VI.2014, 5exs.; 15.VI.2014, 3exs.; 16.VI.2014, 1ex.; 3.VI.2015, 1ex., 宇野宏樹)
p.29	左段	フシキキシタバ	宝塚市 (逆瀬台一丁 目, 9.VI.2015, 1ex.; 17.VI.2015, 1ex., 宇野 宏樹)	宝塚市 (逆瀬台一丁目ま たはその周辺, 9.VI.2015, 1ex.; 17.VI.2015, 1ex., 宇 野宏樹)
p.29	右段	カバフキシタバ	宝塚市 (逆瀬台一丁 目, 1.VII.2015, 1ex.;2. VII.2015, 2exs., 宇野宏 樹)	宝塚市 (蔵人 ゆ ずり葉台緑地公 園, 1.VII.2015, 1ex.; 2.VII.2015, 2exs., 宇野宏 樹)
p.30	左段 右段	マメキシタバ	宝塚市 (逆瀬台一 丁目, 29.VI.2014, 4exs.; 2.VII.2014, 1ex.; 9.VII.2014, 4exs.; 1.VII.2015, 2exs.; 2.VII.2015, 2exs.; 18.VII.2015, 1ex., 宇野 宏樹)	宝塚市 (逆瀬台一 丁目またはその周 辺, 29.VI.2014, 4exs.; 2.VII.2014, 1ex.; 9.VII.2014, 4exs.; 1.VII.2015, 2exs.; 2.VII.2015, 2exs.; 18.VII.2015, 1ex., 宇野宏 樹)
p.30	左段	コシロシタバ	神戸市東灘区 (岡本 6 丁目, 4.VII.2014, 1ex.; 5.VII.2014, 20exs., 宇野 宏樹)	神戸市東灘区 (本山町 田 辺, 4.VII.2014, 1ex.; 5.VII.2014, 20exs., 宇野宏 樹)
p.31	左段	アサマキシタバ	逆瀬台一丁目 16.V.2015, 4exs.; 21.V.2016, 2exs., 宇野 宏樹	逆瀬台一丁目またはそ の周辺, 16.V.2015, 4exs.; 21.V.2016, 2exs., 宇野宏 樹

p.32	右段	アミメキシタバ	西宮市塩瀬町 (名 塩; 11.VII.2014, 2exs.; 8.VII.2015, 1ex.;10. VII.2015, 1ex., 宇野宏樹)	兵庫県南東部 武田 尾; 11.VII.2014, 2exs.; 8.VII.2015, 1ex.;10. VII.2015, 1ex., 宇野宏樹)
p.32	左段	ウスイロキシタ バ	西宮市塩瀬町 (名塩, 10.VI.2015, 3exs., 宇野 宏樹)	兵庫県南東部 武田尾 (10. VI.2015, 3exs., 宇野宏樹)
p.33	左段	コガタキシタバ	西宮市苦楽園二番 町 (15.VI.2014, 1ex., 宇野 宏樹) 西宮市塩瀬町 (名塩, 26.VI.2014, 1ex., 宇野 宏樹)	西宮市角石町 (15. VI.2014, 1ex., 宇野宏樹) 兵庫県南東部 (武田尾溪 谷, 26.VI.2014, 1ex., 宇野 宏樹)

1-b. きべりはむし第 43 巻第 2 号「兵庫県のスズメガ (Appendix)」の訂正箇所

宇野 (2019) を引用した部分の記録は, 遺憾ながら筆者が情報提供の際に甘い書き方をしてしまったこともあり「ゆずり葉台緑地公園」と表記されているが, 実際は逆瀬台一丁目などを含む「ゆずり葉台緑地公園またはその周辺」とするのがより正確な表記である. また, 宝塚市と西宮市の境界に存在する武田尾溪谷の記録については, 両市の区別が曖昧な箇所もあったので訂正しておきたい. それ以外の記録についても一部訂正した.

ページ	段	項	誤	正
p.4	左段	コエビガラスズ メ	西宮市:角石町, 1ex., 16.V.2012, HU (CHU)	西宮市:神園町, 1ex., 16.V.2012, HU (CHU)
p.4	左段	コエビガラスズ メ	1ex., 8.V.2015, HU (CHU) (宇野, 2019)	1ex., 31.VII.2015-2. VIII.2015, HU (CHU) (宇 野, 2019)
p.5	左段	サザナミスズメ	13.VII.2012. 逆瀬台一 丁目. HU (CHU).	13.VIII.2012. 逆瀬台一 丁目. HU (CHU).
p.9	右段	クチバスズメ	塩瀬町名塩 武田尾, 1ex., 12.VI.2014, HU (CHU).	兵庫県南東部 武田尾, 1ex., 12.VI.2014, HU (CHU).
p.12	右段	オオスカシバ	門戸西町, 1ex., 12.VII. 2010, HU (CHU).	門戸西町付近, 1ex., 12. VII.2010, HU (CHU).
p.17	左段	ホシホウジャク	相生町オアシスロー ド, 1ex., 9.VII.2010, HU (CHU).	宮西町付近オアシス ロード, 1ex., 9.VII.2010, HU (CHU).
p.19	右段	セスジスズメ	1ex., 29.VI.2014, HU (CHU) (宇野, 2019)	コスズメの誤同定. ま た日付は 28.VI.2014- 30.VI.2014. に訂正
p.19	右段	セスジスズメ	1ex., 31.VII.2015, HU (CHU) (宇野, 2019)	削除
p.20	左段	コスズメ	相生町阪急夙川駅, 1ex., 3.XII.2010, HU (CHU).	羽衣町阪急夙川駅前, 1ex., 3.XII.2010, HU (CHU).
p.21	左段	ミスジピロード スズメ	塩瀬町名塩 武田尾, 1ex., 11.VII.2014, HU (CHU).	兵庫県南東部 武田尾, 1ex., 11.VII.2014, HU (CHU).
			(宇野, 2019) が引用されてい る箇所	ゆずり葉台緑地公園 またはその周辺

<sup>1)</sup> Hiroki UNO 兵庫県西宮市

2. 筆者が執筆した報文

2-a. きべりはむし第 42 巻第 2 号「宝塚市におけるフタテンカメムシの採集例」の訂正箇所

ページ	段	誤	正
p.62	左段	2exs., 兵庫県宝塚市蔵人, 23. VII. 2017	1ex., 兵庫県宝塚市逆瀬台一丁目, 23. VII. 2017. 1ex, 兵庫県宝塚市蔵人, 23. VII. 2017
p.62	左段	すべて夜間に灯火に飛来していたところを採集した個体である。	ほとんどが夜間に灯火に飛来していたところを採集した個体であり, 2019 年採集の個体の一部は夜間下草に静止していた個体である。

2-b. きべりはむし第 43 巻第 1 号「ミカドガガンボを兵庫県香美町で採集」の訂正箇所

ページ	段	誤	正
p.61	左段	筆者は 2016 年に兵庫県三川山で本種を採集しているので, 記録の一例として報告する。	筆者は 2016 年に兵庫県三川山登山口付近で本種を採集しているので, 記録の一例として報告する。
p.61	データ	1ex (図), 兵庫県美方郡香美町村岡区山田 三川山 18. VI. 2016 筆者採集保管	1ex (図), 兵庫県北部三川山登山口付近 18. VI. 2016 筆者採集保管

2-c. きべりはむし第 44 巻第 1 号「2010 年および 2016 年の西宮市および宝塚市におけるクロマダラソテツジミの記録」の訂正箇所

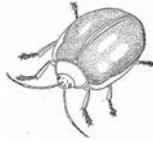
ページ	段	誤	正
p.94	右段	1♂ (図 1), 兵庫県西宮市相生町オアシスロード. 14. X. 2010.	1♂ (図 1), 兵庫県西宮市宮西町付近オアシスロード. 14. X. 2010.
p.94	右段	1♀ (図 2), 兵庫県宝塚市逆瀬台一丁目. 24. X. 2010.	1♀ (図 2), 兵庫県宝塚市逆瀬台四丁目. 24. X. 2010.

末筆ながら, 読者の皆様にはご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。地名のミスに関しては, 今後地図を念入りに確認することを心掛けたい。

○参考文献

- 阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ 図鑑. きべりはむし, 39 (2): 25-36.
- 池田 大・阪上洗多, 2020. 兵庫県のスズメガ (Appendix). きべりはむし, 43 (2): Appendix, 1-21.
- 宇野宏樹, 2019. 宝塚市におけるフタテンカメムシの採集例. きべりはむし, 42 (2): 62.
- 宇野宏樹, 2020. ミカドガガンボを兵庫県香美町で採集. きべりはむし, 43 (1): 61.
- 宇野宏樹, 2021. 2010 年および 2016 年の西宮市および宝塚市におけるクロマダラソテツジミの記録. きべりはむし, 44 (1): 94-95.

# たんぽう



## ハラアカコブカミキリ, 北但馬に定着か

小西和夫

北但馬(香美町香住区御崎)でハラアカコブカミキリ *Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871) を確認したので報告する。

2021年5月, 余部崎灯台近くの林道脇で広葉樹の伐採木に多数貼りついており, 雄を背負って材上を忙しく歩き回るペアも多く見られた。林道の少し離れた場所の倒木でも確認され, この地ではすでに定着していると思われる。

対馬の特産種だった本種は, シイタケ棺木等の移入により九州から四国, 中国地方に分布を拡大しており, 近年では岐阜, 埼玉, 千葉, 茨城でも発見されている。兵庫県内のハラアカコブカミキリについては1960年代に伊丹市で多数得られたとの記録があり, 2009年には姫路市安富町でシイタケ棺木から1頭が確認されたが, いずれも棺木や薪の移入に伴う偶産種と推定されている。2017年には鳥取市, 2018年には岩美町でも確認され, 兵庫県に侵入・定着するのは時間の問題であると思われる。

なお, 御崎集落ではシイタケの原木栽培は行われておらず, 侵入経路は不明である。

### ○参考文献

- 廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ: 76
- 岡田浩資, 2010. ハラアカコブカミキリの姫路市安富町からの記録. きべりはむし, 32(2): 55
- 大生唯統, 2018. ハラアカコブカミキリ, 岩美町へ進入. ゆらぎあ, (36): 19
- 高井 泰, 2020. ハラアカコブカミキリの岐阜県からの記録. 月刊むし, (595): 55
- 吉武 啓・楨原 寛, 2017. 茨城県におけるハラアカコブカミキリの採集例. さやばねニューシリーズ, (28): 33

(Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 ハラアカコブカミキリ, 2021年5月3日.



図2 ハラアカコブカミキリ, 2021年5月25日.



図3 林道脇の伐採木, 香住町香住区御崎.

この裏側はハラアカコブカミキリたちの運動会だった。なお昨年(2020年5月29日)の訪問時には, この辺りの伐採は行われていなかった。

## 北但馬でチャイロチビヒラタカミキリを確認

小西和夫

2021年5月25日, 北但馬(香美町香住区御崎)でチャイロチビヒラタカミキリ *Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus* (Pic, 1935) を確認したので報告する。

日本海に面した小規模な伐採地(標高250m)に, ブドウ類やアケビなどの枯蔓が絡まった粗朶が積まれており, ビーチングで2頭を確認・撮影した。体長4~5mmほどと極めて小さく, 九州・本州に多いとされる上翅が2色の個体である。この枯蔓からは近縁のシ

ロオビチビヒラタカミキリや、カッコウメダカカミキリ、アカネカミキリなども得られた。

本種は北海道から九州、対馬のほか、千島列島、極東ロシア、中国東部、朝鮮半島に分布し、北海道以外の産地は局所的でノブドウ等の枯蔓から羽脱するという。

兵庫県ではこれまで未記録と思われるが、近隣の京都府(養老山 1993)、大阪府(箕面 1940、島本町 1994)に古い記録があり、奈良の春日山でも得られている。最近では島根や山梨県からの報告がある。

○参考文献

東 浩司・谷川良寛・望月寛人, 2017. 奈良春日山原始林と周辺のカミキリムシ.

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 1999. 大阪府のカミキリムシ.

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ.

岩田隆太郎・水野弘造・常喜 豊, 1993. 京都府のカミキリムシ. 関西昆虫談話会

大林延夫・新里達也, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会

齋藤勝巳・板倉充洋, 2020. チャイロチビヒラタカミキリを山梨県で発見. 月刊むし, (598): 34-35

氏原靖志, 2021. 島根県におけるチャイロチビヒラタカミキリの記録. すかしば, (68): 34

(Kazou KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 チャイロチビヒラタカミキリ①.



図2 チャイロチビヒラタカミキリ② (触角欠損).



図3 枯蔓の絡まった粗朶.

加古川市で越冬明けウラナミシジミを初記録

島崎正美・島崎能子

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (以下、本種) が成虫で越冬することはよく知られているが、兵庫県における本種について「兵庫県の蝶」(2007)には6月以降に第一化が発生するが、それ以前の観察記録はないと記載されている。その後、「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」代表の竹内隆氏から、小野市黍田で越冬明けのメス



図1 2021年3月30日: 比較的新鮮なオス.



図2 2021年3月30日: 鱗粉色があせたオス.

個体を2006年3月26日に観察記録しているとの未発表の情報を得たが、そのとき同行されていた立岩幸雄氏によるフィールド日記にも前翅の先端が鱗粉のはがれた個体だったとの具体的な記述がある。筆者らは2021年3月30日、加古川市平荘町で越冬明けと考えられる本種のオス2個体を観察し、これまでに公式記録がないことが確認できたので報告する。

「兵庫県の蝶」に記載されている通り、本種の加古川市における観察記録もすべて9月以降で、シルビアシジミの生息地でモンキチョウとともにミヤコグサへの本種との三者が競合する産卵もみられる。2020年は10月に加古川市や高砂市で暖地性のクロマダラソテツシジミの偶発もあって、センダングサやヒメツルソバなどで、本種と混じって吸蜜をする場面を多く観察できた。同じ10月に加古川市内の休耕田のあぜ道に多いコガネオタフクマメへの産卵が目立ち、11月下旬から本種の多産につながった。12月になって最低気温が零下となる日が複数日続いて、野外で本種を観察する機会は激減し、2020年の終見は12月2日であった。ちなみに、最近10年間で加古川市での成虫の最も遅い観察日は12月11日となっている。加古川市の公式記録はないため、参考までに姫路市での最高/最低気温を調べると、表1に示すように、最低気温が零下となる日が2020年12月と2021年1月にそれぞれ8日間あって、1月8-10

表1 姫路市の最高/最低気温(°C)

2020	12/16	12/17	12/18	12/20	12/21	12/22	12/23	12/31
最高	8.0	7.8	9.1	9.2	10.8	12.2	12.7	6.7
最低	-0.6	-1.5	-0.4	-0.3	-2.0	-1.6	-0.1	-0.8
2021	1/1	1/2	1/3	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11
最高	7.3	9.0	9.9	11.1	3.0	5.1	8	8.1
最低	-1.5	-2.5	-2.1	-0.9	-5.3	-6.9	-5.1	-2.8

日の3日間は零下5度を下回る厳しい寒さとなっている。

本種は秋に発生した個体が暖かい地域から北上して分布を広げる習性がある。今回観察できた本種(図1, 2)が加古川市内で越冬した個体なのか、強い飛翔力によって温かい南の地域から飛来したものか、その経緯はわからない。観察できたのは比較的新鮮なオスと鱗粉色があせたオスの2個体で、いずれも黒岩山(標高132m)の山頂部に近い岩場でススキ類の枯れた茎や葉上にとまって日光浴をしており、ビデオカメラを準備して近づく気配で飛び立っても、あたりを飛び回ったあと舞い戻って枯れ茎や葉上ですぐに開翅姿勢をとるといった行動を繰り返していた。これら加古川市における初の越冬明け成虫の観察記録を以下に示しておく。

観察日: 2021年3月30日 10-11時

観察地: 加古川市平荘町黒岩山(132m) 山頂近く

撮影者: 島崎正美

本報告に際し、情報提供にご協力くださった近藤伸一氏と竹内隆氏に感謝いたします。

#### ○参考文献

広畑政巳・近藤伸一 2007 『兵庫県の蝶』 331pp.

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

#### シルビアシジミの珍しい挙動

島崎正美・島崎能子

2021年4月、兵庫県加古川市でシルビアシジミのオスが昼間に休眠中の小型スズメガ科のコスズメ *Theretra japonica* に何度も体当たりの接触を試みる挙動を観察でき、珍しい事例だと思われるので報告する。

シルビアシジミのオスがミヤコグサの自生する草地で低空飛翔をくりかえしてメスを探す(探雌飛翔)光景は、シルビアシジミの生息地ではごく普通にみられる。今回、シルビアシジミの発生状況の調査時、探雌飛翔を繰り返すオスを認め、撮影記録をとることを目的として、



図1 コスズメの胴体に脚で接触。



図2 コスズメの左翅に脚で接触。

静止するまでその飛翔について回っていたところ, ある1か所で何かに執着するような飛翔に変化した. メスを探し当てたのかとよくみると, 草陰で休眠している夜行性のコスズメにシルビアシジミが何度も体当たりを試みるという珍しい挙動だと判明. いつものように探雌飛翔を繰り返していたシルビアシジミが, 偶然に休息中のコスズメの存在に気づき, いったい何者かと, その周りを何度も飛び回り, ときにはコスズメの胴体や翅部分に体当たりをして, 何度目かの接触時にはコスズメが嫌がるように翅を閉じる動作を示した.

このとき周りには他のシルビアシジミはいなく, コスズメに関わり合っていた時間は, 最初から最後まですべての挙動をビデオ撮影できた約15秒間で, コスズメが嫌がって翅を動かした段階でまた元の探雌飛翔に戻り, 結局はメスには出会えずにヒメハギで吸蜜し始めた. ビデオ撮影の内容を確認すると, シルビアシジミは何度もコスズメのまわりを飛んで, ときには体当たりの脚部分で胴体や翅に接触をしていることがわかる.

シルビアシジミの生息地では, オスの探雌飛翔中に他のオスが休息しているそばを飛んだ際にオス同士の絡み飛翔が始まることはよく目にできるが, 共にミヤコグサを食草とするモンキチョウが紛れ込むことがあっても, モンキチョウに体当たりをするような光景に出会ったことはない. 今回のように, シルビアシジミが他の昆虫に対してある意味攻撃的な挙動を示したことは珍しい事例だと思われる.

休息中のコスズメにまわりついて, 脚部分で胴体(図1), および左翅(図2)への接触を試みるシルビアシジミの様子がわかるように, ビデオ撮影記録から切り取った静止画像を示しておく.

観察日: 2021年4月27日12時50分

観察地: 兵庫県加古川市志方町

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

## 兵庫県におけるカワラヒメコケムシの記録

脇村涼太郎

カワラヒメコケムシ *Euconnus dulcis* Sharp, 1886 は, 長崎県から記載されたハネカクシ科コケムシ亜科の甲虫である (Sharp, 1886). その後福井県からも記録され, 湿地性であることが明らかとなった (保科, 2010). 筆者はこれまで記録が無かった兵庫県にて本種を採集しているので報告する.



図 兵庫県産カワラヒメコケムシ.

1 ♀, 兵庫県姫路市余部区上余部, 23. X. 2017, 脇村採集, 保管.

採集したのは兵庫県南西部を流れる揖保川河川敷で, 台風で増水し河川敷に打ちあがった漂着物を篩にかけることによって得られた. 未筆ながら, 本種を同定していただき, 文献をご教示頂いた保科英人博士, 写真を撮影していただいた田作勇人氏に厚く御礼申し上げる.

### ○引用文献

保科英人, 2010. 日本産コケムシ科ヒメコケムシ属の分布に関する知見. ねじればね, 127: 19-20.  
Sharp, D., 1886. The Scydmaenidae of Japan. The Entomologist's Monthly Magazine, 23: 46-51.

(Ryōtarō WAKIMURA 東海大学生物学部)

## 兵庫県におけるマルケシガムシの記録

脇村涼太郎・保科英人

マルケシガムシ *Cercyon* (*Cercyon*) *rotundulus* Sharp, 1884 はガムシ科ハバビロガムシ亜科の甲虫である。筆者の一人、脇村は兵庫県未記録と思われる本種を採集しているため報告する。



図 兵庫県産マルケシガムシ..

1♂, 兵庫県たつの市新宮町二柏野, 31. VIII. 2018, 脇村採集・保管.

さなぎ粉をベイトにした、深さ 30 cm程に埋めた地中トラップにより得られた。

本種(以下マルケシ)に非常によく似ている兵庫県未記録の陸生ガムシで、セスジケンガムシ *C. (Clinocercyon) aequalis*(以下セスジケン)という種がいる。セスジケンが兵庫県から今後記録される可能性を考えマルケシとの区別点を以下に記す。マルケシとセスジケンは亜属が異なるため、両者を確実に見分けるためには、上翅側片を腹側から見て、亜属の特徴で分ければよい。*Cercyon* 亜属の上翅側片は、上翅外縁に対して、直角に近い角度で曲がるので、中胸腹板と平行に近い状態になる。一方、*Clinocercyon* 亜属は、上翅側片がより鋭く、内部に折れ込むので、中胸腹板に対して、やや立ったような状態になる (Ryndevich, 2004; 2006)。

未筆ながら、写真を撮影していただいた田作勇人氏に御礼申し上げる。

### ○引用文献

Ryndevich, K. S., 2004. Review of species of the genus *Cercyon* Leach, 1817 of Russia and adjacent regions. I. Subgenus *Cercyon* (s. str.) Leach, 1817. *Cercyon lateralis* – group (Coleoptera: Hydrophilidae). *Annales Universitatis Mariae Curie-Sklodowska*

Lublin-Polonia, Sectio C, 59: 29-41.

Ryndevich, K. S., 2006. Review of species of genus *Cercyon* Leach, 1817 of Russia and adjacent regions. III. Subgenera *Clinocercyon* Orschmuntz, 1942 and *Conocercyon* Hebauer, 2003 (Coleoptera: Hydrophilidae). *Zoosystematica Rossica*, 15: 315-320.

(Ryōtarō WAKIMURA 東海大学生物学部)

(Hideto HOSHINA 福井大学教育学部)

## 加西市と明石市でタイワンタケクマバチを追加確認

柴田 剛

タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum* (Swederus, 1787) は、これまで兵庫県内では尼崎市(上森, 2018)、神戸市(吉田, 2021)及び明石市、小野市、加古川市(柴田, 2020)で確認されているが、このたび明石市の別の場所と加西市で新たに確認したのでここに報告する。

なお、本種の和名についてはタケクマバチへの改名が提唱されていると聞かすが、分類の見直しに伴うものではないようなので、既存情報との統一を図るため表題は



図 タイワンタケクマバチ♀, 加西市倉谷町, 2021年8月25日.

タイワンタケクマバチの名称を使用した。

### 【確認情報】

1 撮影：明石市明石公園

確認年月日：2021年6月14日

目撃：♀数個体

訪花植物：サンゴジュ(レンブクソウ科)

2 撮影：明石市大久保町八木(八木遺跡公園)

確認年月日：2021年8月4日

目撃：♀2個体

訪花植物：ハナツクバネウツギ(スイカズラ科)

## 宝塚市におけるタイワンタケクマバチの記録

宇野宏樹

タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum* は国内では 2006 年愛知県豊田市で初めて確認された, 台湾・大陸中国南部からインドにかけて自然分布する外来種のハチである (国立環境研究所, 2021). 兵庫県下での本種の公式の記録としては尼崎市・小野市・明石市・西宮市・赤穂市・加古川市・神戸市での記録が挙げられる (上森, 2018; 柴田, 2020; 宇野, 2021; 吉田, 2021) 他, インターネット上には非公式の記録であるが宝塚市や三田市の目撃例も見られる. しかしながら, 宝塚市における公式の記録は無いと思われるので, 筆者の採集例を報告しておきたい.



図 宝塚市で得られたタイワンタケクマバチ.

1ex. (図), 兵庫県宝塚市逆瀬川 2 丁目阪急逆瀬川駅. 14. V. 2021. 筆者採集保管.

本記録は, 阪急逆瀬川駅の出口付近で床に落ちていた個体を採集したものである.

### ○参考文献

- 上森教慈, 2018. 兵庫県尼崎市でタイワンタケクマバチを採集. きべりはむし, 41 (1): 31.  
 柴田 剛, 2020. 小野市と明石市でタイワンタケクマバチを確認. きべりはむし, 43 (2): 55.  
 宇野宏樹, 2021. 兵庫県におけるタイワンタケクマバチの追加記録. 月刊むし, 604: 56-57.  
 国立環境研究所, 侵入生物データベース. タイワンタケクマバチ. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60530.html> (2021 年 5 月閲覧)  
 吉田浩史, 2021. 神戸市内からのタケクマバチの記録. きべりはむし, 44(1): 102-103.

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)

3 採集: 明石市藤江 (藤江海岸)

確認年月日: 2021 年 8 月 4 日

目撃: ♀ 2 個体, 採集: ♀ 1 個体

訪花植物: ハマゴウ (シソ科)

4 採集・撮影: 加西市網引町 (下池の土手)

確認年月日: 2021 年 6 月 22 日

目撃: ♀ 数個体, 採集: ♀ 1 個体

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

5 採集・撮影: 加西市網引町 (万願寺川の岸)

確認年月日: 2021 年 6 月 28 日

目撃: ♀ 数個体, 採集: ♀ 1 個体

訪花植物: トウネズミモチ (モクセイ科)

6 撮影: 加西市玉丘町 (玉丘史跡公園)

確認年月日: 2021 年 8 月 25 日

目撃: ♀ 数個体

訪花植物: ミソハギ (ミソハギ科)

7 撮影: 加西市倉谷町 (アシガ池の岸)

確認年月日: 2021 年 8 月 25 日

目撃: ♀ 1 個体

訪花植物: ミソハギ (ミソハギ科)

8 撮影: 加西市笹倉町 (宇双下池の土手)

確認年月日: 2021 年 9 月 1 日

目撃: ♀ 数個体

訪花植物: ノアズキ (マメ科)

### ○参考文献

- 上森教慈, 2018. 兵庫県尼崎市でタイワンタケクマバチを採集. きべりはむし 41(1): 31  
 柴田剛, 2020. 小野市と明石市でタイワンタケクマバチを確認. きべりはむし 43(2): 55  
 吉田浩史, 2021. 神戸市内からのタケクマバチの記録. きべりはむし 44(1): 102

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

### 兵庫県新温泉町におけるヒメシロシタバの記録

宇野宏樹

ヒメシロシタバ *Catocala napioides* は、北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、カシワを食樹とすることが知られている（岸田ほか, 2011）。本種の西日本での分布は局地的であり、兵庫県における本種の産地は、美方郡香美町村岡区大笹ハチ北高原・宍粟市波賀町引原の2カ所しか知られていなかった（阪上ほか, 2017）。筆者は記録が無いと思われる新温泉町で本種を採集したので報告したい。



図 ヒメシロシタバ (兵庫県美方郡新温泉町産)。

1ex. (図), 兵庫県美方郡新温泉町芦屋 城山園地. 10. VII. 2021. 筆者採集保管.

ライトトラップに飛来した個体を採集した。付近の環境は、日本海を見下ろせる海辺の高台であった。未筆ながら、報告を勧めてくださった八木剛氏および採集に同行してくださった安岡拓郎氏に厚くお礼申し上げる。

#### ○参考文献

岸田泰則・柳田慶浩・清野昭夫・石塚勝己, 2011. シタバガ亜科. 岸田康則(編), 日本産蛾類標準図鑑 2: 244-264. 学研教育出版, 東京.  
阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2): 25-36.

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)

### 但馬高原植物園に於けるクジャクチョウの記録

広畑政巳・糸数幸高

白水(2006)によると本種の現在知られている確実な分布の西南限は岐阜・滋賀両県境の伊吹山となっている。また、三重県下では発見の事例が多く、過去に島根県、長崎県、鹿児島県などで数例の記録があることが記されている。兵庫県では神戸市岡本付近で2頭採集したという古い記録があるがそれ以降は本種の報告はない。

筆者の一人糸数は2021年9月9日に兵庫県美方郡香美町村岡区和池の但馬高原植物園にてオタカラコウの花に吸蜜に来た本種を撮影している。同じ個体かどうかは不明であるが、前々日の9月7日にも本種が同園で確認されているようである。

分布西限の生息地から飛来したのか、何らかの事情によって運ばれてきたものかは定かではないが明らかに本種であり、県下においては珍しい記録なので報告した。

#### ○参考文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 331pp.  
白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社, 東京. 336pp.

(Masami HIROHATA 兵庫昆虫同好会)  
(Yukitaka ITOKAZU 兵庫県加古川市)



図 オタカラコウに吸蜜に来たクジャクチョウ: 糸数幸高撮影.

### 三木市と明石市でマツヘリカメムシを確認

柴田 剛

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann, 1910 (カメムシ目: ヘリカメムシ科) は、北米大陸西部原産の外来のカメムシで2008年に東京都で外来種として発見された。現在は21都府県での確認記録(岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、新潟県、茨城県、栃



図 マツヘリカメムシ, 三木市福井, 2021年10月28日.

木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 山梨県, 長野県, 石川県, 大阪府, 兵庫県, 鳥取県, 福岡県, 熊本県)と2県でのインターネット情報(愛知県, 岐阜県)があり(鶴ほか, 2020), 西日本に分布を拡大しつつあるといわれている。

兵庫県内の記録は, 初記録が2015年の神戸市灘区(伊藤, 2015)で, その後, 三田市(片岡ほか, 2019; 池田・八木, 2021)と宝塚市(宇野, 2021)から記録されている。このたび三木市と明石市で撮影・採集したので, ここに報告する。

【確認情報】

採集・撮影: 三木市福井(三木山森林公園のトイレの外壁)

確認年月日: 2021年10月28日

確認個体: 2exs.

採集・撮影: 明石市明石公園(明石公園内の自販機)

確認年月日: 2021年11月21日

確認個体: 1ex.

○参考文献

池田大・八木剛, 2021. 有馬富士公園における一般参加型虫とりプログラム「あさムシ!」による昆虫相調査. 人と自然 Humans and Nature 31: appendix, <https://www.hitohaku.jp/publication/r-bulletin.html> (2021年11月閲覧)

伊藤誠人, 2015. 兵庫県神戸市で採集されたマツヘリカメムシ. きべりはむし 38(1): 26

片岡義方・秋山重信・金子留美子・桜井正臣・竹川應仁西岡 稔・平田登志子・山本由紀子・芳川雅美, 有馬富士公園の昆虫相 -2018年の昆虫調査-. きべりはむし 42(1): 52-73

鶴智之・大生唯統・田村昭夫, 2020. 外来種マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* の鳥取県からの初記録と分布の拡大状況に関する考察. 鳥取県立博物館研究報告 Bulletin of the Tottori Prefectural Museum 57: 37-43

宇野宏樹, 2021. 宝塚市の緑地公園の昆虫相 —2010年～2020年の昆虫の記録—. きべりはむし 44(1): 9-25

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

ハナジロクチバを兵庫県香美町で採集

高橋輝男

兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(鉢伏東高原, 標高約1,000 m)で, 9月11日23時半頃にライトトラップに飛来したハナジロクチバ(図)を採集したので報告する。

ハナジロクチバはヤガ科シタバガ亜科のガでその分布はインドからオーストラリア, 南太平洋地域に渡って広範囲に分布する。日本では福岡県で採集された1例のみが知られていた(井上ほか, 1982)が, ネットを検索すると高知県, 和歌山県, 広島市, 九州地方や愛知県名古屋市でも採集されている。

本種の名前は下唇鬚第一節の下面が白いことに由来する。食草はカエデ科クスノハカエデおよびムクロジ科ムクロジである。

本種は日本には定着しておらず, 得られるガは遇産蛾である。本県のシタバガ亜科に関する報告(高島, 2004)でも本種の名前すら挙げられておらず, その後の本県の記録も見出せなかった。

○参考文献

井上 寛・杉 繁郎・黒子浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 1982. 日本産蛾類大図鑑, 講談社。

高島 昭, 2004. 兵庫県のシタバガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・30, きべりはむし, 31(2): 44-55.

(Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町)



図 香美町産ハナジロクチバ(開帳41mm).

## ヨスジシロカギバを兵庫県朝来市生野町黒川で採集

高橋 輝男

ヨスジシロカギバ *Ditrigona quinquelineata* (Leech, 1898) を採集したのでここに報告する。朝来市生野町黒川(標高約 550 m)の国道 429 号線沿いでライトトラップを行ったところ 5 月 6 日 21 時頃に 1 頭が、また 6 月 2 日 22 時 10 ~ 40 分頃には 2 頭が飛来した。



図 生野町産ヨスジシロカギバ(開帳 24.5mm).

本種は前翅に 5 本、後翅に 3 本の橙黄色の波状線がある。成虫の出現は 5-6 月と 7-8 月である(井上ら, 1982)。採集した時期より判断すると、今回報告するガはいずれも第 1 化のものと思われる。

日本における本種の分布は東北南部以南の本州および九州となっているが、局地的な分布をするとされている。幼虫の食餌植物はミズキ科のミズキ、ヤマボウシである。

本種の記録は全国的にも少なく、本県でも 1954 年に山本によって関宮町(氷ノ山)で採集された一例だけ(高島, 1999)であり、その後の報告も見当たらなかった。

### ○参考文献

- 井上 寛・杉 繁郎・黒子浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 1982. 日本産蛾類大図鑑, 講談社.  
高島 昭, 1999. 兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・トガリバガ科 兵庫県産蛾類分布資料・14, きべりはむし, 27(2): 61-75.

(Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町)

## 兵庫県高砂市でアメリカピンクノメイガを観察

島崎能子・島崎正美

外来種のツトガ科ノメイガ亜科の一種であるアメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* について、矢口(2021)の報告では、少なくとも 2020 年 9 月の淡路市での観察事例が兵庫県での初確認だとみなされている。本種に関しては、2019 年に岐阜県への侵入が確認されて以降、滋賀県、愛知県尾張旭市、関東地方などに分布が広がっていることをネット検索で知ることができるが、筆者らは 2021 年 10 月の日中に高砂市の自宅玄関先の外壁にとまって休息している本種を確認したので報告する(図)。



図. 2021 年 10 月 3 日:自宅玄関先の外壁で休息.

本種の幼虫はシソ科サルビア属を食草としているとすることで、近所の人家に植栽されている同属のアメジストセージやメドウセージを注意深く観察したが、近隣での発生源は特定できず、撮影後に飛び立たれて以降、成虫の再観察はできていない。

本種に関しては、ここ数年各地で記録されていることから、分布情報の収集が必要な種であると報告を勧めて下さった榎原市昆虫館の池田大氏に感謝いたします。

観察日: 2021 年 10 月 3 日 10 時 40 分

観察地: 高砂市松波町

発見者: 島崎能子

撮影者: 島崎正美

### ○引用文献

- 矢口芽生, 2021. 兵庫県淡路市でアメリカピンクノメイガを確認. きべりはむし, 44(1), 100

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

## 兵庫県高砂市でイシガケチョウを観察

島崎正美

イシガケチョウ（以下、本種）の兵庫県における記録と分布については「兵庫県の蝶」（広畑・近藤, 2007）に記載があるように、継続的に成虫で越冬できるかどうかのカギを握っており、いぜんとして確実に定着しているかどうかは明らかではない。筆者は2016年に加古川市における本種の観察事例をまとめて報告をしていて（竹内・島崎, 2016）、その後、2021年4月1日にも加古川市志方町で越冬後の個体を確認しているが（図1）、毎年継続して観察できているわけではなくいぜんとして加古川市に定着している確証はない。そのような状況下、これまでに公式報告のない高砂市で2021年に越冬個体、および越冬に向かう時期の個体を観察したので報告する。

観察地は高砂市曾根町のオオバイヌビワが多く自生する日笠山（標高62m）の山麓部と山頂部である。越冬個体の観察は4月20日、山麓部での飛翔個体の目撃で、山側から自動車道路際まで特有の滑翔をみせながら飛んできて、そのまま姿を消しており撮影記録は出来ていない。越冬前の個体の観察は11月11日で、山頂部でウラギンシジミが飛び交う様子を観察していた際、どこからか突然現れた個体が滑翔を繰り返した後遠く離れたアカメガシワの葉上にとまったのを確認した。急ぎ走り寄ってビデオカメラのフォーカス合わせをしている間に飛び立たれたが、そのままビデオカメラで飛翔を追跡した記録から、飛翔個体がかろうじて本種であると視認できる（図2）。加古川市では自然状態での産卵、幼虫、蛹などの観察ができていたが、高砂市では成虫を観察できただけで、今後も観察を継続して高砂市における本種の生態を明らかにしたい。

## 【観察データ】

観察日：2021年4月20日15時頃

観察地：高砂市曾根町日笠山山麓部

観察日：2021年11月11日11時55分

観察地：高砂市曾根町日笠山山頂部

## ○引用文献

- 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶, 331pp., 岩峰社, 東京  
竹内 隆・島崎正美, 2016. きべりはむし, 39(1): 19-21

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)



図1 2021年4月1日, 加古川市志方町: 越冬明けの個体。



図2 2021年11月11日, 高砂市曾根町: 飛び去って行くイシガケチョウ (左下)。

## ウラナミジャノメがイヌツゲとノイバラの花で吸蜜

島崎正美・島崎能子

筆者らは加古川市とその近郊に生息する希少チョウ類の保全を目的とするボランティア団体「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」の一員として、1999年に始めたギフチョウ（絶滅危惧Ⅱ類）に次いで、2008年からヒメヒカゲ（絶滅危惧ⅠB類）の保全活動も開始し、その調査過程でウラナミジャノメ（*Ypthima multistriata nipponica* 絶滅危惧Ⅱ類；以下本種）の観察記録もとってきている。

蝶の多くは成虫となって以降は、花の蜜や樹液、あるいは湿地帯や動物の排泄物などでの吸汁を活動のエネルギー源としているが、本種やヒメヒカゲについてはそのような場面に出会うことが極めて少なく、野外での生態観察の重点項目にしてきた。

ヒメヒカゲについてはノイバラ（*Rosa multiflora*）の花での吸蜜、湿り気のある路面での吸汁、および路面に落ちた野鳥の糞周りで吸汁する場面などを観察できて報告（島崎, 2013）した。その後2021年5月には、朝露が残ってはいない時間帯にケネザサの葉上で口吻を伸ばして何かを吸汁するオスを観察している（島崎, 2021）。

本種に関しては幼虫がショウジョウソウ（島崎,

2011) とケネザサ(島崎, 2015) を食草としていること, 野外での自然産卵の発見(島崎, 2018), 日本初の自然状態での蛹の発見と羽化までの観察記録(島崎, 2019) など, いくつかの新知見を得てきているにもかかわらず, 容易に想定できる朝露の吸汁など, 少なくとも 2008 年から 2020 年まで筆者らは本種が何かに口吻を伸ばす場面を観察できていなかった.

2021 年の 5 月, 東播磨の生息地で初めてイヌツゲ (*Ilex crenata*) の花に口吻を伸ばすオスを観察し, 6 月にはメスがノイバラの花芯に口吻を伸ばす場面も観察できた. 原色日本蝶類生態図鑑(福田ほか, 1984) に「オカトラノオ, ツルボ, ヒメジョオン, タビラコ的一种, ウツボグサ, ネズミモチへの訪花例が知られるが, ヒメウラナミジャノメに比べて訪花例の観察は少ない」との記載があるが, 確実に口吻を伸ばした記録を伴う吸蜜事例かどうかの記述はなく, 本種が花芯へと口吻を伸ばす状況まで記録した確かな吸蜜例として報告する.

[事例 1]

2021 年 5 月 26 日 10 時 26 分から約 40 秒間  
吸蜜植物: イヌツゲ (図 1; オス)

[事例 2]

2021 年 6 月 3 日 14 時 17 分から約 70 秒間  
吸蜜植物: ノイバラ (図 2; メス)

観察地はいずれも加古川市志方町で, 今回の生息地では例年ヒメヒカゲより 1 週間ほど遅れて本種が発生し, 成虫は 7 月の上旬までみられる(島崎, 2010). 2021 年は珍しくヒメヒカゲと同じ時期に出現するという早い発生で, 5 月 26 日の午前中, イヌツゲの葉上にとまって開翅状態で日光を浴びる個体を観察中, 花が咲く部分へと移動した時点で翅を広げたままイヌツゲの花に口吻を伸ばして吸蜜し始めた(図 1). その様子を側面からも記録しておこうと撮影位置を変えている間に飛び立たれた.

次いで, 曇り空で今にも雨が降りそうな 6 月 3 日の午後, ノイバラの花が多く咲く草むらを飛んでいた本種が少しだけ花にとまってすぐに飛び離れる動きを追うと, 再び花にとまり, 今度は明らかに花芯へと口吻を伸ばして吸蜜し始めた(図 2). 開翅しながらの吸蜜で前翅の特徴からメスだと判別できた. 2008 年から生態観察を継続している過程で, 本種がノイバラの花にとまってもすぐに飛ぶ光景には出会っているが, それも 13 年間でわずかに三度だけで, 時間をかけて確実に吸蜜する場面は今回が初めての観察例である. おそらくヒメヒカゲと同じく朝露や路面での吸汁もしていると考えられ, 今後も注意して生態観察を継続する.

○参考文献

- 福田晴夫ほか, 1984, 原色日本蝶類生態図鑑 (IV) : p. 73, 保育社, 大阪  
島崎正美, 2010, 加古川の蝶: 年間発生状況. きべりはむし 32(2): 12-14  
島崎正美, 2011, 加古川市におけるウラナミジャノメ *Ypthima multistriata* の食草と第 2 化発生について. やどりが (229): 32-39  
島崎正美, 2011, ケネザサを摂食するヒメヒカゲとウラナミジャノメの幼虫を観察. 月刊むし (536): 53-54  
島崎正美, 2013, ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus arothius* に関する観察記録-2. やどりが, (237): 33-40  
島崎正美・島崎能子, 2018, ウラナミジャノメの自然卵を発見. きべりはむし, 41(1): 26  
島崎正美・島崎能子, 2019, ウラナミジャノメの自然状態での前蛹から羽化までを初記録. 月刊むし, (584): 2-4  
島崎正美, 島崎能子, 2021, ヒメヒカゲの吸汁とイヌツゲでの吸蜜事例. きべりはむし, 44(2): 57

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)  
(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)



図 1 2021 年 5 月 26 日, イヌツゲの花で吸蜜中のウラナミジャノメ♂.



図 2 2021 年 6 月 3 日, ノイバラの花で吸蜜するウラナミジャノメ♀.

## ヒメヒカゲによる吸汁とイヌツゲでの吸蜜事例

島崎正美・島崎能子

ヒメヒカゲ (以下, 本種) についてはノイバラ (*Rosa multiflora*) での吸蜜, 湿り気のある路面での吸汁, および路面に落ちた野鳥の糞周りで吸汁する場面などを観察して報告 (島崎, 2013) し, その後 2021 年 5 月にケネザサの葉上で口吻を伸ばして何かを吸汁するオスを朝露が残っていないと考えられる時間帯の 11 時 48 分に初めて記録している (図 1).

今回, 2021 年 6 月にウラナミジャノメが吸蜜する場面を観察し, 珍しい事例だとして報告をしている (島崎, 2021) イヌツゲ (*Ilex crenata*) の花に本種が口吻を伸ばして確かに吸蜜している場面を観察記録できたので報告する (図 2).

加古川市で本種が生息する草むらで吸蜜できる植物の多くは白いノイバラで, そのほかにはイシモチソウ (白), コモウセンゴケ (赤) があり, イチモチソウに近づいてその粘液滴につかまり, 危うく犠牲になりそうな本種 (図 3) を目撃したことがある. そのときは羽ばたきもがいて脱出しているが, イシモチソウの花で吸蜜しようとしたのではなく, 偶然近くを飛んで粘液滴につかまったように思えた.

本種については, 行動範囲や生存期間などの調査目的で翅に直接マジックペンでマーキングをすることがあるが, マーキング後に放した個体がノイバラの白い花上へと飛んでいく事例を何度も経験している (図 4). いずれの場合も花芯に口吻を伸ばしてはいなく, 思いもよらないマーキングという仕打ちにあって気が動転した後, 気もちを落ちつかせる場所として白い花が何らかの意味を持っているように思える. いずれにしても興味ある習性で, 今後も注意して生態観察を継続する.

## ○参考文献

島崎正美, 2013, ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus arothius* に関する観察記録 -2. やどりが, (237): 33-40

島崎正美・島崎能子, 2021, ウラナミジャノメがイヌツゲとノイバラで吸蜜. きべりはむし, 44(2): 55-56

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)  
(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)



図1 2020年5月28日, ヒメヒカゲの♀がケネザサ上で吸汁.



図2 2021年6月14日, イヌツゲの花で吸蜜中のヒメヒカゲ♀.



図3 2012年6月7日, イシモチソウに捕まったヒメヒカゲ.



図4 2019年6月11日, 翅にマーキングされた後, ノイバラの花上に落ち着くヒメヒカゲ♀.

## 兵庫県宝塚市におけるウスグロチビツツハムシとヨツボシアカツツハムシの記録

宇野宏樹

筆者は、2021年に兵庫県宝塚市において、カワラヨモギ *Artemisia capillaris* をホストとするハムシ2種を採集したので報告する。いずれの種も、兵庫県における近年の記録はあまりないと思われる。

### 1. ウスグロチビツツハムシ *Cryptocephalus fulvus* (Goeze, 1777)

本種は、日本では栃木県や神奈川県、山梨県、岡山県、島根県、兵庫県などで記録されているツツハムシであり、その生息地は局所的とされる(高橋, 1998; 雛倉, 2011; 吉富・林, 2016)。兵庫県下では、「ウスグロスジツツハムシ」の和名で、揖保川流域や西宮市武庫川、三木市口吉川町で記録されている(高橋, 1998)。なお、同文献には「兵庫県下での分布記録は、たいへん少ない。もっと調査する必要がある」とも記されているが(高橋, 1998)、その後の追加記録も恐らくないと思われる。筆者は、本種を宝塚市で2021年に採集したので報告する。

5exs(写真1), 兵庫県宝塚市。4. VII. 2021. 筆者採集・保管。



写真1 ウスグロチビツツハムシ(兵庫県宝塚市産)。



写真2 ヨツボシアカツツハムシ(兵庫県宝塚市産)。

宝塚市のカワラヨモギ自生地にて、本種を確認し、記録用に採集した。本種の個体数は多かったが、カワラヨモギの生えている範囲が非常に狭かったため、地名の詳細は伏せることにした。カワラヨモギを夏季に調べれば、他地域でも見つかる可能性はあると思われる、今後の調査が望まれる。

### 2. ヨツボシアカツツハムシ *Coptocephala orientalis* (Baly, 1873)

本種は、本州、四国、九州に分布するツツハムシの1種である(神奈川県, 2006)。兵庫県下での本種の記録は、原記載の記録があるほかには、「宝塚市武庫川[木元1964]」「西宮市武庫川[木元1964]」「神戸市兵庫区鳥原(1ex, 1. IX. 1942)」など数例の記録しかない(宝塚市, 1993; 高橋, 1998)。高橋(1998)では、「分布状況がよくわからないが、8~9月頃が成虫の見られる時期と思われる、調査が不十分な種のように思われる」とされている。本種の兵庫県における近年の記録はないか、あっても少ないと思われるので、以下に、2021年の宝塚市での記録を報告する。

5exs(写真2), 兵庫県宝塚市。4. VII. 2021. 筆者採集・保管。

前種と同じく、早朝、河川敷の砂地に生えたカワラヨモギについている本種を採集した。採集地は前種と同じである。個体数は前種ほど多くはなかった。

末筆ながら、採集に同行してくださった安達誠文氏及び同氏を介して、上記のツツハムシ2種についての文献および生息状況についてご教示くださった篠原忠氏に厚くお礼申し上げる。

### ○参考文献

- 雛倉正人, 2011. ウスグロチビツツハムシの山梨県韮崎市における記録. さやばねニューシリーズ, 2: 40.  
神奈川県, 2006. 神奈川県レッドデータブック2006 Web版. <http://conservation.jp/tanzawa/rdb/rdblists/detail?spc=311> (2021年7月閲覧).  
高橋寿郎, 1998. 兵庫県のハムシ(2) (兵庫県昆虫相資料・337). IRATSUME, 22: 25-34.  
宝塚市, 1993. 宝塚の昆虫IV 甲虫目(II). 224pp. 宝塚市教育委員会.  
吉富博之・林成多, 2016. ツツハムシ類2種の島根県における記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 19: 180.

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)

神戸市北区における 2021 年のキシタアツバの記録 1 例

宇野宏樹

キシタアツバ *Hypena claripennis* (Butler, 1878) は、ヤブマオを食草とすることが知られている、アツバ亜科に含まれるヤガの 1 種である (岸田, 2011)。兵庫県宝塚市では安倉北 4 丁目や宝塚大橋などで記録がある (宝塚市, 1993) が、本種は環境省レッドリスト 2020 で準絶滅危惧種 (NT) に指定されているため、2021 年に神戸市で撮影した記録を報告しておきたい。本個体は安達誠文氏のライトトラップに飛来したものである。

1ex. (写真), 兵庫県神戸市北区道場町千刈ダム付近. 2021 年 7 月 4 日. 筆者撮影.

末筆ながら、調査に同行して下さった安達誠文氏に厚くお礼申し上げる。

○参考文献

宝塚市, 1993. 宝塚の昆虫 V 蛾類 (II). 宝塚市教育委員会.  
岸田泰則, 2011. 日本産蛾類標準図鑑 2. 416pp. 学研教育出版. 東京.  
環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020.  
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2021 年 11 月閲覧).

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)



写真 神戸市産キシタアツバ.

2021 年における兵庫県西宮市でのクロマダラソテツジミの記録 1 例

宇野宏樹

筆者は、2007 年以降兵庫県で発生が確認されているクロマダラソテツジミを、2021 年に兵庫県西宮市で採集したので、近年の記録の 1 例として報告しておきたい。

1 ♀ (低温期型: 写真 1・写真 2), 兵庫県西宮市門戸西町. 17. X. 2021. 筆者採集保管.

本記録は、住宅街で採集したものである。なお、近年の記録として、本種は 2020 年に高砂市で確認されている (島崎, 2021)。

○参考文献

法西 浩, 2008. 兵庫県西宮市・宝塚市に侵入したクロマダラソテツジミの野外観察と飼育記録. 人と自然 Humans and Nature 19: 133 – 137.  
島崎正美・島崎能子, 2021. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツジミの発生記録. きべりはむし, 44 (1): 53-57.

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)



写真 1 2021 年に西宮市で得られたクロマダラソテツジミ.



写真 2 同一個体の裏面.

## 兵庫県姫路市でのヨツモンエグリゴモクムシの記録

檀野将平

ヨツモンエグリゴモクムシ *Amblystomus quadriguttatus* (Motschulsky, 1858) は India を原産とする南方系のゴミムシである。国内では南西諸島から徐々に分布の拡大が確認されており、本州では広島県 (藤本・大塚・辻, 2015) 及び山口県 (田中, 2005) の記録がある。

筆者は、記録のなかった兵庫県において本種を採集しているため報告する。

### 【採集記録】

1ex., 兵庫県姫路市北原, 10.IX.2021, 灯火, 筆者採集



図 兵庫産ヨツモンエグリゴモクムシ。

耕作地に隣接する自宅庭に設置した灯火 (18 時に設置, 21 時に確認) により得られた。9 月前半の姫路市は雨の日が多く, 当日も 21 時時点で気温 25.2℃, 湿度 79% と蒸し暑い夜であり, 本種の活動に好条件な日であった。また, 本種は低地のかく乱時期に得られることが多く, 北原地区では近年, 耕作地から宅地への転換が進んでいることも本種の出現と関係していると思われる。

なお, 自宅庭の灯火では良好な湿地環境を好むとされる甲虫類も多く確認されており, 本種の記録を手放しで喜んでいいものかは考えものである。

最後に, 文献・記録についてご教授いただいた森正人氏に厚く御礼申し上げる。

### ○参考文献

藤本博文・大塚健之・辻 尚道, 2015. 西日本における

ヨツモンエグリゴモクムシの採集記録. 月刊むし (532):33-34

森 正人, 2015. 兵庫県のゴモクムシ類 (1). きべりはむし, 38(1):13-19

田中 馨, 2005. 山口県の甲虫類分布資料 (2004 年). 山口のむし, (4):56.

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II). 141pp. 保育社

(Shohei DANNŌ 兵庫県姫路市)

## 神戸市内から記録されたハムシ科移入種 2 種

吉田浩史

筆者は 2021 年に, これまで神戸市内から確認されていなかったハムシ科の移入種 2 種を採集したので, ここに報告する。

### データ

甲虫目 ハムシ科

クズクビボソハムシ *Lema diversipes* Pic, 1921

1ex. (写真 1), 神戸市東灘区魚崎南町, 瀬戸公園, alt. 3m, 10. IX. 2021, 吉田浩史.

本種は本来中国及び台湾に分布する, クズを食草とする種である。国内では 2016 年に東京都港区からはじめて記録された (南・上田, 2018)。

筆者は, 神戸市東灘区の都市公園において, 下草のスウィーピング中に本種 1 個体を確認した。確認場所周辺にはクズは見られず, 移動中と考えられた。

インターネットの情報によると, 2021 年現在東京都では分布を拡大しているが, 国内のそれ以外の地域では記録がないようである。また, 周辺には海外から多くの貨物が運び込まれている神戸港があり, ヒアリをはじめ多くの外来種が記録されている。このため, 今回の神戸市からの記録は東京都の個体群とは別に海外から侵入した可能性がある。

なお, 写真 1 に示した通り, 本種は一見して別亜科で普通種のウリハムシに似ており, 見落とされている可能性もある。食草は河川敷や農耕地周辺に普通で都市部でも見られるクズであり, 今後兵庫県周辺でも急速に分布を拡大する可能性があり, 注意が必要と考えられる。

ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera nepalensis* Boheman, 1855

1ex. (写真 2), 神戸市東灘区魚崎南町, 内浜公園, alt. 1m, 26. XI. 2021, 吉田浩史.



写真1 クズクビボソハムシ.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)



写真2 ヨツモンカメノコハムシ.

本種は国内では南西諸島に分布するとされていたが、その後本州・九州へと分布を拡大している種である。食草はサツマイモやアサガオ類などヒルガオ科植物である(重藤ら, 2020)。

兵庫県からは、2020年に伊丹市及び西宮市からはじめて記録された(篠原・長島, 2020)。その後、神戸市をはじめ県内数か所で調査が行われたが、本種は確認されなかった(初宿, 2021)。

今回は、都市公園内の花壇に植栽されているアサガオ類の葉裏から1個体を確認した。神戸市から初記録と思われる。

#### 謝辞

大阪市立自然史博物館の初宿成彦学芸員にはクズクビボソハムシの分布情報についてご教示頂いた。池内健氏には文献入手の際にお世話になった。ここに厚くお礼申し上げる。

#### ○参考・引用文献

南雅之・上田衛門, 2018. 日本初記録の外来種クズクビボソハムシ(新称)における知見. 月刊むし, (568): 23-25.

重藤裕彬・末長晴輝・南雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内, 特に

琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 227-243.  
篠原忠・長島聖大, 2020. 兵庫県におけるヨツモンカメノコハムシの記録. きべりはむし, 43(2): 60.  
初宿成彦, 2021. 大阪市立自然史博物館・外来生物調査プロジェクト (Project A) によるムネアカオオクロテントウ・ユーカーリハムシ・ヨツモンカメノコハムシの市民調査報告. 大阪市立自然史博物館研究報告, (75): 53-77.

## きべりはむし 投稿案内

### 1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

### 2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「兵庫昆虫同好会」と「NPO 法人こどもとむしの会」が共同で発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

### 3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

### 4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

### 5. 投稿者

「きべりはむし」には、NPO 法人こどもとむしの会正会員および賛助会員、兵庫昆虫同好会会員、学生（小学生、中学生、高校生、大学生および大学院生）ならびにきべりはむし会員のいずれかが著者に含まれる原稿を投稿することが出来ます。なお、きべりはむし会員が 1 年間に投稿できるのは、報文 2 報・短報 2 報までとなります。

### 6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでお願いします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

#### 1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) もしくは MS ワード形式 (.docx) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

#### 2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、.jpeg, .psd, .pdf などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外は行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの大さを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。

著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてください。

### 3) 引用文献

文献を引用する場合、雑誌や単行本は「著者名(年号)」または「(著者名,年号)」、ウェブサイトは「サイト作成者名(年号)」、「(サイト作成者名,年号)」または「(ウェブサイト名)」と、本文の引用箇所に書き、文末に引用文献をまとめて記載してください。引用文献の記載方法は、以下の例を参考にしてください。

- ・雑誌を引用する場合

(例1) 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃, 2000. 兵庫県産維管束植物 2. 人と自然, 11: 85 - 104.

(例2) 石原誠一, 1959a. トビイロスズメの生活史 (I). 新昆虫, 12 (2): 36 - 39.

(例3) 石原誠一, 1959b. トビイロスズメの生活史 (II). 新昆虫, 12 (7&8): 37 - 39.

(例4) Hardy, D. E., and M. Takahashi. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Namatocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

- ・単行本を引用する場合

(例5) 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans—第2巻(安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編). 全国農村教育協会, 東京. 350pp.

- ・ウェブサイトを引用する場合

(例6) 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物—神戸版レッドデータ 2015—, (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).

(例7) Web 東奥(東奥日報), 2020年8月25日, 青森県初確認? 深浦町にアカギカメムシ, <https://www.toonippo.co.jp/articles/-/399599> (参照2020年11月26日).

## 7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学農学部昆虫多様性生態学研究室

NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

## 8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

## 9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス kiberihamushi@konchukan.net までお願いいたします。

## 10. ISSN について

きべりはむしは第32巻第2号からオンラインジャーナルのPDF版が正式版となりました。これに伴い、ISSN(国際標準逐次刊行物番号:International Standard Serial Number)を取得しました。ISSNとは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

- ・参考 web サイト

ISSN 日本センター: <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>



きべりはむし 第44巻 第2号

2021年12月25日 発行

編集 きべりはむし編集委員会

発行 兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会

事務局 きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学農学部昆虫多様性生態  
科学研究室 NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>

## きべりはむし 第44巻 第2号 目次

### 【追 悼】

NPO 法人こどもとむしの会顧問 河合雅雄博士への追悼	足立隆昭	1
-----------------------------	------	---

### 【報 文】

みんなでつなぐ 初蝶リレー	久保弘幸	2-8
武田尾溪谷及びその周辺で得られた興味深い昆虫類	宇野宏樹	9-14
塩田跡地のゴミムシ・ガムシ (兵庫県初記録種)	森 正人・下野誠之	15-17
2021 年の東鉢伏高原における注目すべき蛾類について	坪田 瑛・高橋輝男	18-24
テングチョウ幼虫・蛹の色彩に見られる多型は相変異？ (予報)	竹田真木生	25-30
大阪府箕面市における 2020 年のアカギカメムシの記録	植村 貴	31-34
ハルゼミの 1 色彩変異 Note on color variant of <i>Yezoterpnosia vacua</i> from Hyogo Prefecture	児島孝宣・東野ななみ・渡邊詳丈	35
兵庫県におけるクビボソコガシラミズムシの最近の採集記録と生態的知見	脇村涼太郎・下野誠之・森 正人	36-37
ナミテントウの斑紋タイプ その2 (兵庫県朝来市・養父市)	近藤伸一	38
「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I・II・III」及び「宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年~2020 年の昆虫の記録—」の再検討 (補遺及び訂正点・正誤表)	宇野宏樹	39-43
きべりはむし掲載の報文 5 編に関する訂正点	宇野宏樹	44-45

### 【短 報】

ハラアカコブカミキリ, 北但馬に定着か	小西和夫	46
北但馬でチャイロチビヒラタカミキリを確認	小西和夫	46-47
加古川市で越冬明けウラナミシジミを初記録	島崎正美・島崎能子	47-48
シルビアシジミの珍しい挙動	島崎正美・島崎能子	48-49
兵庫県におけるカワラヒメコケムシの記録	脇村涼太郎	49
兵庫県におけるマルケシガムシの記録	脇村涼太郎	50
加西市と明石市でタイワンタケクマバチを追加確認	柴田 剛	50-51
宝塚市におけるタイワンタケクマバチの記録	宇野宏樹	51
兵庫県新温泉町におけるヒメシロシタバの記録	宇野宏樹	52
但馬高原植物園に於けるクジャクチョウの記録	広畑政巳・糸数幸高	52
三木市と明石市でマツヘリカメムシを確認	柴田 剛	53
ハナジロクチバを兵庫県香美町で採集	高橋輝男	53
ヨスジシロカギバを兵庫県朝来市生野町黒川で採集	高橋輝男	54
兵庫県高砂市でアメリカピンクノメイガを観察	島崎能子・島崎正美	54
兵庫県高砂市でイシガケチョウを観察	島崎正美	55
ウラナミジャノメがイヌツゲとノイバラの花で吸蜜	島崎正美・島崎能子	55-56
ヒメヒカゲによる吸汁とイヌツゲでの吸蜜事例	島崎正美・島崎能子	57
兵庫県宝塚市におけるウスグロチビツツハムシとヨツボシアカツツハムシの記録	宇野宏樹	58
神戸市北区における 2021 年のキシタアツバの記録 1 例	宇野宏樹	59
2021 年における兵庫県西宮市でのクロマダラソテツシジミの記録 1 例	宇野宏樹	59
兵庫県姫路市でのヨツモンエグリゴモクムシの記録	檀野将平	60
神戸市内から記録されたハムシ科移入種 2 種	吉田浩史	60-61

投稿案内		62-63
------	--	-------